

# SBIグループ インフォメーションミーティング

2006年5月19日～25日

SBIホールディングス株式会社

代表取締役執行役員CEO 北尾吉孝

本資料に掲載されている事項は、SBIグループ各社の業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、各社の発行する株式その他の有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。なお、各社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。また、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

# 第1部

過去最高の決算と

全部門で予見される更なる飛躍

# 2006年3月期 連結決算業績

(単位:百万円)

|       | 2005年3月期<br>通期           | 2006年3月期<br>通期 <small>※1</small> | 前年同期比<br>増減率(%) |
|-------|--------------------------|----------------------------------|-----------------|
| 売上高   | 81,511                   | 137,247 <small>※2</small>        | + 68.4          |
| 営業利益  | 24,869                   | 49,595 <small>※2</small>         | + 99.4          |
| 経常利益  | 27,291                   | 51,365                           | + 88.2          |
| 当期純利益 | 25,631 <small>※3</small> | 45,884 <small>※3</small>         | + 79.0          |

※1 SBIパートナーズの連結業績につきましては、2005年9月から合併前の2006年2月までの業績を加算しております。

※2 従来表示区分から、売上高3,196百万円、売上原価366百万円を減じ、その差額2,830百万円の営業利益相当額を特別利益としました。

※3 2005年3月期はイー・トレード証券のみなし売却等に伴う133億円の特別利益を、2006年3月期はイー・トレード証券のみなし売却に伴う230億円の特別利益をそれぞれ計上しております。

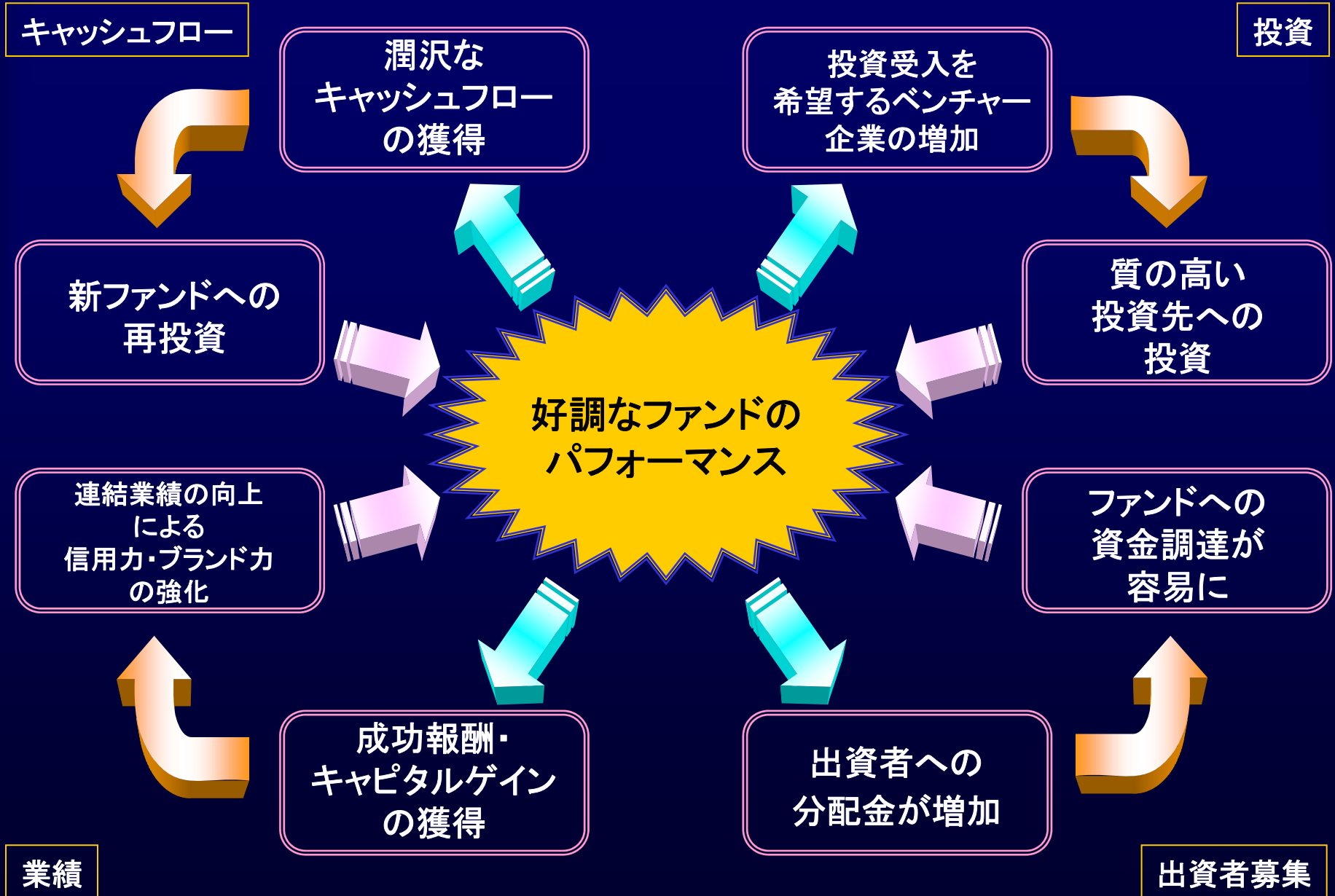
# 前期決算のハイライト

---

- ① 全事業が極めて好調に推移し、売上高・営業利益・経常利益・当期純利益の全てにおいて過去最高を大幅に更新した。
- ② すべての部門で将来の飛躍を予見できるような事象が随所に見られる。
  - 1) 好循環サイクルに入ったアセットマネジメント事業
  - 2) 圧倒的な競争優位性を有し、いよいよ競争の最終段階を迎える証券関連事業
  - 3) 「貯蓄から投資へ」「ブロードバンド化の進展」「制度改革」の流れに乗り良好な事業環境が更に好転するファイナンシャル・サービス事業

# 1) 好循環サイクルに入った アセットマネジメント事業

# アセットマネジメント事業の好循環サイクル



# ① 好調を続ける運営ファンド群

# 分配実績を積み上げる運営ファンド群

2006年3月末までに6ファンドで総額818億円を分配

(単位:億円)

|                | ファンド<br>総額 | 累積<br>分配 | うちSBIH<br>受領額 |
|----------------|------------|----------|---------------|
| ITファンド         | 1,505      | 575      | 196           |
| コンテンツファンド      | 94         | 94       | 50            |
| SBI・LBO・ファンド1号 | 50         | 47       | 21            |
| 企業再生ファンド一号     | 104        | 91       | 54            |
| VR企業再生ファンド     | 10         | 9        | —             |
| SBIメザニンファンド2号  | 83         | 2        | 1             |
| 合計             | 1,846      | 818      | 322           |



# ITファンド1号・2号の今期の現金分配予定

## 2006年8月末頃、出資者への現金分配を実施予定

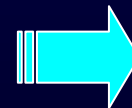
|          | 2005年8月 | 2006年8月末<br>(予定) | 出資金1億円あたり<br>現金分配合計(予定) |
|----------|---------|------------------|-------------------------|
| ITファンド1号 | 3,000万円 | 約1億円             | 約1億3,000万円              |
| ITファンド2号 | 3,300万円 | 約9,000万円         | 約1億2,300万円              |

### ITファンド1号・2号分配総額:

2005年8月 約411億円

2006年8月末(予定) 約1,248億円

合計(予定) 約1,659億円



SBI受取予定額  
527億円

# 主要ファンドの今後のパフォーマンス見通し

ファンド合わせ現時点で累計2,832億円を分配する見通し

(2006年5月16日現在の見込み)

(単位:億円、%)

|                | ファンド<br>総額 | 総分配額<br>(見込) | IRR  | グロス <sup>※</sup><br>IRR |
|----------------|------------|--------------|------|-------------------------|
| ITファンド         | 1,505      | 2,508        | 8.3  | 19.6                    |
| SBI・LBO・ファンド1号 | 50         | 107          | 17.7 | 60.3                    |
| 企業再生ファンド一号     | 104        | 196          | 24.9 | 111.9                   |
| VR企業再生ファンド     | 10         | 19           | 27.1 | 111.0                   |
| 合計             | 1,669      | 2,832        | —    | —                       |

※個別案件ごとの投資・回収キャッシュ・フローから算出したIRRで、管理報酬・成功報酬等は考慮されておりません。

※分配金については過年度からの累計になります。

# 国内他ファンドと比較して圧倒的に高いパフォーマンス

国内のベンチャーキャピタルファンドと比較し、  
非常に高パフォーマンスを達成

(単位:%)

| 開始時期  | ファンド名              | IRR  | 同年JAFCO<br>との比較 | IRR |
|-------|--------------------|------|-----------------|-----|
| 2000年 | ITファンド             | 8.3  | JAFCO G7(A)(B)  | 1.4 |
| 2001年 | SBI・LBO・ファンド<br>1号 | 17.1 | —               | —   |
| 2002年 | 企業再生ファンド<br>一号     | 24.9 | JAFCO G9(A)     | 3.6 |
|       | VR企業再生ファンド         | 27.1 | JAFCO G7(B)     | 7.8 |

# ファンド投資回収によるSBIHへの好影響

SBIHは6ファンドで総額379億円を受領し、  
潤沢なキャッシュを獲得(2006年5月現在)

(単位:億円)

|                | ファンド総額 | 累積分配 | 内SBIH<br>既受領額 | 8月末までの<br>SBIH<br>受領見込合計額 |
|----------------|--------|------|---------------|---------------------------|
| ITファンド         | 1,505  | 575  | 196           | 723                       |
| コンテンツファンド      | 94     | 94   | 50            | 50                        |
| SBI・LBO・ファンド1号 | 50     | 82   | 37            | 48                        |
| 企業再生ファンド一号     | 104    | 160  | 95            | 117                       |
| VR企業再生ファンド     | 10     | 15   | —             | —                         |
| SBIメザニンファンド2号  | 83     | 2    | 1             | 1                         |
| 合計             | 1,846  | 928  | 379           | 939                       |

# 未公開株組入ファンドⅠ・Ⅱは好調な パフォーマンスにて償還

Lipper Fund Awards Japan 2006  
最優秀ファンド賞受賞

I・Ⅱの好調なパフォーマンスを背景に、  
未公開株組入ファンドⅢは  
210億円を募集完了

## 未公開株組入ファンドⅠ（償還済）

|        |                |
|--------|----------------|
| 運用開始   | 2000年7月        |
| 償還日    | 2006年3月3日      |
| 最終償還価格 | <u>21,742円</u> |

## 未公開株組入ファンドⅡ（償還済）

|        |                |
|--------|----------------|
| 運用開始   | 2001年6月        |
| 償還日    | 2005年10月12日    |
| 最終償還価格 | <u>19,660円</u> |

# SBI証券で募集する jnextの純資産総額・基準価額の推移

純資産総額  
(百万円)

(委託会社 SBIアセットマネジメント)

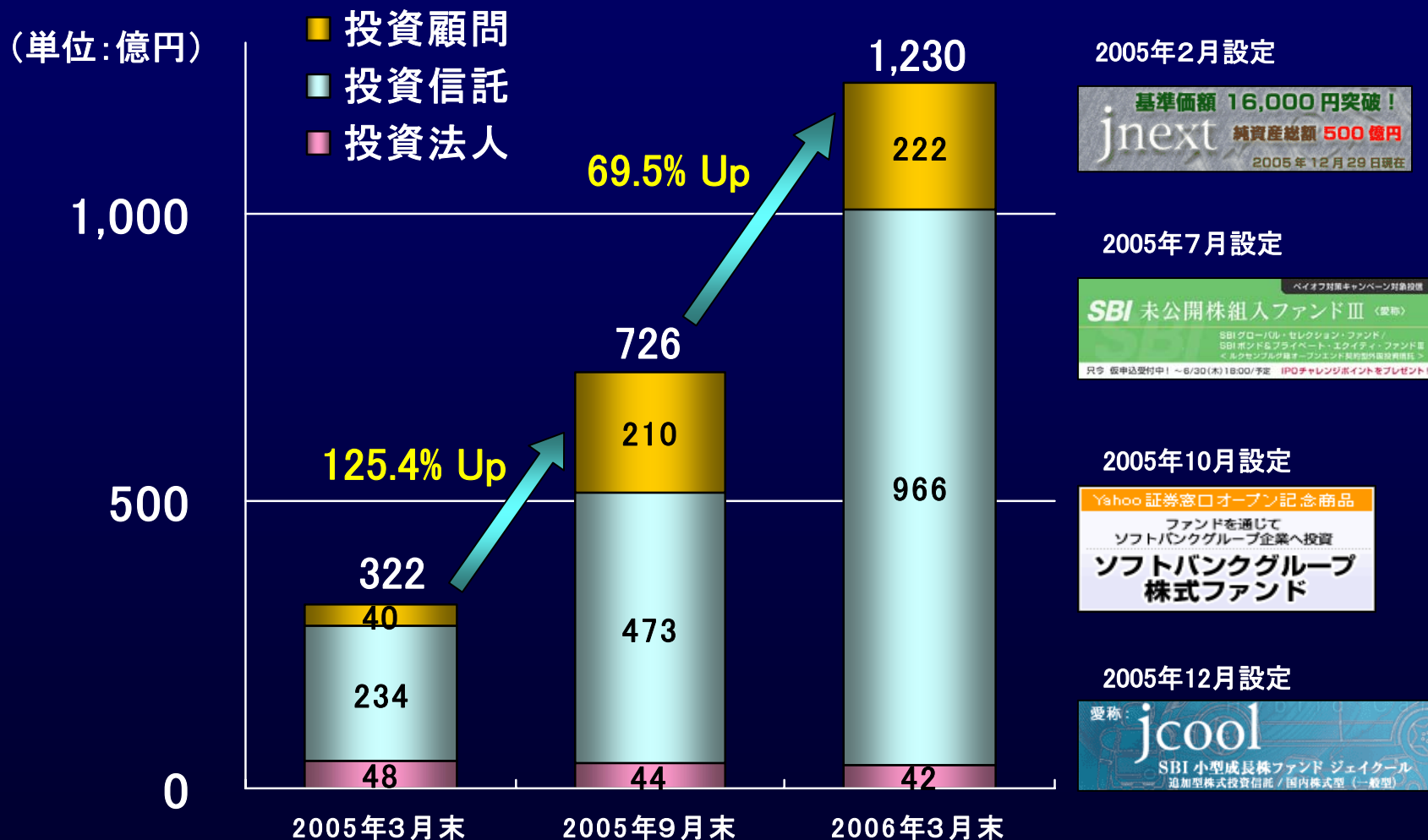
基準価額  
(円)



基準価額は年率換算約51%を超える上昇

# 運用資産の積み上げ ～SBIアセットマネジメント～

## 続々と新商品を提供し、運用資産を拡大



# 現在のSBIグループファンド運用規模

(2006年3月末現在)

## 総額 5,590億円

IT・バイオ ファンド  
合計 3,734億円

|         |         |
|---------|---------|
| ITファンド  | 2,459億円 |
| BBファンド  | 513億円   |
| バイオファンド | 99億円    |
| その他     | 663億円   |

バイアウト・メザニン ファンド  
合計 275億円

|          |       |
|----------|-------|
| LBOファンド  | 61億円  |
| 企業再生ファンド | 96億円  |
| メザニンファンド | 110億円 |
| その他      | 8億円   |

投資信託・投資顧問等  
合計 1,230億円

|      |       |
|------|-------|
| 投資信託 | 966億円 |
| 投資顧問 | 222億円 |
| 投資法人 | 42億円  |

不動産 ファンド  
合計 351億円

|      |       |
|------|-------|
| 稼動物件 | 260億円 |
| 開発案件 | 91億円  |



## ② 新規ファンドの設立

# 「モバイルファンド」 新規設立へ

インターネット産業  
の市場規模

モバイル関連企業へ  
投資

ブロードバンド関連企業へ投資

国内のインターネット  
関連企業へ投資

モバイルファンド  
合計420億円を  
目指す

米国のインターネット  
関連企業へ投資

ソフトバンク・インターネット  
テクノロジーファンド

SBI ブロードバンドファンド  
SBI ビービーメディアファンド

ソフトベン2号

ソフトバンクベンチャーズ

ユビキタスへ 時間

95' ~ 96'

99' ~ 00'

04' ~ 05'

06' ~

米国のインターネット産業成長期 日本インターネット産業成長期

ブロードバンド産業成長期

モバイル&ワイヤレス産業成長期

SBIグループの  
投資フェーズ

米国企業向け  
ファンド設立

インターネットへ

ブロードバンドへ

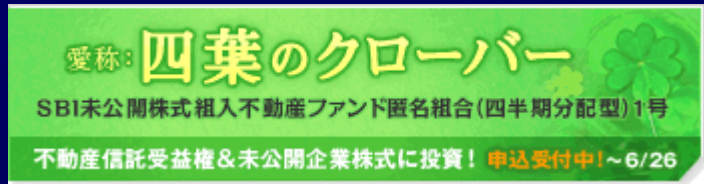
メディアへ

モバイル&ワイヤレス

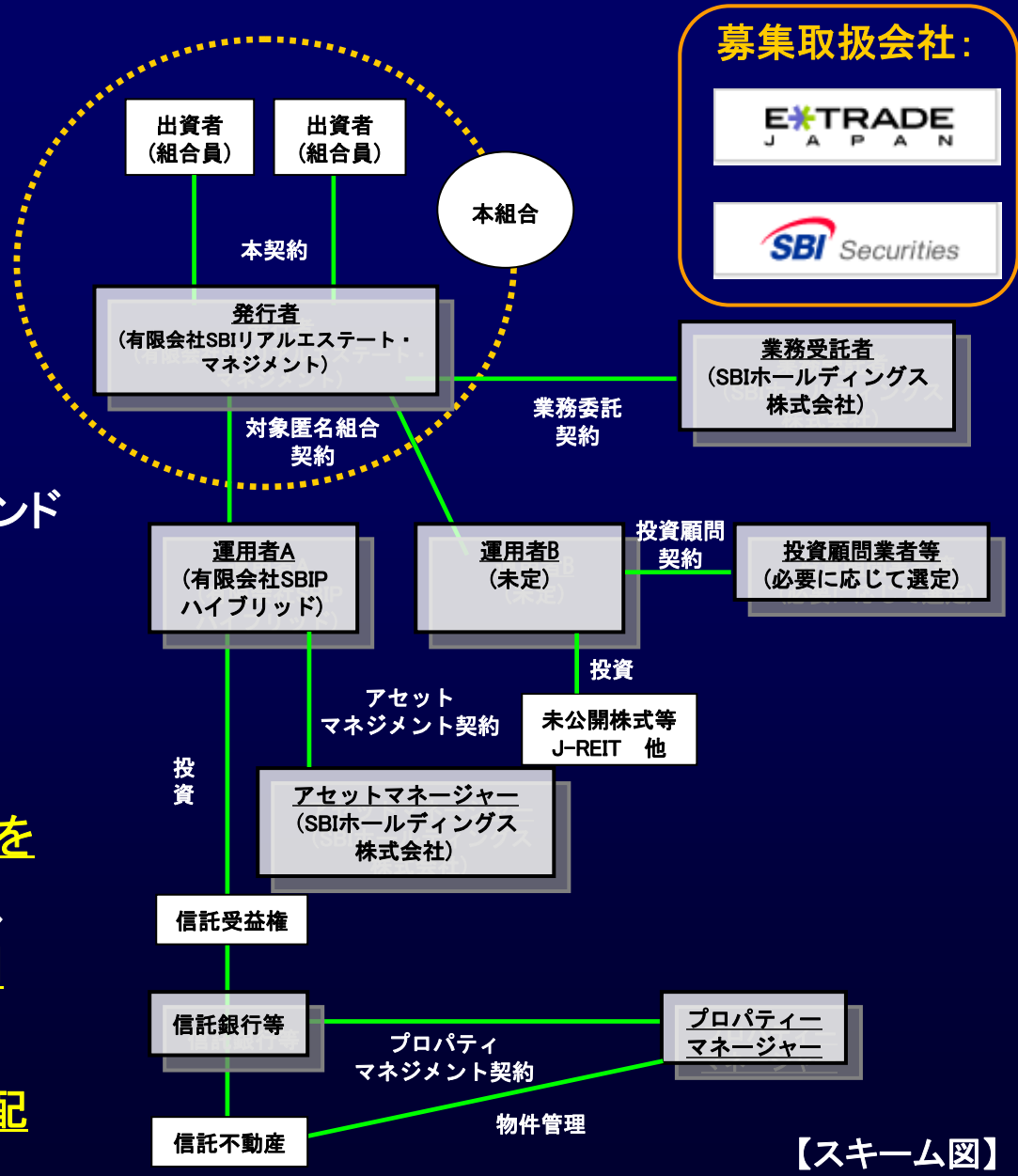
SBIグループは今後、年金資金の取り込みも目指す

# “未公開株式組入”不動産ファンドの組成

**第1弾を150億円上限で募集中**  
**第2弾も100億円規模を予定**



(概要)  
 名称: SBI未公開株式組入不動産ファンド  
 匿名組合(四半期分配型)1号  
 愛称: 四葉のクローバー  
 総額: 150億円を上限とする  
 投資対象:  
 匿名組合出資金のおおむね**80%以上**を  
 間接的に**不動産信託受益権に投資**し、  
 また**20%を上限として間接的に未公開  
 株式等に投資**  
 分配方針: 原則として**四半期ごとの分配**



【スキーム図】

# SBIキャピタルによる首都圏再生ファンド・バリューアップファンド設立

## ①東京都の「新銀行東京」を主たる投資家とする首都圏企業再生ファンドの設立

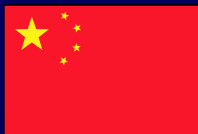


## ②国内中小型公開株を対象とするバリューアップ投資(予定)

③ 海外金融機関との連携強化により  
中国・インドを中心として投資を行い  
高いパフォーマンスを追求

# 海外金融機関との資本関係を含めた 金融・投資分野での連携強化を目指す

中国



- ・シンガポールのテマセクと共同で投資ファンド設立
- ・北京駐在員事務所の開設
- ・联想グループのLegend Capital 運営ファンドへの出資

インド



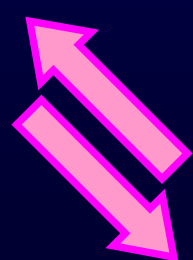
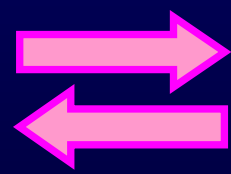
- ・タタ財閥運営ファンドへの出資
- ・インドの代表的金融機関とのVC 合併設立を検討
- ・インド株式ファンドの日本での販売 (検討中)

韓国



- ・有力ビジネスパートナーとの資本関係を含めたタイアップ (検討中)

 SBI Holdings



2) 圧倒的な競争優位性を有し  
いよいよ競争の最終段階を迎える  
証券関連事業

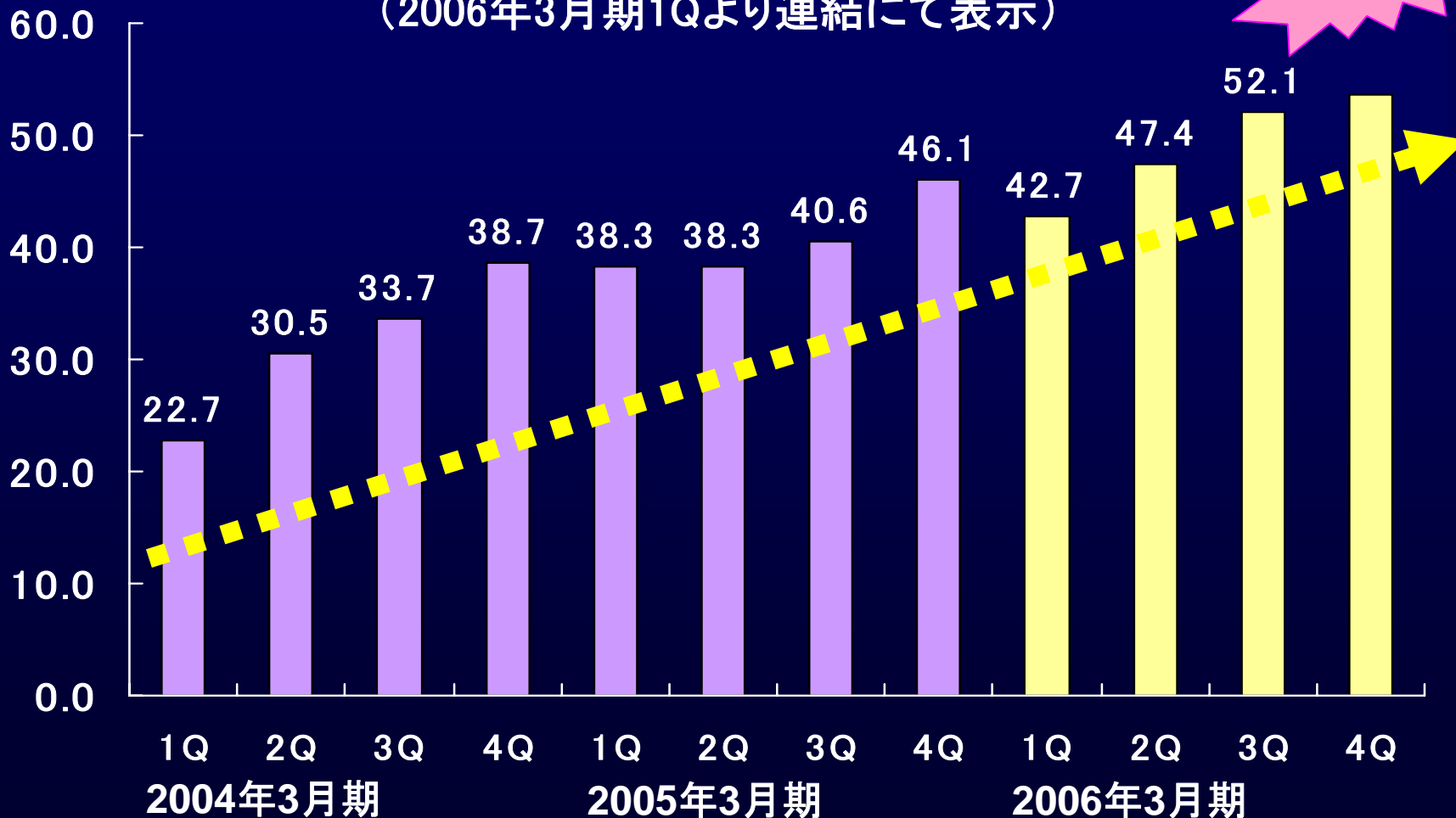
① 収穫逦増のビジネスモデルを  
実現したイー・トレード証券



# 収穫逦増のビジネスモデルの実現 - 四半期毎の経常利益率の推移 - (単体では56.0%)

## (%) イー・トレード証券の経常利益率の推移 **53.7%**

(2006年3月期1Qより連結にて表示)



※ 経常利益÷営業収益にて算出

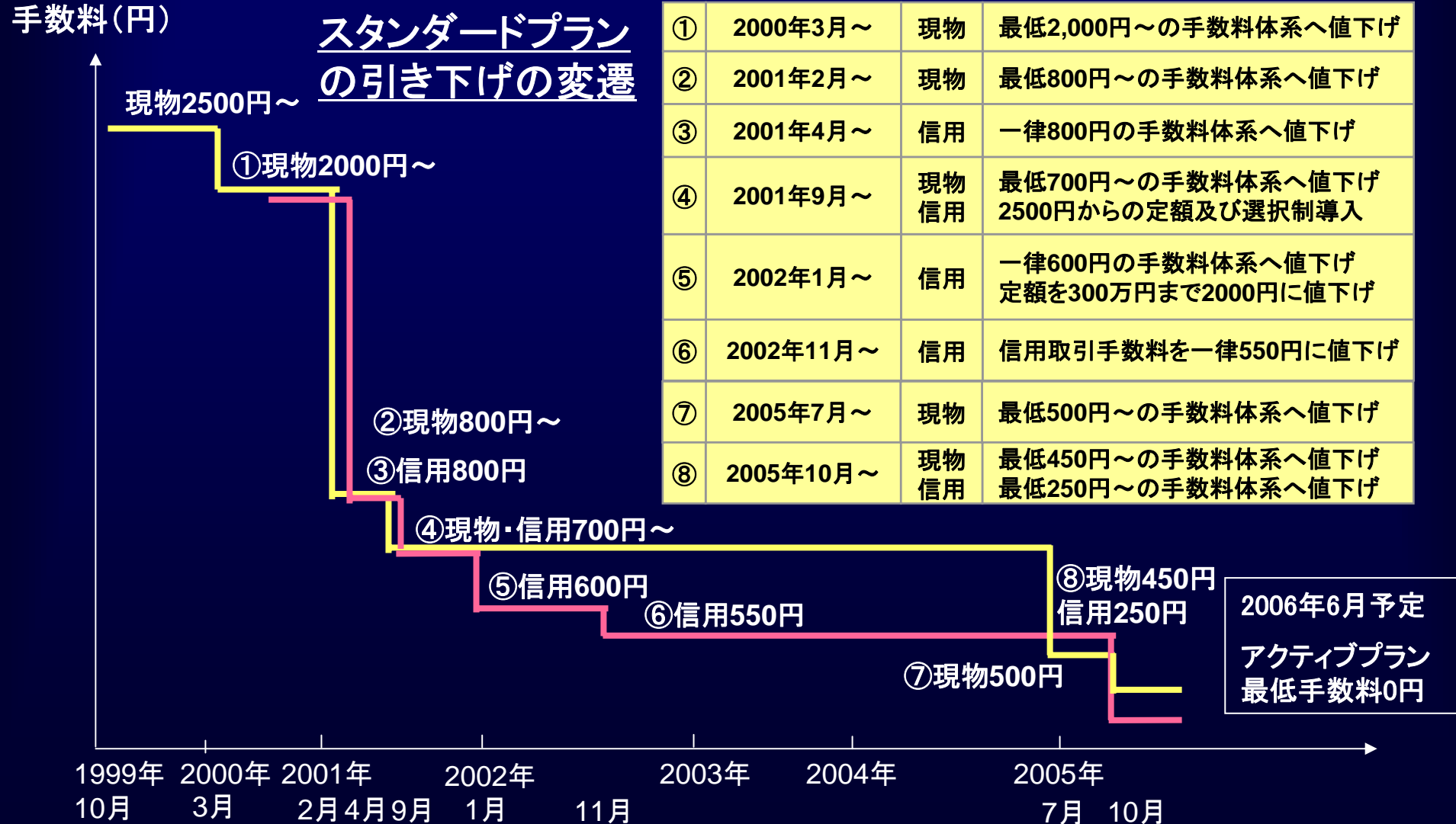
# 株式委託手数料の段階的引き下げを 実施してきたイー・トレード証券

1999年10月 手数料自由化

## ■手数料引き下げの変遷

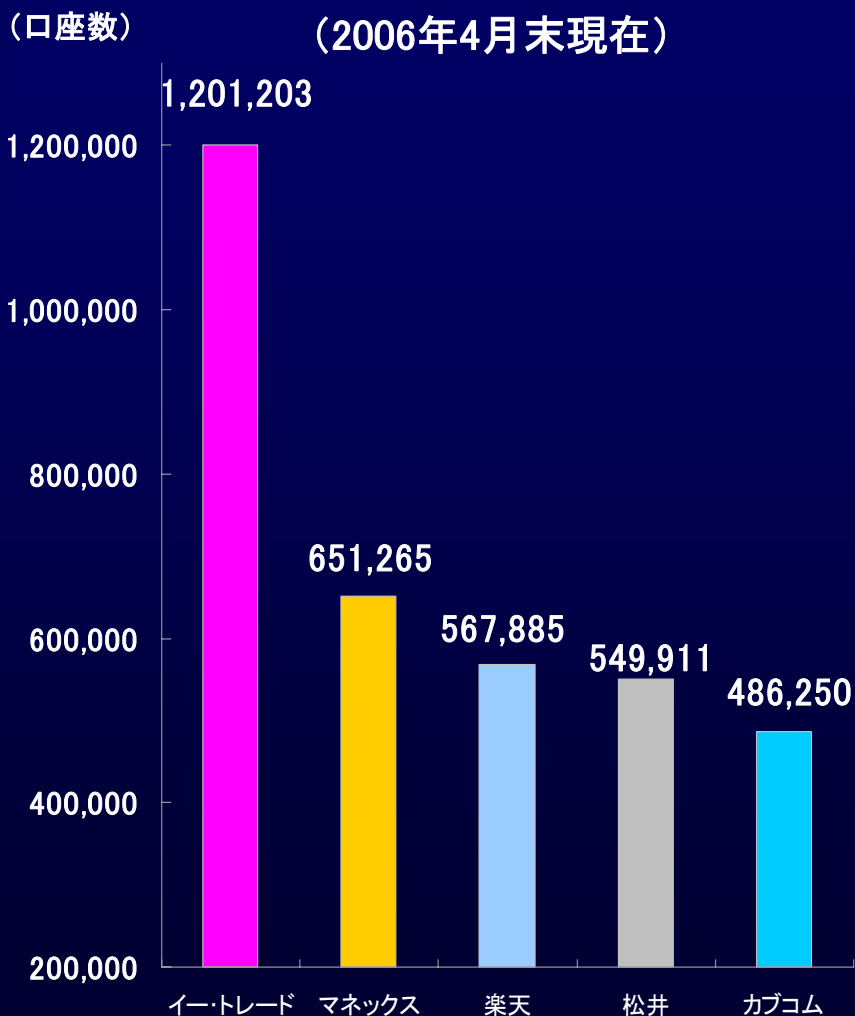
|   |           |          |  |
|---|-----------|----------|--|
| ① | 2000年3月～  | 現物       | 最低2,000円～の手数料体系へ値下げ                    |
| ② | 2001年2月～  | 現物       | 最低800円～の手数料体系へ値下げ                      |
| ③ | 2001年4月～  | 信用       | 一律800円の手数料体系へ値下げ                       |
| ④ | 2001年9月～  | 現物<br>信用 | 最低700円～の手数料体系へ値下げ<br>2500円からの定額及び選択制導入 |
| ⑤ | 2002年1月～  | 信用       | 一律600円の手数料体系へ値下げ<br>定額を30万円まで2000円に値下げ |
| ⑥ | 2002年11月～ | 信用       | 信用取引手数料を一律550円に値下げ                     |
| ⑦ | 2005年7月～  | 現物       | 最低500円～の手数料体系へ値下げ                      |
| ⑧ | 2005年10月～ | 現物<br>信用 | 最低450円～の手数料体系へ値下げ<br>最低250円～の手数料体系へ値下げ |

## スタンダードプラン の引き下げの変遷

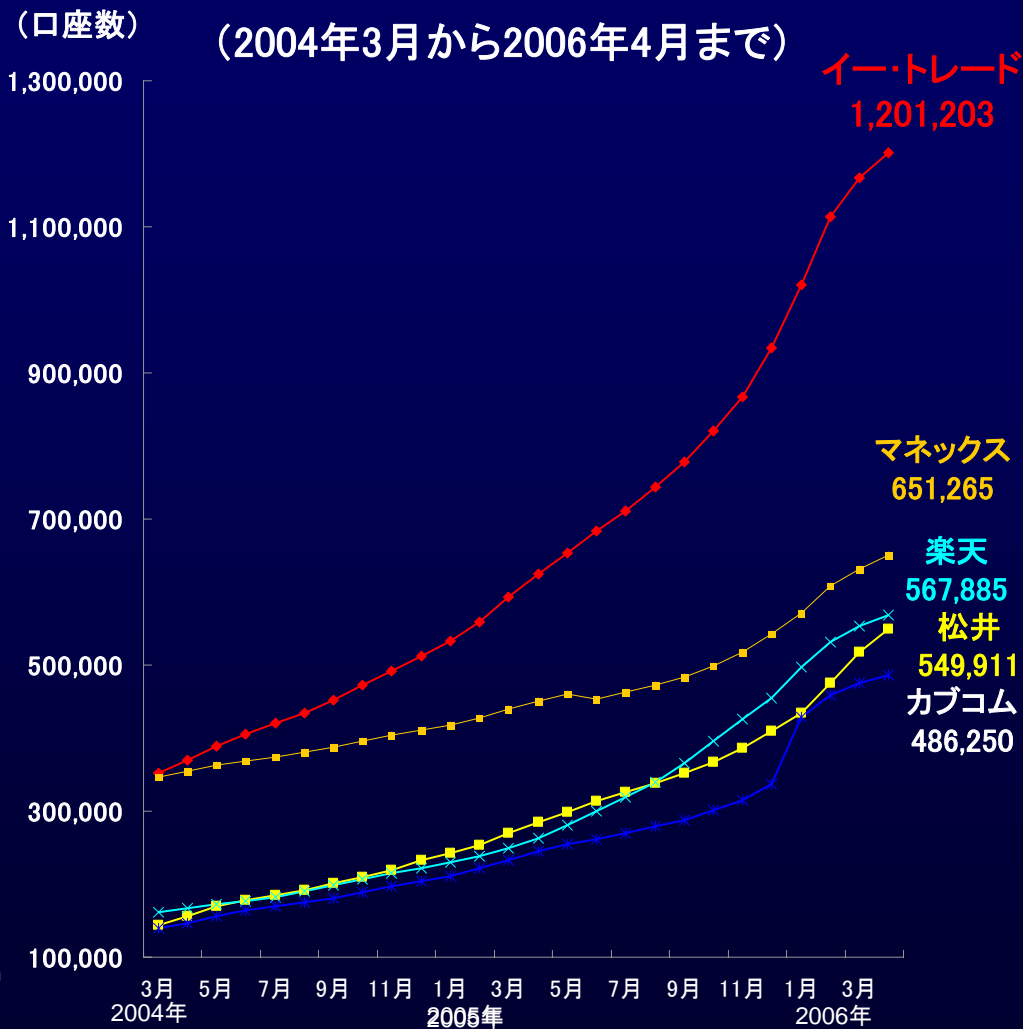


# 主要オンライン証券の口座数比較

## 主要オンライン証券5社の口座数



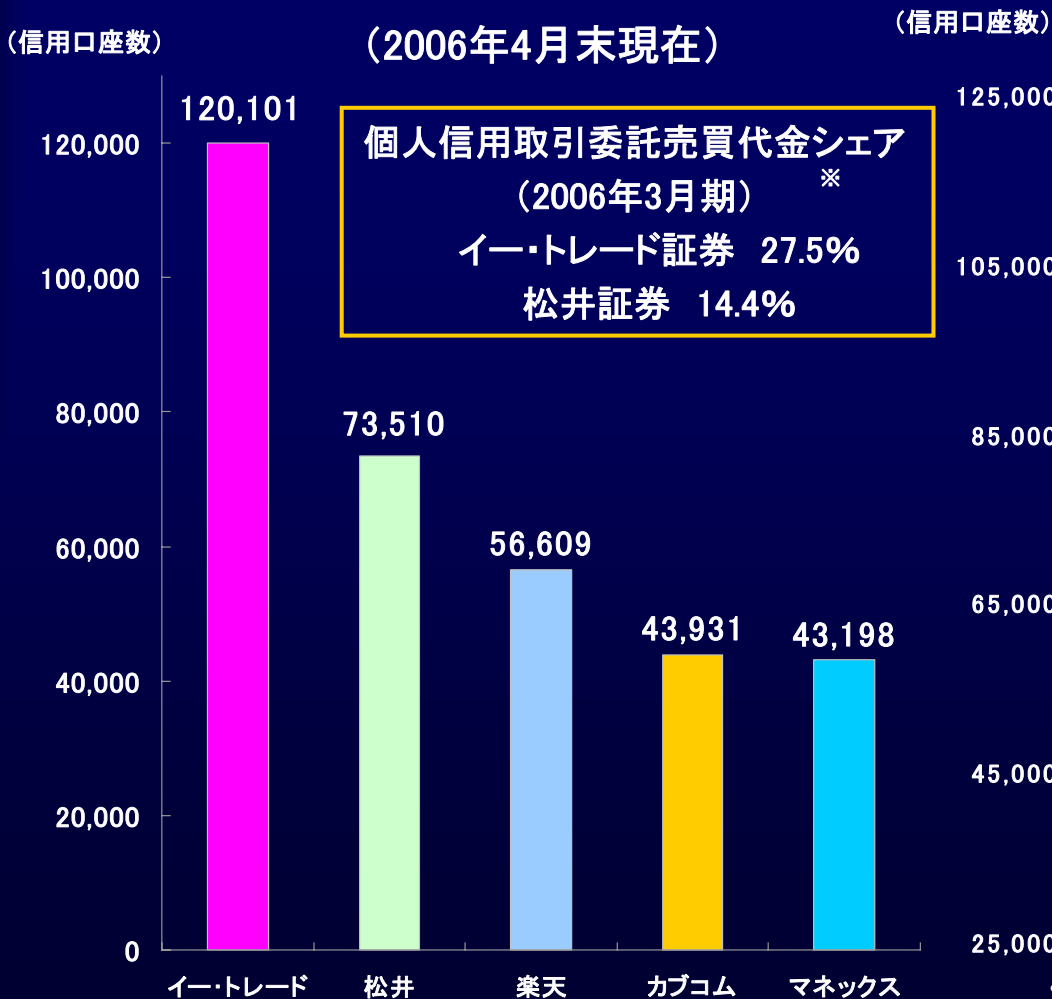
## 口座数推移



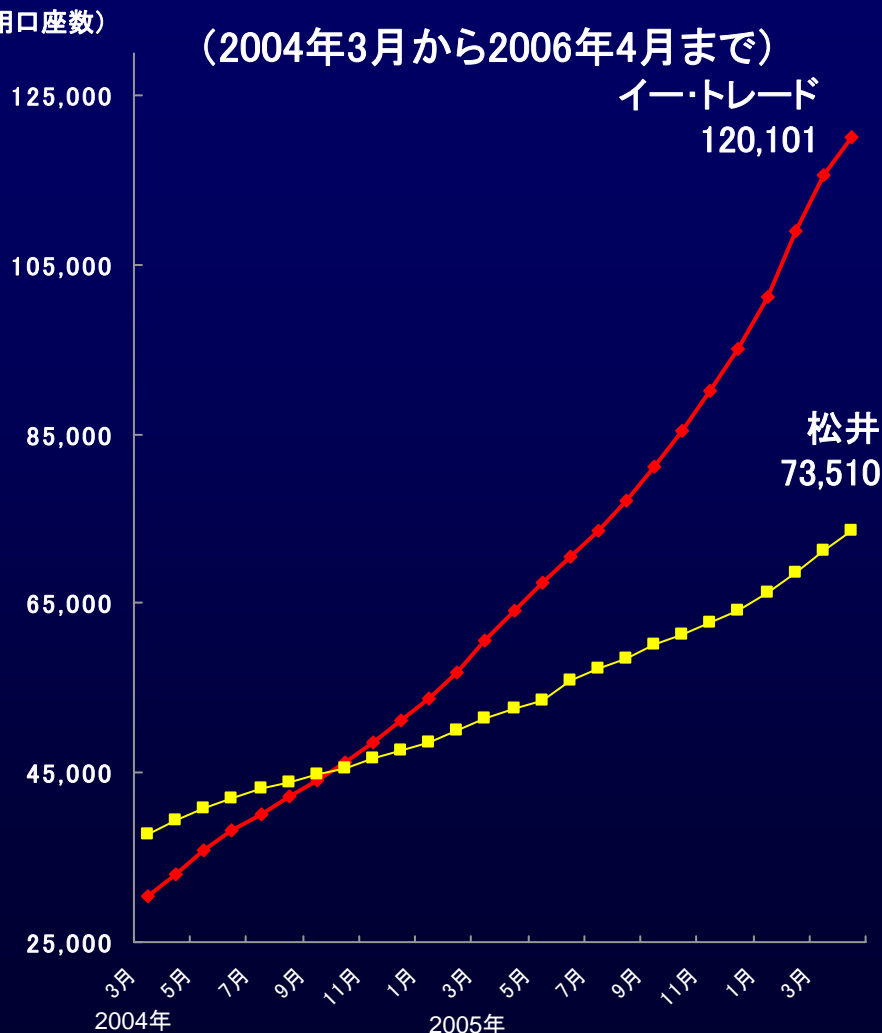
出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
 ※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。  
 カブドットコム証券は2006年1月1日にMeネット証券と合併

# 主要オンライン証券との信用口座数比較

## 主要オンライン証券5社の信用口座数



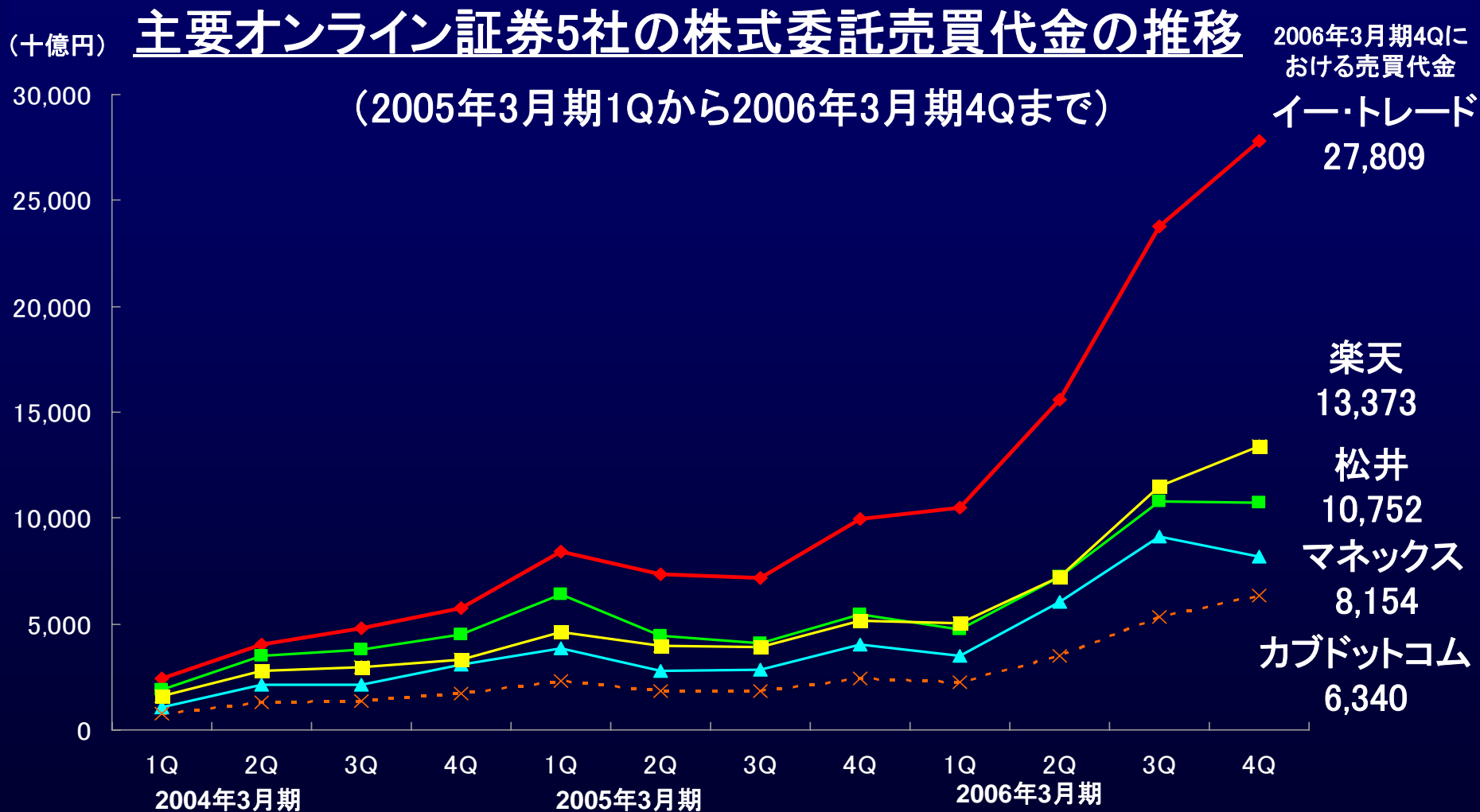
## 松井証券との信用口座数比較



※ 個人信用取引委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。  
カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併。

# 主要オンライン証券の株式委託売買代金推移



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

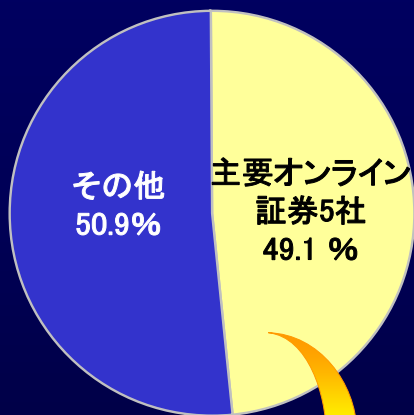
※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。  
 カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

# 主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

過去3年間の同期間比較(通期:2005年4月～2006年3月)

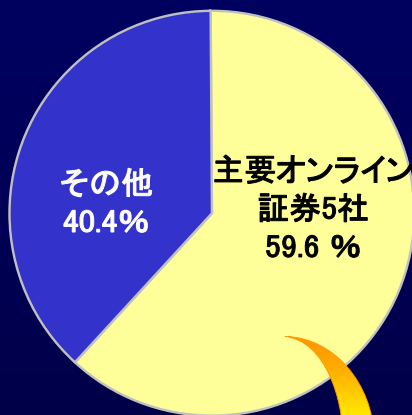
第4Qは  
24.9%

2004年3月期  
(2003年4月～2004年3月)



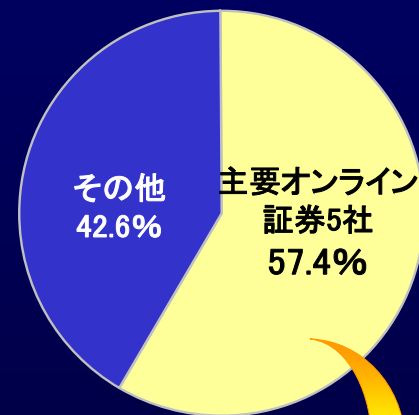
|           |       |
|-----------|-------|
| イー・トレード   | 15.2% |
| 松井証券      | 12.2  |
| DLJ(楽天証券) | 9.5   |
| マネックス     | 7.5   |
| カブドットコム   | 4.6   |

2005年3月期  
(2004年4月～2005年3月)



|         |       |
|---------|-------|
| イー・トレード | 21.1% |
| 松井証券    | 13.1  |
| 楽天証券    | 11.3  |
| マネックス   | 8.7   |
| カブドットコム | 5.4   |

2006年3月期  
(2005年4月～2006年3月)



|         |       |
|---------|-------|
| イー・トレード | 23.1% |
| 楽天証券    | 11.1  |
| 松井証券    | 10.0  |
| マネックス   | 8.0   |
| カブドットコム | 5.2   |

出所: 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
 ※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算  
 ※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。  
 カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

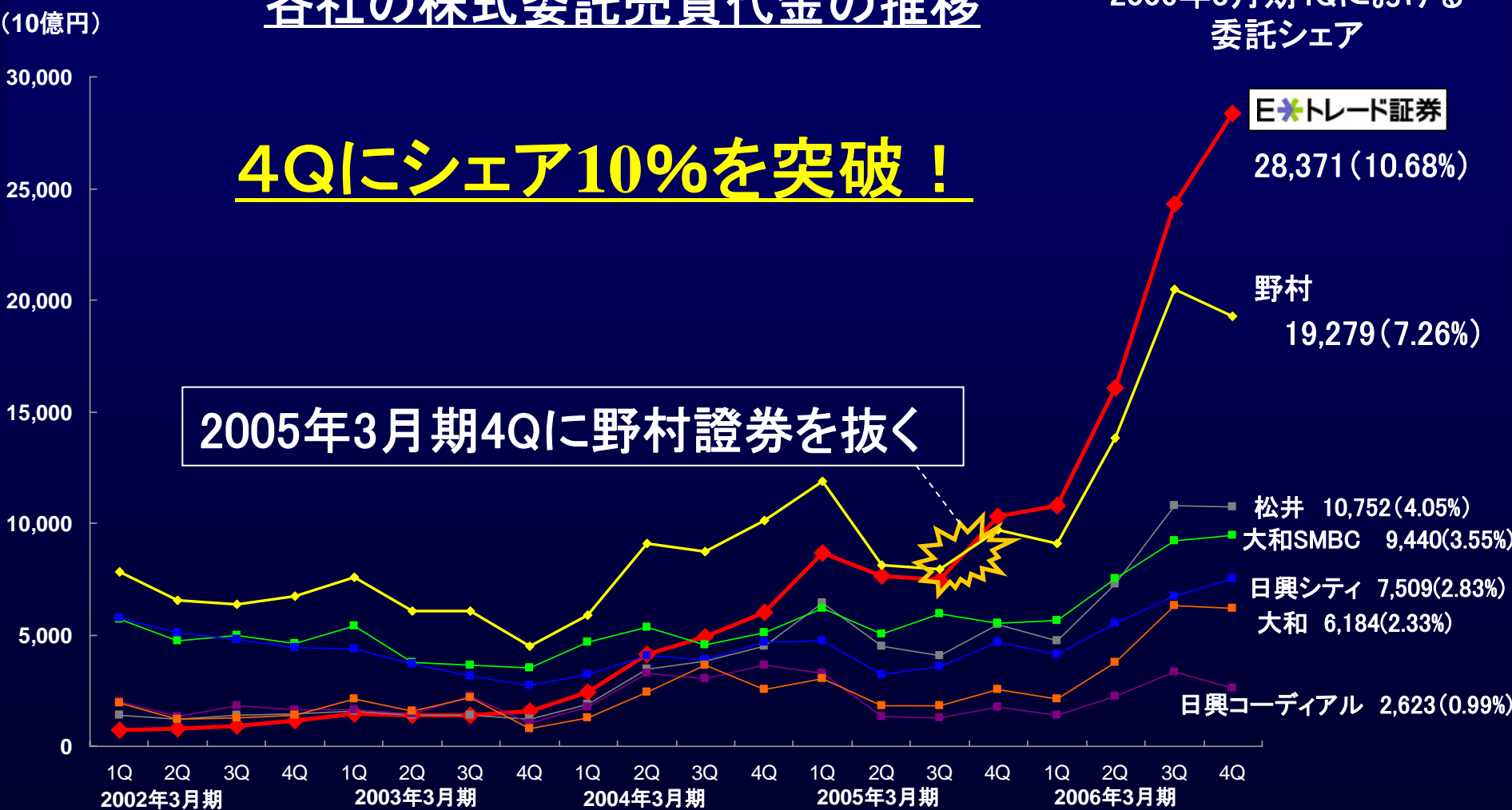
# 3大証券会社との株式委託売買代金比較

## 各社の株式委託売買代金の推移

2006年3月期4Qにおける委託シェア

**4Qにシェア10%を突破！**

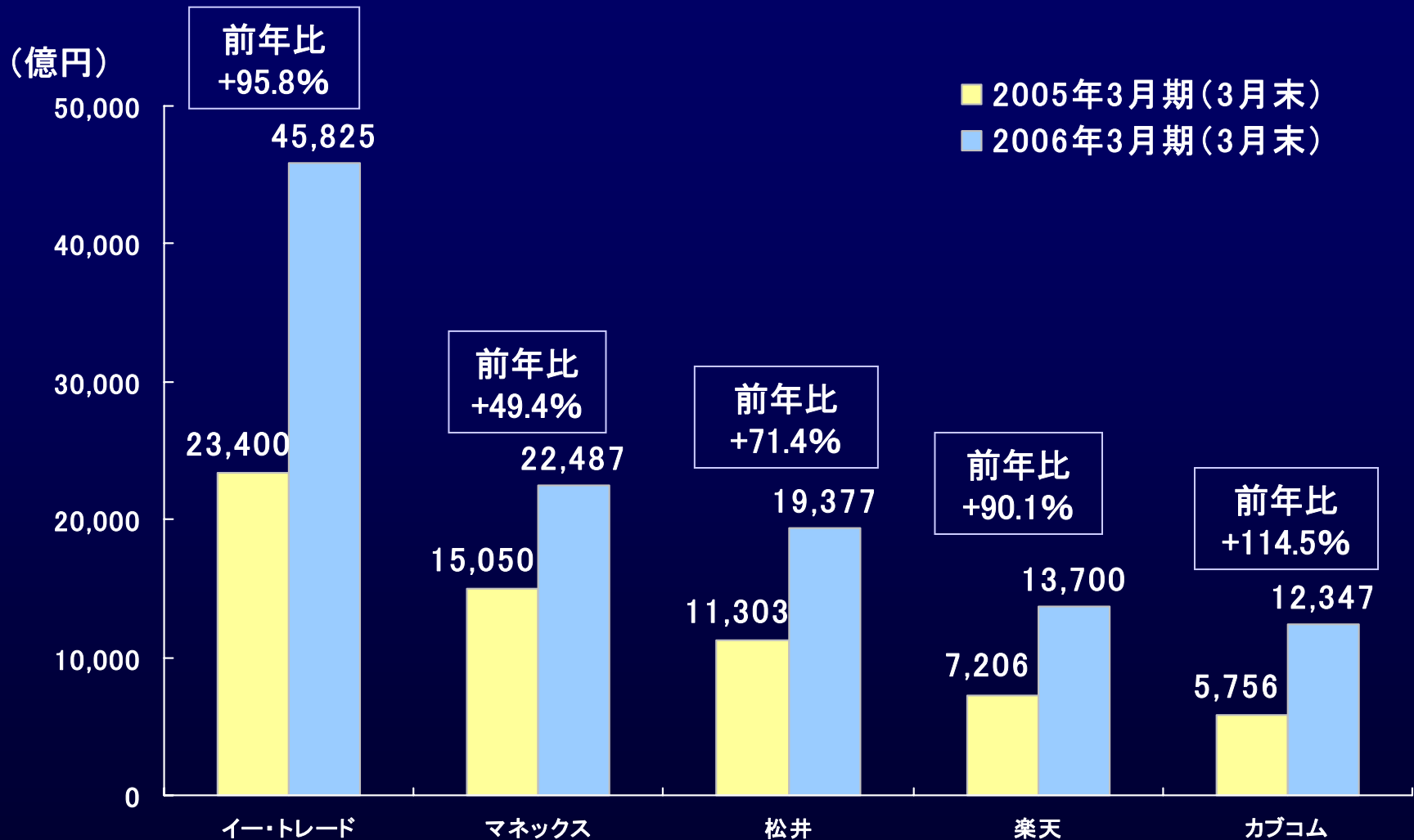
2005年3月期4Qに野村證券を抜く



出所：証券会社各社・東証の公表数値をもとに当社作成（イー・トレード証券分には海外投資家からの注文を含みます）

（単位：10億円、括弧内各社委託売買代金を3市場委託で除したシェア）

# 預り資産の推移



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社集計

※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。

カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併



# 主要オンライン証券の経常利益比較

(単位 百万円)

|                | 2006年<br>3Q  | 2006年<br>4Q   | 前四半期比<br>増減率(%) |
|----------------|--------------|---------------|-----------------|
| <b>イー・トレード</b> | <b>8,165</b> | <b>10,014</b> | <b>+22.6</b>    |
| 松井証券           | 11,176       | 11,860        | +6.1            |
| マネックス(MBH)     | 8,312        | 7,842         | -5.6            |
| カブドットコム        | 3,826        | 4,341         | +13.5           |
| 楽天(非上場)        | 5,392        | 5,347         | -0.8            |

ブローカレッジがNo.1になれば  
 アンダーライティング等他のビジネスも急拡大する  
 株式売買委託手数料依存度はネット証券で最低の61.1%を達成

ネット証券各社の株式手数料依存度

|           | 株式依存度<br>(%) |
|-----------|--------------|
| イー・トレード証券 | 61.1         |
| 松井証券      | 68.4         |
| MBH       | 69.3         |
| カブドットコム証券 | 74.4         |

大手証券各社の株式手数料依存度

|                 | 株式依存度<br>(%) |
|-----------------|--------------|
| 大和証券Gr.         | 14.0         |
| 日興<br>コーディアルGr. | 18.6         |
| 野村証券(※1)        | 24.4         |

出典:2006年5月8日 日経金融新聞  
 株式依存度は連結ベースの株式売買  
 委託手数料を営業収益で除して算出。  
 (※1)野村証券は単独で算出。

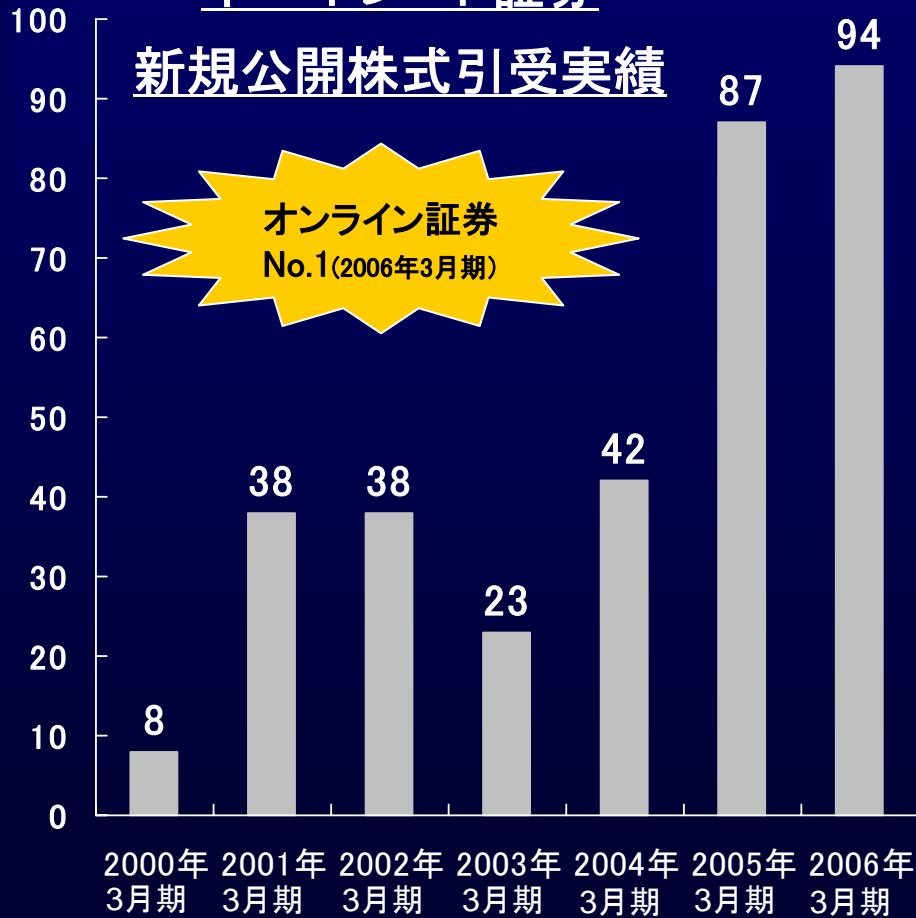
# IPO引受実績

(引受社数)

## イー・トレード証券

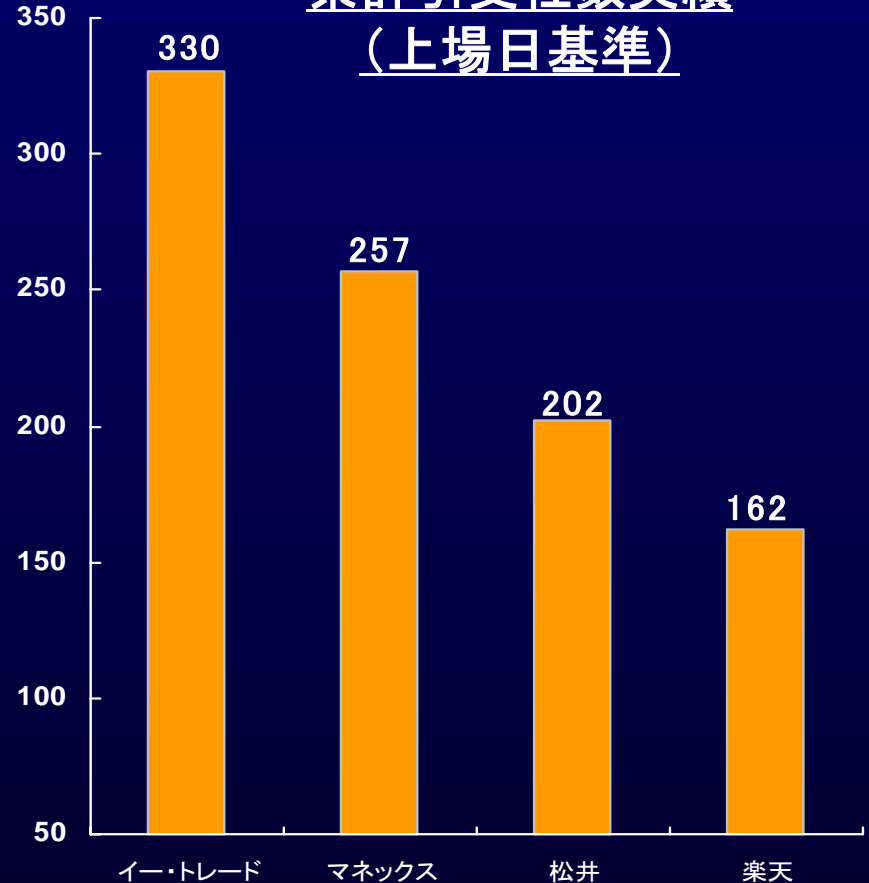
### 新規公開株式引受実績

オンライン証券  
No.1(2006年3月期)



(引受社数)

## 累計引受社数実績 (上場日基準)



出所:各社公表資料等より当社にて集計。各社のオンライン取引創業から2006年3月末日(上場日ベース)まで。

※ 委託販売、不動産投信を除く

## ② ジョインベスト証券の参入について

i) ジョインベスト証券のキャンペーン効果を  
減殺する手数料戦略第1弾

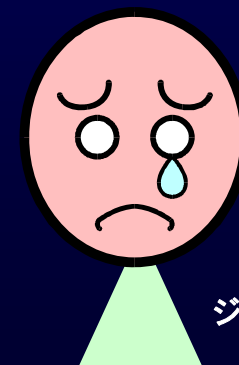
# ジョインベスト証券手数料発表の翌日にキャンペーン手数料を発表

## ジョインベスト証券との手数料比較(1)

### 【定額手数料(現物)】 キャンペーン適用手数料

| 一日の売買代金     | ジョイン<br>ベスト | イー・<br>トレード |
|-------------|-------------|-------------|
| 10万円以下      | 200         | <u>0</u>    |
| 10-20万円以下   |             | 200         |
| 20-30万円以下   | 450         | <u>315</u>  |
| 30-50万円以下   |             | 450         |
| 50-100万円以下  | 800         | 800         |
| 100-200万円以下 | 1,220       | 1,220       |
| 200-300万円以下 | 1,640       | 1,640       |

キャンペーン時に  
お客が一気に  
増えるはず  
だったのに...



ジョインベスト証券

(ジョインベスト証券は9/30、イー・トレード証券は8/31までの適用手数料)

# ジョインベスト証券との手数料比較(2)

## 【取引ごと手数料(現物)】

### キャンペーン適用手数料

|                   | ジョインベスト             | イー・トレード      |
|-------------------|---------------------|--------------|
| 10万円以下            | ※ 100               | 100          |
| 10-20万円以下         |                     |              |
| 20-50万円以下         | 400                 | 400          |
| 50-100万円以下        | 750                 | 750          |
| 100-150万円以下       | 900                 | 900          |
| 150万-3000万円<br>以下 | 1,400               | 1,400        |
| 3000万円超           | 500万円増す<br>ごとに+500円 | <b>1,575</b> |

キャンペーン時に  
お客が一気に  
増えるはず  
だったのに...



ジョインベスト証券

## ii) 手数料戦略第2弾:

8月30日以降、他のオンライン証券の動向および  
キャンペーン終了後のジョインベスト証券の  
動向を見た上で決定する予定



業界最低水準の維持

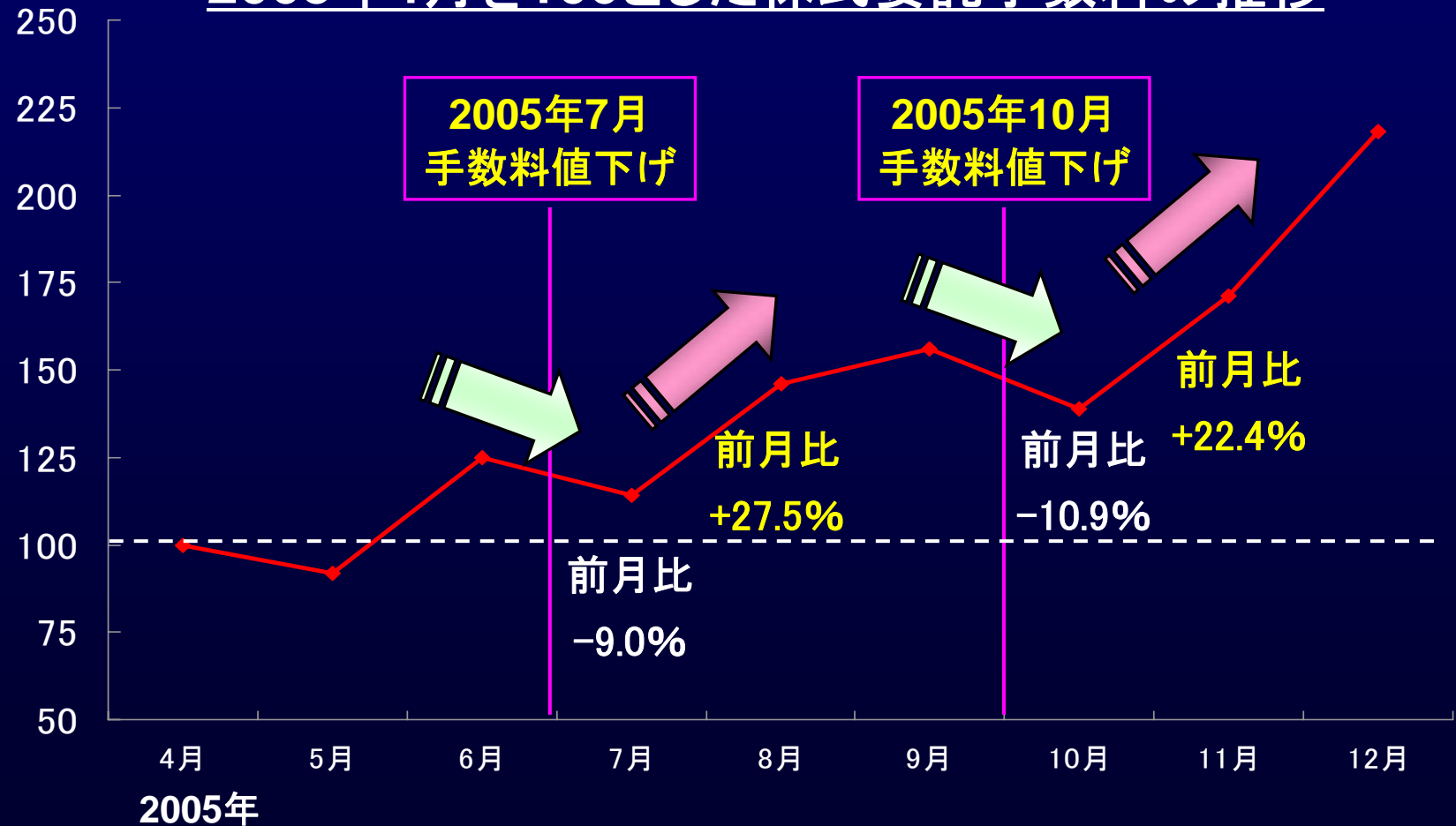


# 手数料値下げに伴う委託手数料への影響

手数料を値下げした月は委託手数料が減少したが、取引量の増加により翌月から引き下げ前を上回った

(指数)

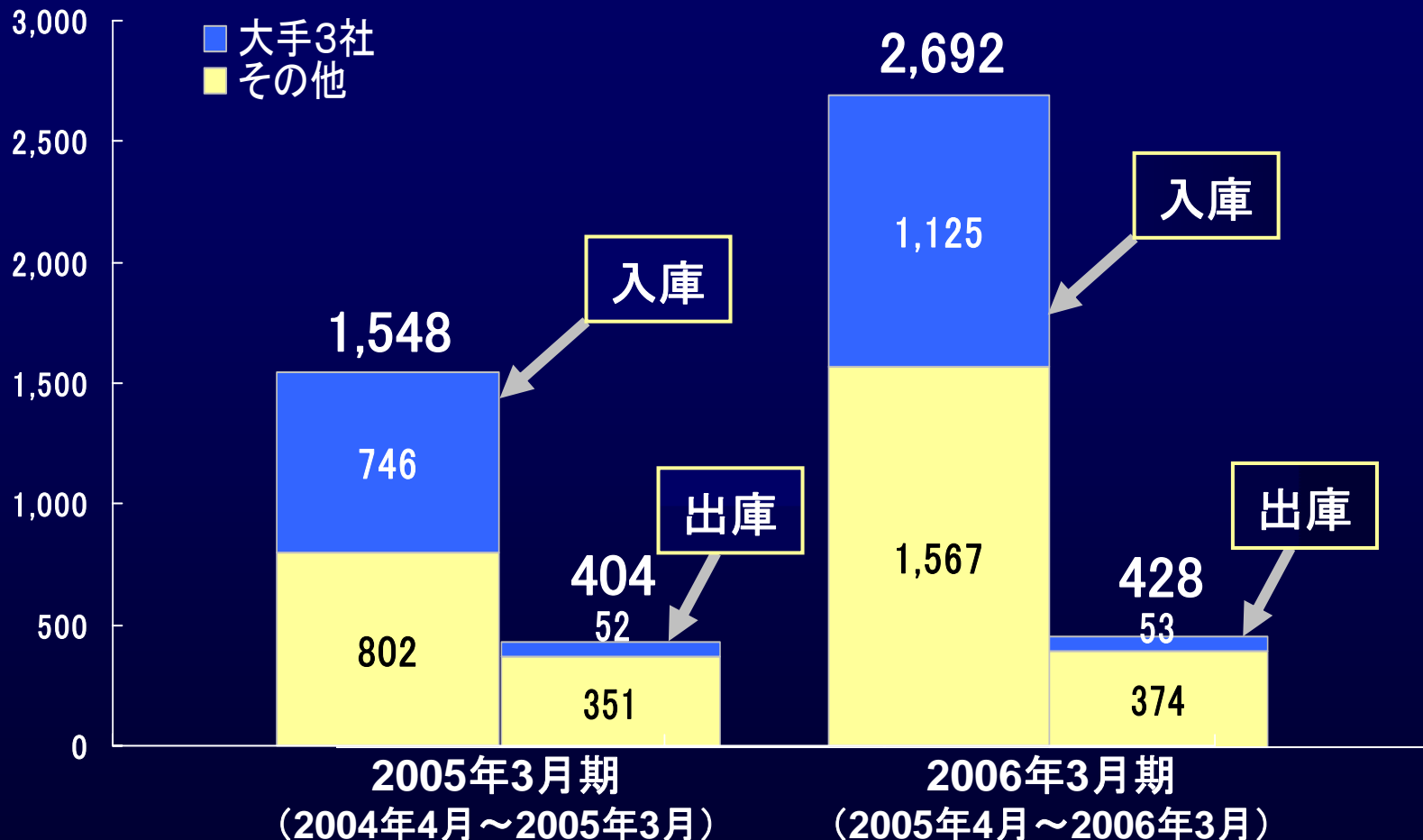
## 2005年4月を100とした株式委託手数料の推移



# 既存大手証券からの株券入出庫状況

(億円)

## 入庫・出庫額の推移



「業界最低水準の手数料体系で業界最高水準のサービス」の提供が評価され、  
他証券会社からの入庫が出庫を大幅に上回る

※当社入出庫処理日の時価で算定

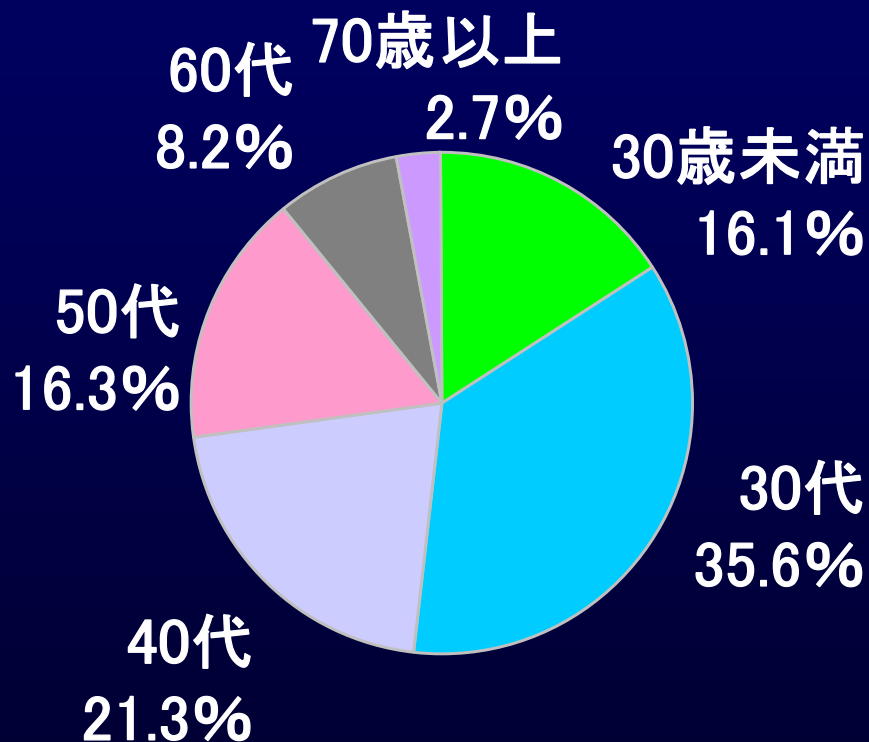
③ 競争の最終段階へ

～ Winner Takes All への道 ～

# イー・トレード証券の顧客には若年層・未経験者が多い

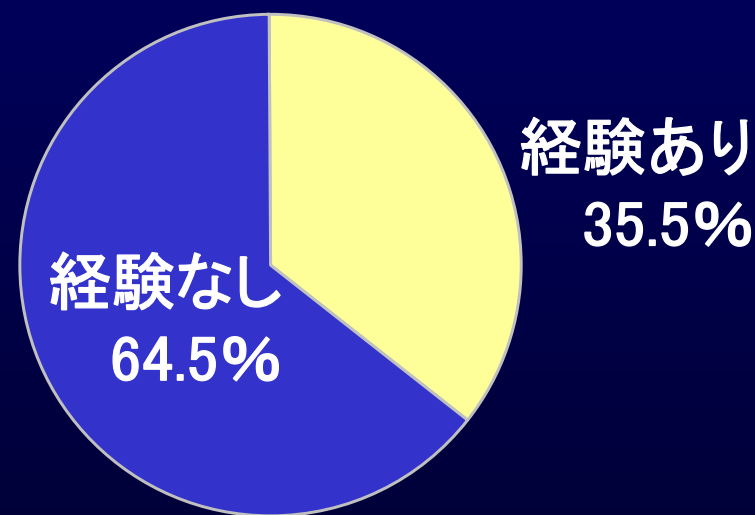
## 顧客口座年代別構成

(2006年3月末現在)



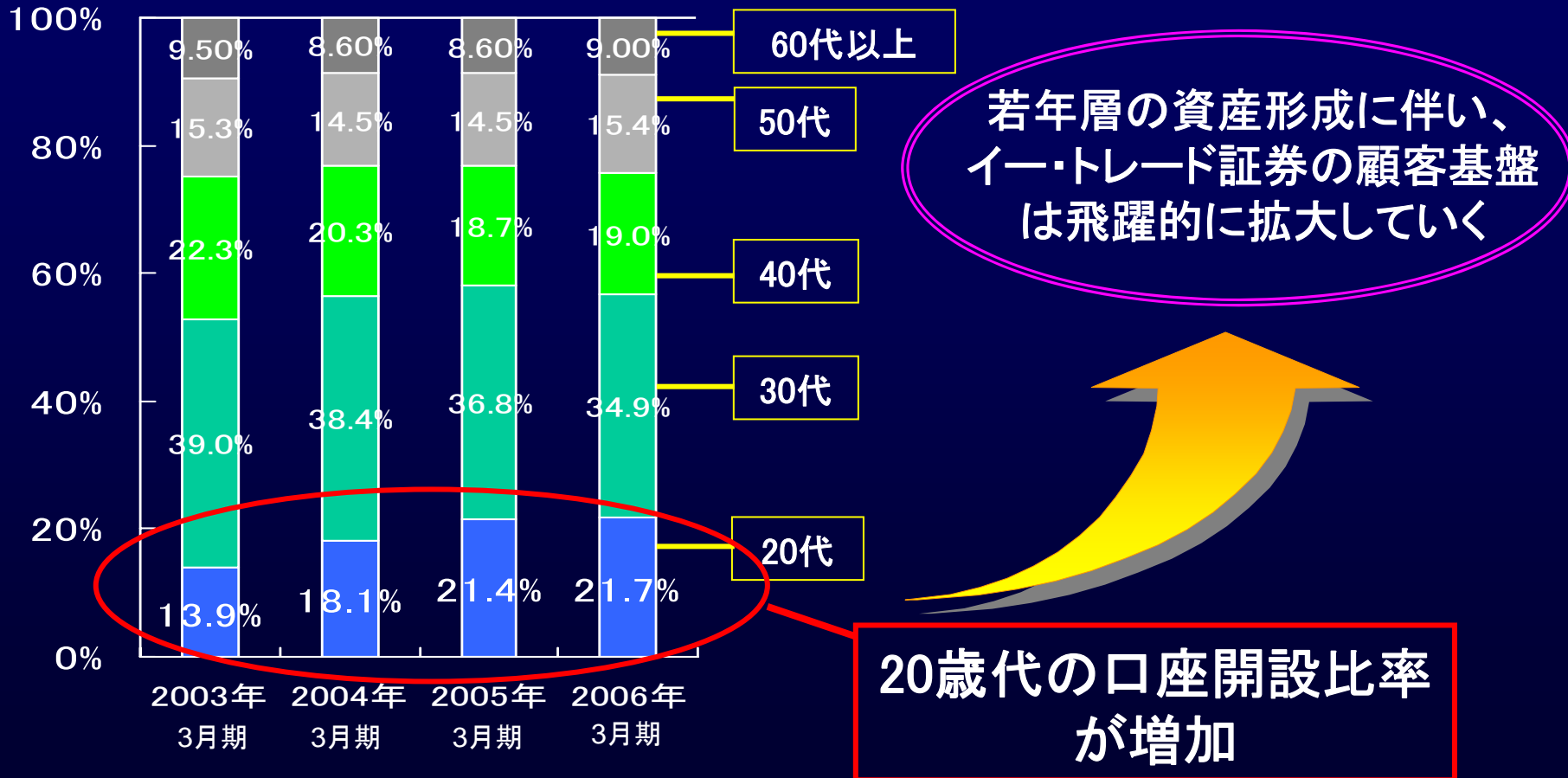
## 当社の口座開設者における 株式投資経験の有無

(2005年4月から2006年3月まで)



# 将来の富裕層となりうる若年層の口座開設が増加傾向

## 新規口座開設者の年齢別推移



# 安全で安定したオンライン証券取引システムの更なる増強

取引量の大幅な増加に伴い、更なるシステム増強を予定

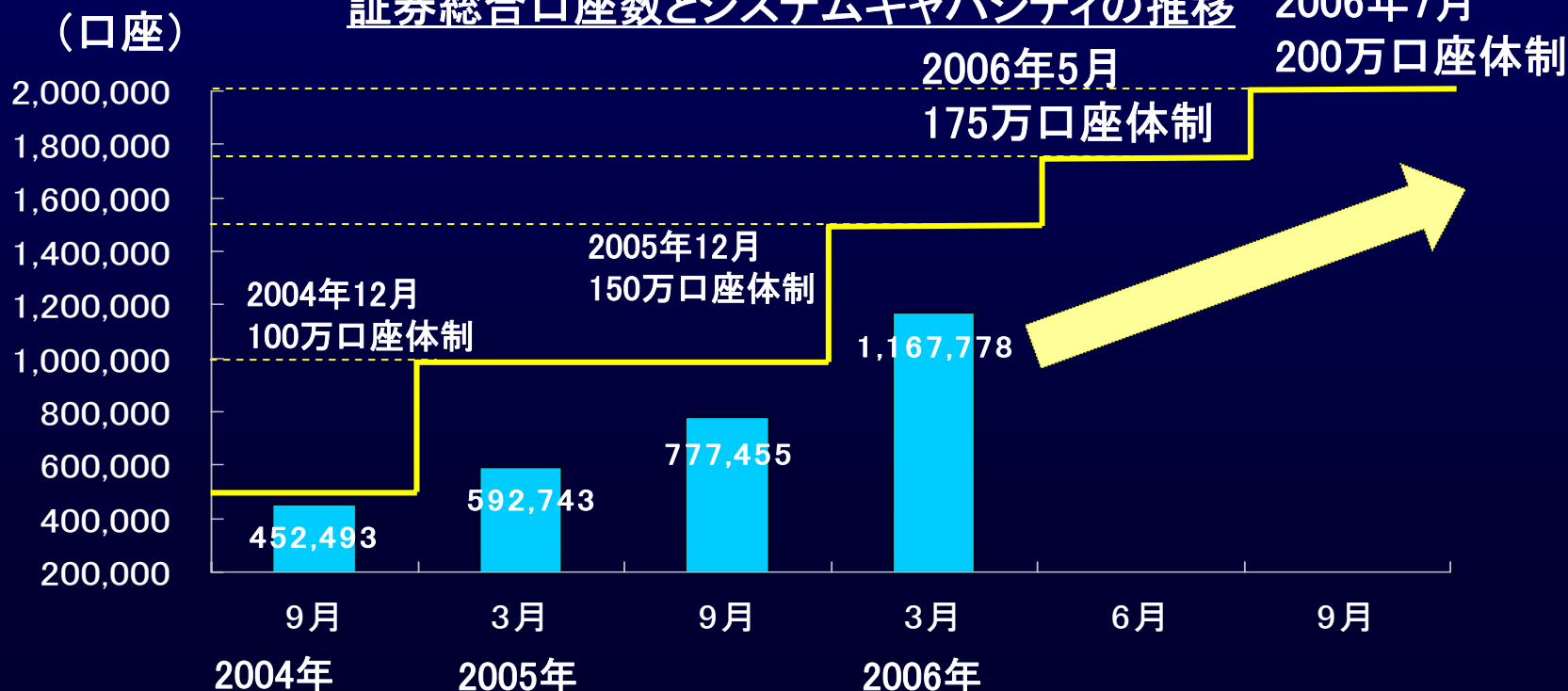
2005年12月に、現行システムへの移行時(2003年7月)の3倍構成へ増強完了



更に2006年7月までに200万口座体制へ増強予定(移行時の4倍)  
常にシステムに余裕を持つことで、ストレスのない取引環境を提供

証券総合口座数とシステムキャパシティの推移

2006年7月  
200万口座体制



# より利便性の高いウェブサイトの追求 ～ 評価機関からの高い評価を受ける ～

全般をとおして共通したナビゲーションや統合された銘柄情報、情報収集から取引までスムーズに行える点、「HYPER E\*TRADE」の提供等が高い評価を受ける

## ・評価機関の評価

**ゴメス：7期連続 総合第1位**



・取り扱う金融商品の多さは国内のオンライン証券でも最高水準だ。(中略)まさにオンライン総合証券と呼ぶにふさわしい。

・イー・トレード証券のウェブサイトは、スムーズな関連情報間の移動を実現している。(中略)投資情報収集と意思決定、そして取引まで、一貫してスムーズに流れるよう構成されている点が特長だ。

(「ゴメス」コメントより抜粋)

**ストックリサーチ：7期連続 総合第1位**



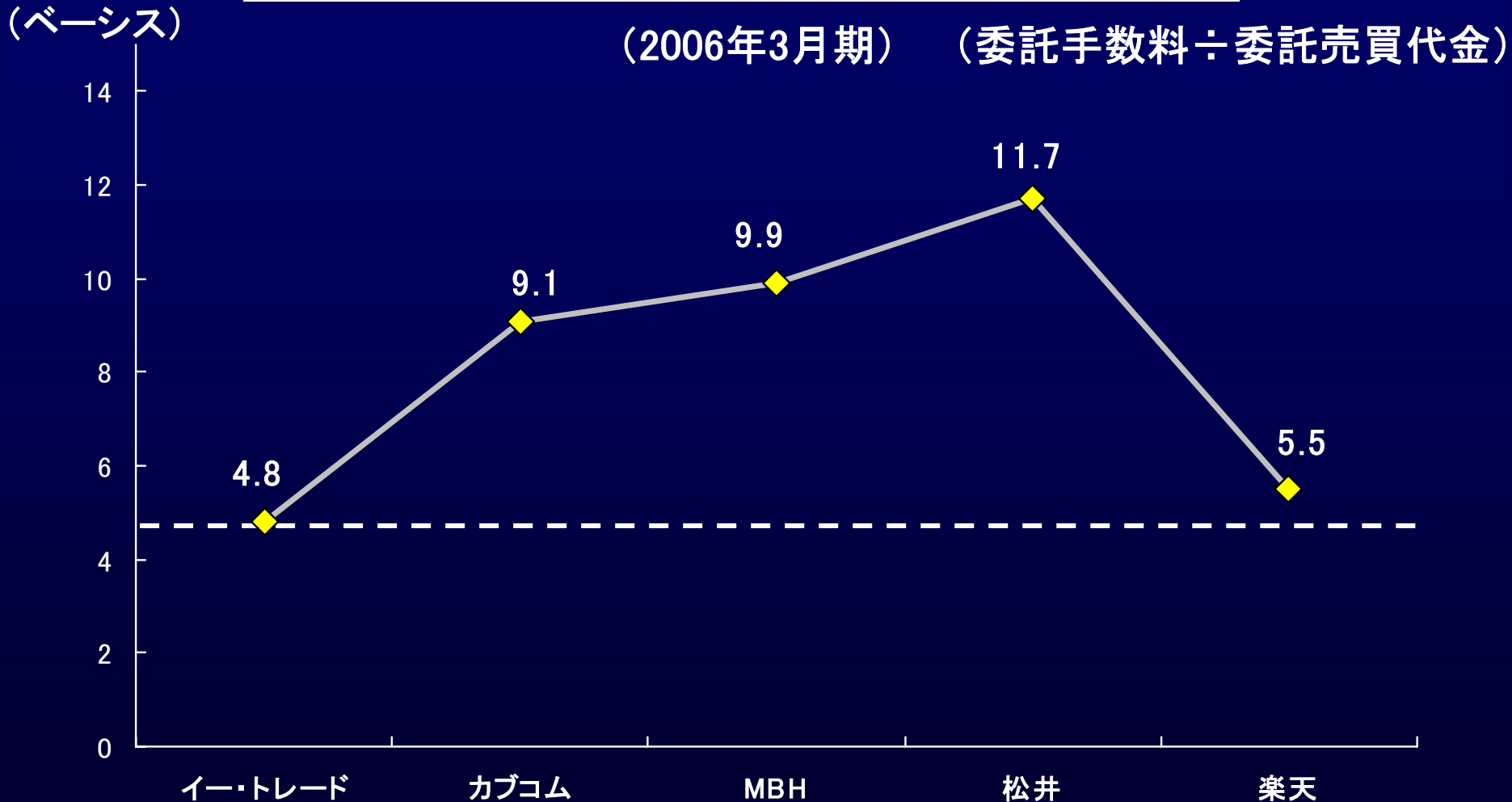
中国株、韓国株、S株(単元未満株)の取扱を開始するなど商品を拡充させ、条件注文の開始やキャッシュカードの発行、安価な株価情報ツール(HYPER E\*TRADE)の提供など新サービスの展開も目だった。特に7月、10月と2度にわたりほぼ最低水準まで手数料を引き下げ、サービス、コストの両面での充実度が増し、追従する他社を引き離す形となった。

(「ストックリサーチ」コメントより抜粋)

The screenshot displays the HYPER E\*TRADE website interface. At the top, there's a navigation bar with tabs for Home, Market Information, Stock Information, Investment Information, Bonds, and various financial products. Below this, there are several promotional banners and service notices. The main content area is divided into sections for 'Newly Listed Stocks', 'Investment Information', and 'Stock Information'. The 'Stock Information' section shows detailed data for a specific stock, including its current price (601,000), change (-3,000, -0.50%), and various financial ratios. A candlestick chart is also visible, showing price movement over time. The interface is clean and organized, with clear labels and easy-to-use navigation elements.

# 業界最低水準を維持し続けるイー・トレード証券

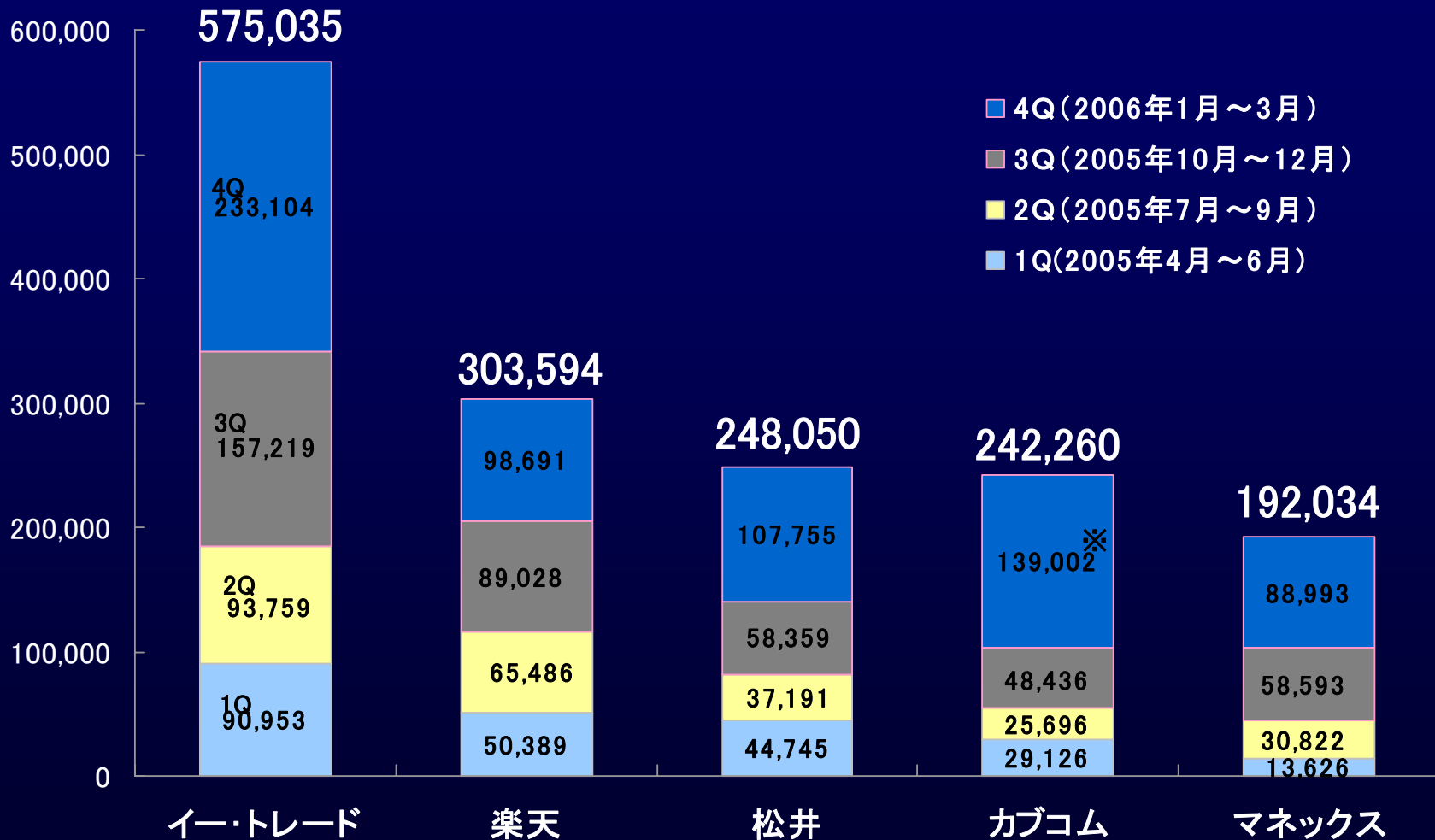
## 主要オンライン証券5社のベースス比較





# 相対的に手数料水準の高い証券会社は獲得口座数が少ない

(獲得口座数) 2005年4月～2006年3月の1年間の獲得口座数



出所： 各社ホームページ等公表資料より当社集計

※カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

ii) 証券業界において着実にステップアップする  
SBIグループのポジショニング

# 証券業界におけるポジショニング（顧客基盤）

## 口座数ランキング (2006年3月末) (単位:口座)

|    |             |           |
|----|-------------|-----------|
| 1  | 野村 ※        | 3,780,000 |
| 2  | 大和Gr.       | 2,695,000 |
| 3  | 日興Gr.       | 2,176,000 |
| 4  | イー・トレード+SBI | 1,231,273 |
| 5  | 三菱UFJ ※     | 1,092,000 |
| 6  | 新光          | 1,017,000 |
| 7  | マネックス       | 631,548   |
| 8  | 楽天          | 552,816   |
| 9  | 松井          | 517,521   |
| 10 | カブドットコム     | 475,425   |

(出所: 各社開示資料より当社にて把握しうる限りの情報を基に集計)

※は残有口座数

## 預り資産残高ランキング (2006年3月末) (単位:億円)

|    |             |         |
|----|-------------|---------|
| 1  | 野村          | 804,809 |
| 2  | 大和Gr.       | 524,381 |
| 3  | 日興Gr.       | 425,429 |
| 4  | 三菱UFJ       | 237,231 |
| 5  | 新光          | 141,645 |
| 6  | みずほインベ      | 74,780  |
| 7  | イー・トレード+SBI | 51,104  |
| 8  | SMBCフレンド    | 46,896  |
| 9  | 東海東京        | 46,069  |
| 10 | 岡三HD        | 40,576  |
| 11 | MBH         | 22,487  |
| 12 | 丸三          | 21,112  |
| 13 | コスモ         | 20,741  |
| 14 | いちよし        | 19,740  |
| 15 | 松井          | 19,378  |
| 16 | 東洋          | 13,990  |
| 17 | 楽天          | 13,700  |
| 18 | カブドットコム     | 12,347  |
| 19 | 水戸          | 11,786  |
| 20 | 藍沢          | 11,553  |

(出所: 2006年5月1日 日経金融新聞より当社にて集計)

上記は、上場証券及び楽天証券とSBIグループ証券2社合算とを比較対象としております。

# 証券業界におけるポジショニング(業績)

## 営業収益ランキング (2006年3月期)

(単位:百万円)

|    |             |           |
|----|-------------|-----------|
| 1  | 野村          | 1,792,840 |
| 2  | 大和Gr.       | 845,659   |
| 3  | 日興Gr.       | 488,513   |
| 4  | 三菱UFJ       | 309,621   |
| 5  | 新光          | 152,915   |
| 6  | 岡三HD        | 88,899    |
| 7  | みずほインベ      | 84,483    |
| 8  | イー・トレード+SBI | 76,275    |
| 9  | 東海東京        | 71,776    |
| 10 | SMBCフレンド    | 68,572    |
| 11 | 松井          | 57,072    |
| 12 | MBH         | 39,223    |
| 13 | 丸三          | 29,850    |
| 14 | いちよし        | 27,569    |
| 15 | コスモ         | 26,650    |
| 16 | 藍沢          | 25,087    |
| 17 | 東洋          | 24,199    |
| 18 | エイチ・エス      | 23,650    |

(出所:2006年5月1日 日経金融新聞より当社にて集計)

上記は上場証券とSBIグループ証券2社合算とを比較対象としております。

## 経常利益ランキング (2006年3月期)

(単位:百万円)

|    |             |         |
|----|-------------|---------|
| 1  | 野村 ※        | 545,013 |
| 2  | 大和Gr.       | 206,651 |
| 3  | 日興Gr.       | 167,834 |
| 4  | 三菱UFJ       | 96,842  |
| 5  | 新光          | 43,184  |
| 6  | イー・トレード+SBI | 38,256  |
| 7  | 松井          | 37,062  |
| 8  | 岡三HD        | 35,380  |
| 9  | みずほインベ      | 32,700  |
| 10 | SMBCフレンド    | 31,168  |
| 11 | 東海東京        | 27,191  |
| 12 | MBH         | 24,938  |
| 13 | 丸三          | 12,996  |
| 14 | カブドットコム     | 12,672  |
| 15 | いちよし        | 9,855   |
| 16 | 水戸          | 9,091   |
| 17 | 藍沢          | 8,783   |
| 18 | 東洋          | 8,338   |

(出所:各社開示資料より当社にて集計)

※野村は税前利益

3) 「貯蓄から投資へ」「ブロードバンド化の進展」「制度改革」  
の流れに乗り良好な事業環境が更に好転する  
ファイナンシャル・サービス事業

# ① 「貯蓄から投資へ」

# 個人金融資産が貯蓄から投資へ

## 株式市場

- ・日経平均は5年7ヶ月ぶりに1万7,000円を回復
- ・2005年度(05年4月-06年3月第4週まで)の売買代金に占める個人の比率は1985年以来、20年ぶりの水準に上昇。

記事

(2006年03月31日 日本経済新聞朝刊)

## 外債市場

- ・外債や外貨投資信託などが外貨建て資産残高は昨年9月時点で初めて30兆円を突破

記事

(2006年02月18日 日本経済新聞朝刊)

# 預貯金から投信への資金流入が加速

(2006年5月14日 日本経済新聞朝刊より抜粋)

## 株式投信、16年ぶり最高

4月末残高45兆円 バブル期上回る

株式投資信託の残高が四月末に約四十五兆六千億円となり、バブル経済の頂点だった一九八九年末の最高記録を十六年四ヶ月ぶりに上回ったもようだ。超低金利や株式相場の回復を受けて、預貯金からの個人資金の流入が加速した。銀行や郵便局が投信販売に参入したことも購入者のすそ野拡大を支えている。～

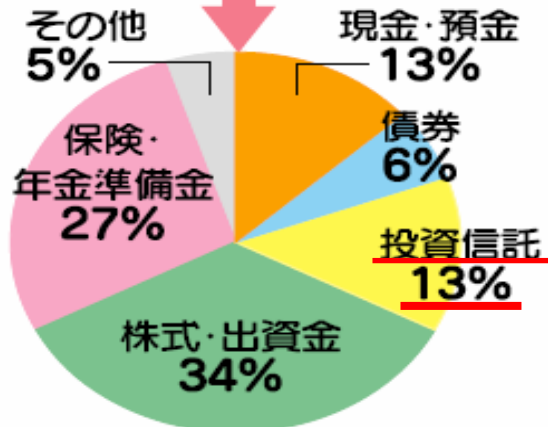
記事



# 日本の投資信託市場の見通し

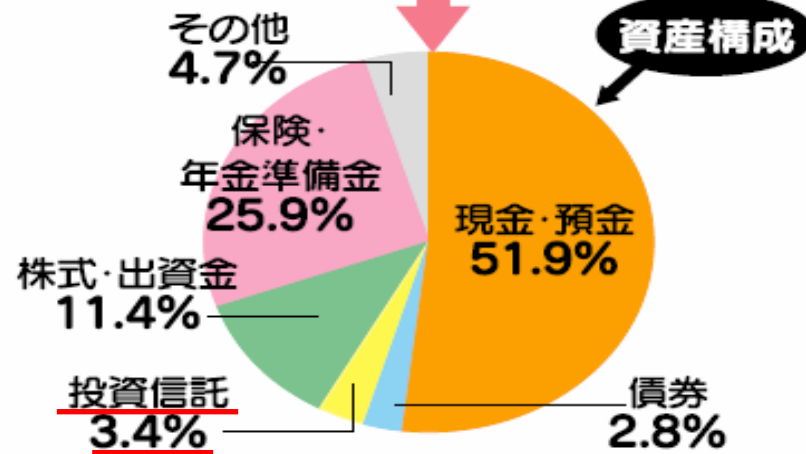
## 米国

総額4,144兆円(1,411万円)



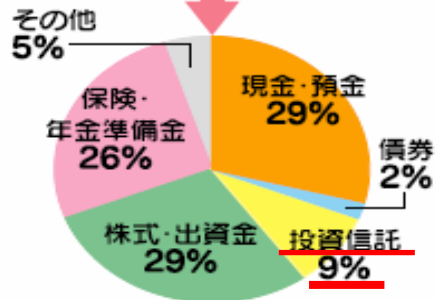
## 日本

総額1,509兆円(1,181万円)



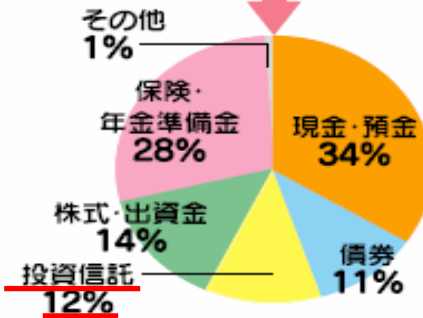
## フランス

総額354兆円(598万円)



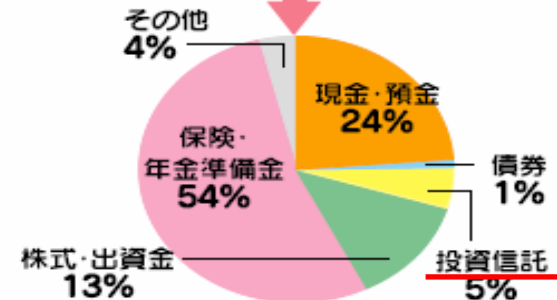
## ドイツ

総額436兆円(530万円)



## 英国

総額579兆円(965万円)



# モーニングスター 連結業績(3ヶ月)

(単位:百万円)

|       | 2005年12月期<br>第1四半期<br>(2005年1月～3月) | 2006年12月期<br>第1四半期<br>(2006年1月～3月) | 前年同期比<br>増減率(%) |
|-------|------------------------------------|------------------------------------|-----------------|
| 売上高   | 293                                | 438                                | +49.4           |
| 営業利益  | 60                                 | 128                                | +112.3          |
| 経常利益  | 61                                 | 189                                | +209.8          |
| 当期純利益 | 36                                 | 158                                | +337.7          |

# 日本郵政公社に資産運用関連の情報誌を提供

2006年3月:

- ・投信運用会社のスポンサーの協力により、フリーマガジン形態にて提供。
- ・投信販売を行っている575の郵便局に、50,000部を配布。



- ・投資初心者にわかりやすく、かつ読みやすい内容
- ・投信データやイラストを活用した商品説明

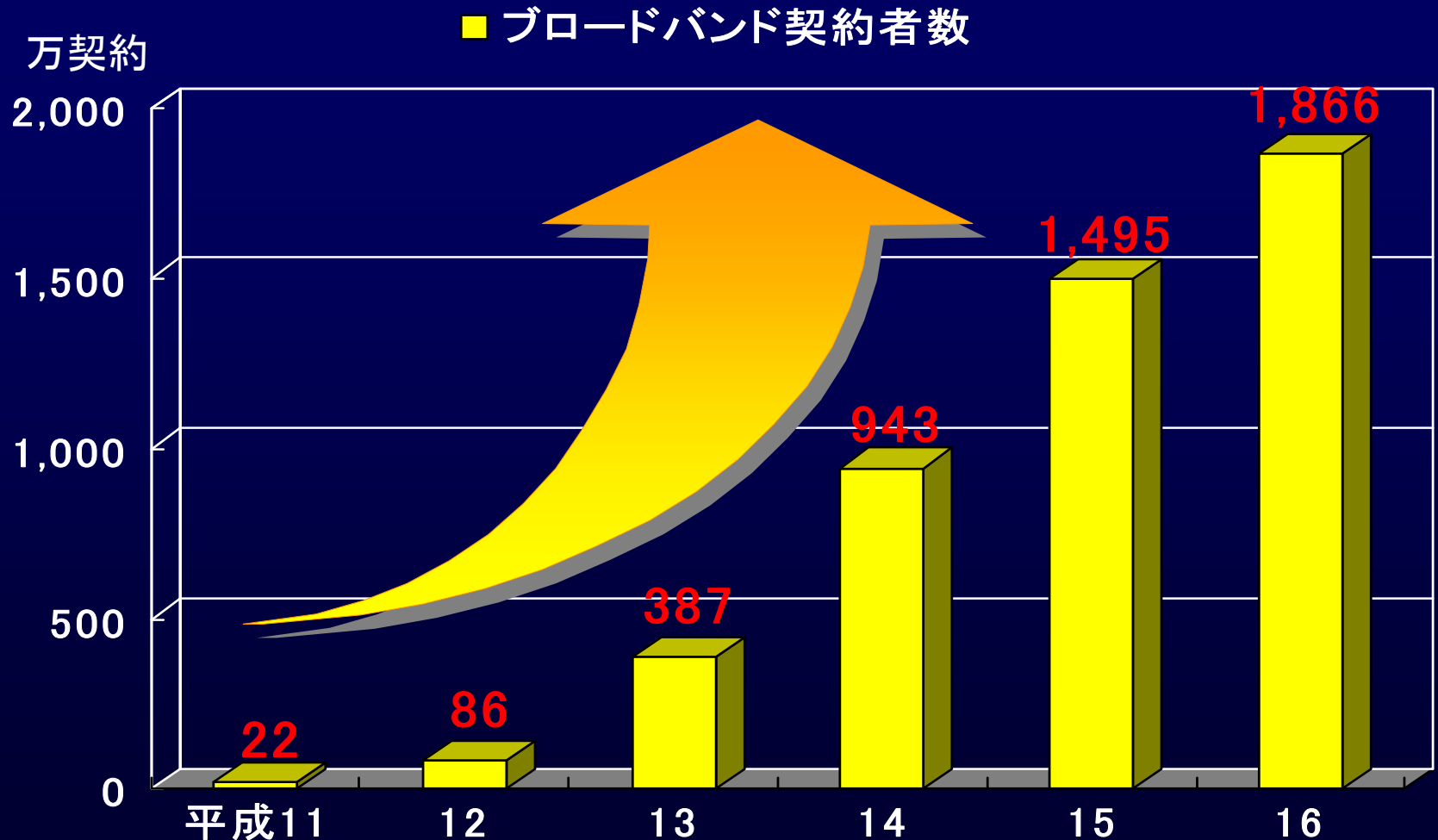
郵政公社2009年度末投信販売目標残高 約4兆9000億円(当初の3倍に引き上げ)

来年10月の民営化時 取扱局数1,550を計画(現在の約3倍)

## ② 「ブロードバンド化の進展」

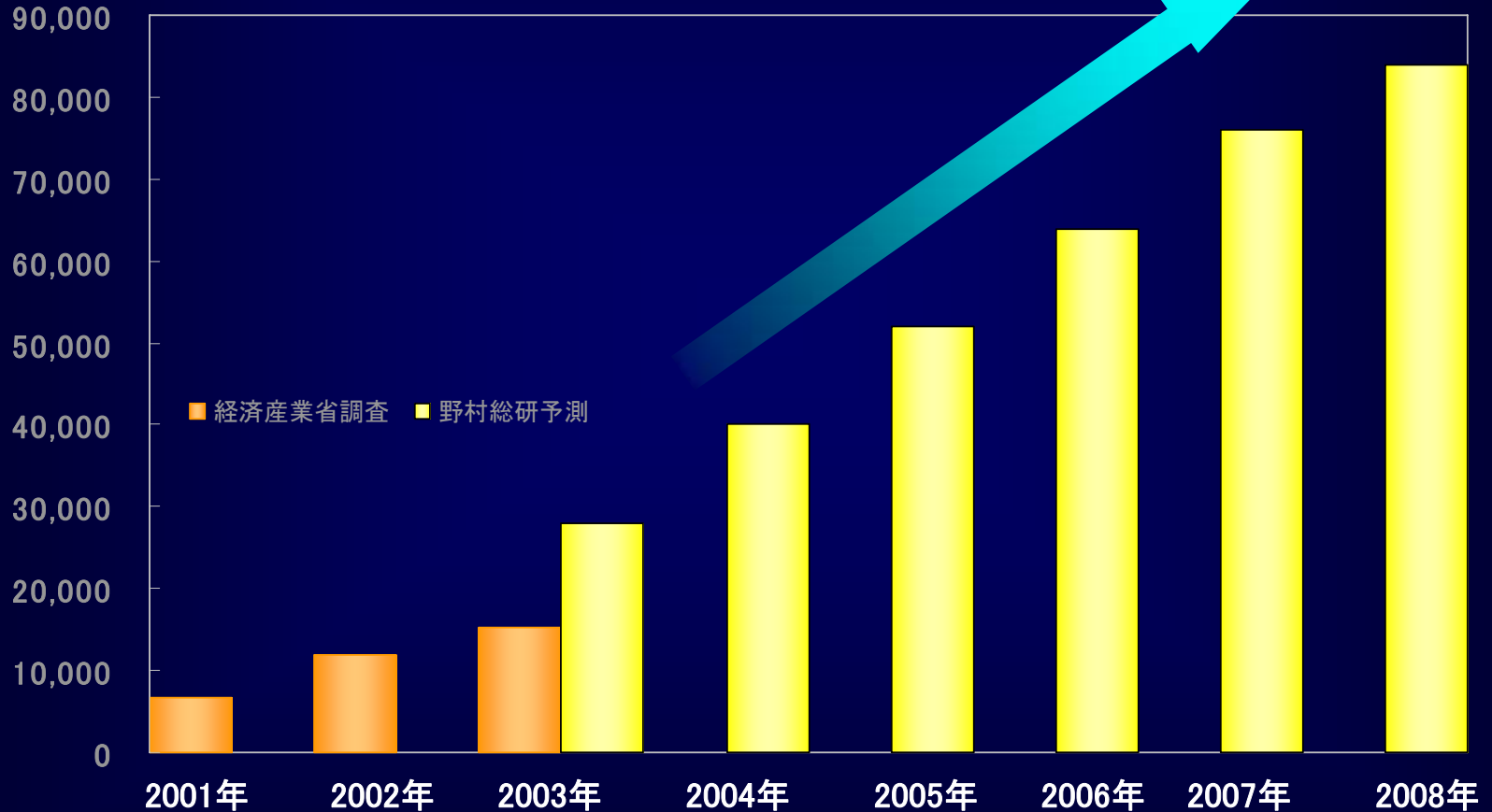
# ブロードバンド契約者数の伸び

平成16年12月末におけるブロードバンド契約者数は1,866万契約(対前年比36.5%)を達成し、今後も順調な拡大が見込まれている。



# 拡大を続けるEC市場

市場規模  
(億円)



出典:

- ・経済産業省「平成15年度電子商取引に関する実態・市場規模調査」2004年6月11日
- ・株式会社野村総合研究所ニュースリリース「2008年までのIT主要分野の市場規模とトレンドを展望」(2003年11月13日)

i) SBIベリトランス

# SBIベリトランス 通期業績

～ 売上高、利益の全項目において、過去最高を更新 ～

(単位:百万円)

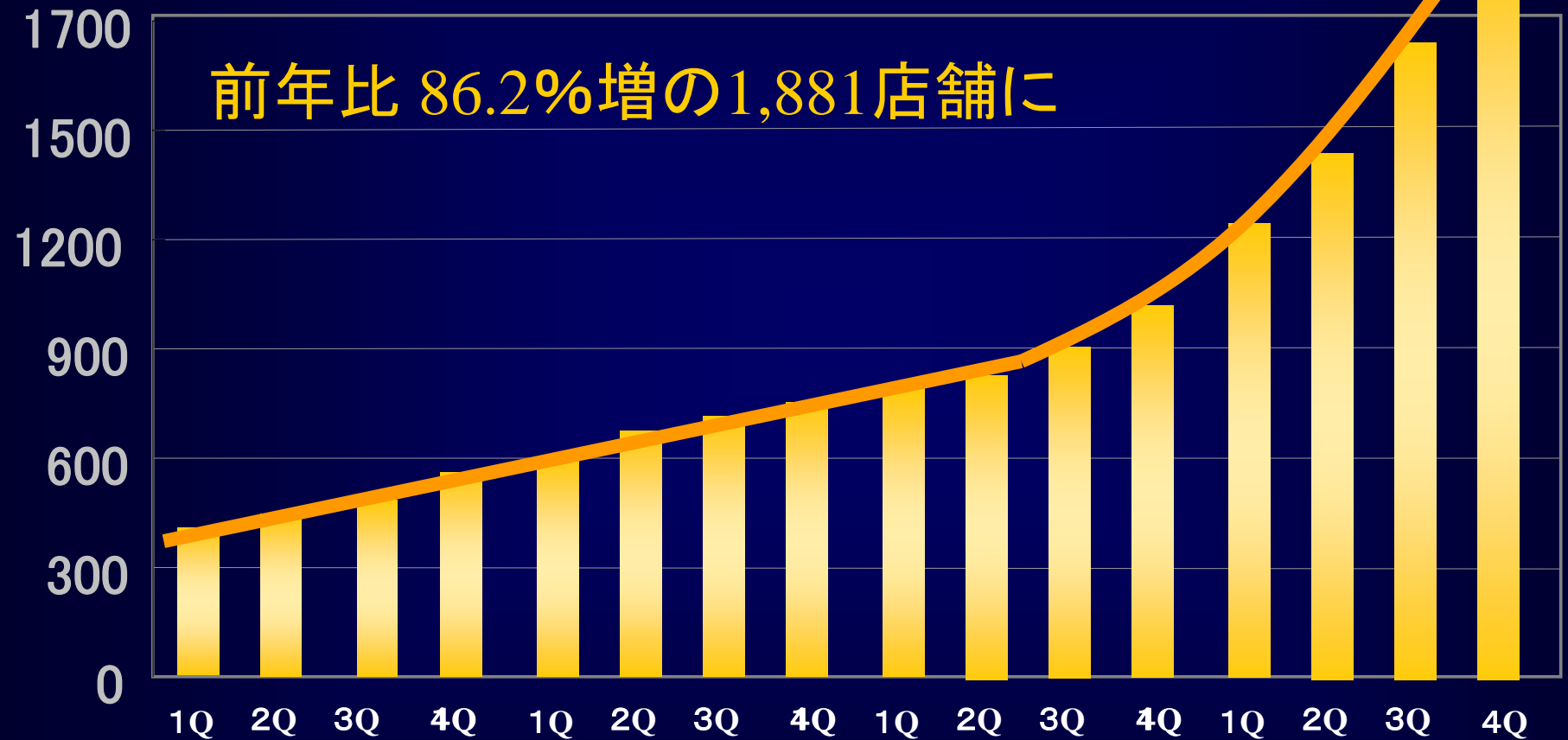
|       | 2005年3月期<br>通期<br>(2004年4月～2005年3月) | 2006年3月期<br>通期<br>(2005年4月～2006年3月) | 前年比<br>増減率(%) |
|-------|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------|
| 営業収益  | 944                                 | 1,916                               | +103.0        |
| 営業利益  | 221                                 | 400                                 | +81.0         |
| 経常利益  | 225                                 | 395                                 | +75.6         |
| 当期純利益 | 183 <sup>※</sup>                    | 253                                 | +38.3         |

※ 2005年3月期第3四半期の当期純利益につきましては、過年度に発生した繰越欠損金の一部について回収可能性が認められたため、繰延税金資産11百万円を計上いたしました。



# 利用店舗数の推移

(利用店舗数)



平成15年3月期

平成16年3月期

平成17年3月期

平成18年3月期

ii)イー・ローン、インズウェブ等の  
マーケットプレイス事業

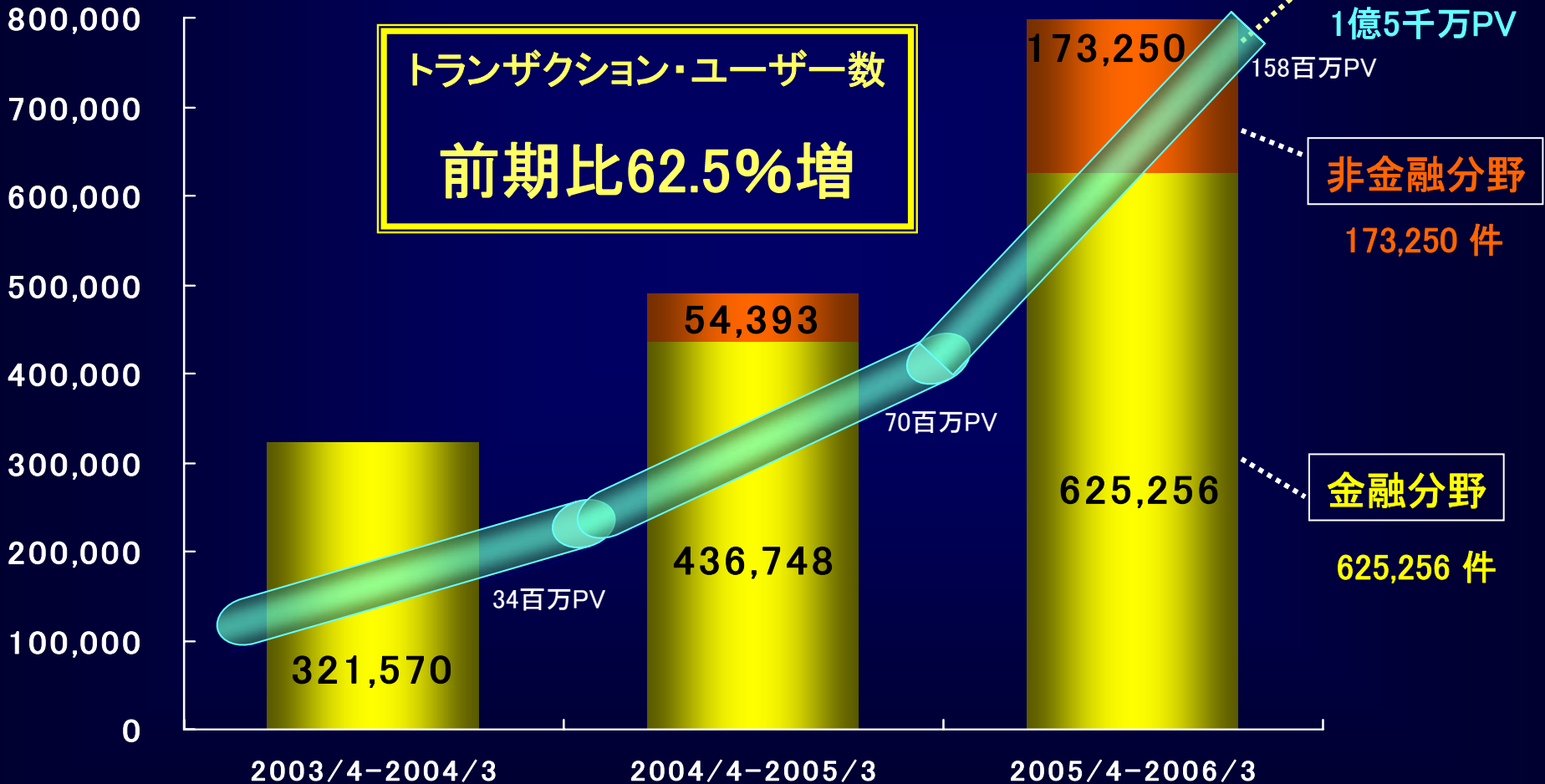
# 成長するマーケットプレイス事業

トランザクション・ユーザー数※が順調に拡大、参加会社数は約1,300社に

～ 金融分野だけでなく、非金融分野の件数も好調に推移 ～

(単位:件)

※サイト上で一括見積もり、資料請求、仮申込等の取引を行なったユニークなユーザーの数



注)金融6サイト、非金融11サイトの件数及びPV。イー・ゴルフ・サイトの件数とPV(月間1,400万PV)は含んでおりません

# 比較・見積もりのポータルサイト「比較ALL」

gOO



YAHOO!  
JAPAN

楽R天  
ICHIHARA

freshEYE

BIGLOBE

ODN

AOL

MSN

infoseek

excite.

@nifty



主要ポータルサイトを中心とした100以上のネットマーケティングチャンネル

比較ALL™

「すべてを比較し、すべてを見積もる！」

・カード比較

・キャッシング比較

・外為サービス比較

・証券サービス比較

・先物サービス比較



・国内最大級  
ローン比較サイト

・引越し比較・見積もり



・国内最大級  
保険比較サイト

・格安航空比較



・ゴルフ全般

・おくるまりース

・レンタルサーバー比較検索

・ピアノ買取見積もり

・リフォーム比較見積もり

・結婚情報サービス比較

・不動産比較

・チケット流通センター

・ブランド流通センター

・リッチダット

・化け犬.jp

・メトセク.jp

子会社コンテンツ

グループシナジー

<金融・生活関連サービス>



保険代理店業



ネット広告  
代理店



住宅ローン



リース事業



金融ソフトウェア  
開発・提供



EC事業者向け  
決済ソリューション



行政サービス  
比較・検索



評価ランキング



金融に特化  
広告代理店

### ③ 「制度改革」－(i)

#### 【住宅ローン分野】

2005年6月 住宅金融支援機構法が成立

2007年4月 住宅金融公庫の廃止（約55兆円の住宅ローン債権）  
独立行政法人の住宅金融支援機構に移行へ

- ・ 融資業務は段階的に縮減し、金利体系を見直す
- ・ 民間金融機関などが貸し付けた住宅ローンの債権を買い取って証券化し市場で販売する支援業務が中心となる

( i ) SBIモーゲージ

# 成長著しいSBIモーゲージの住宅ローン事業

## 住宅ローン実行残高推移

**2006年4月末**  
**実行残高2,132億円**

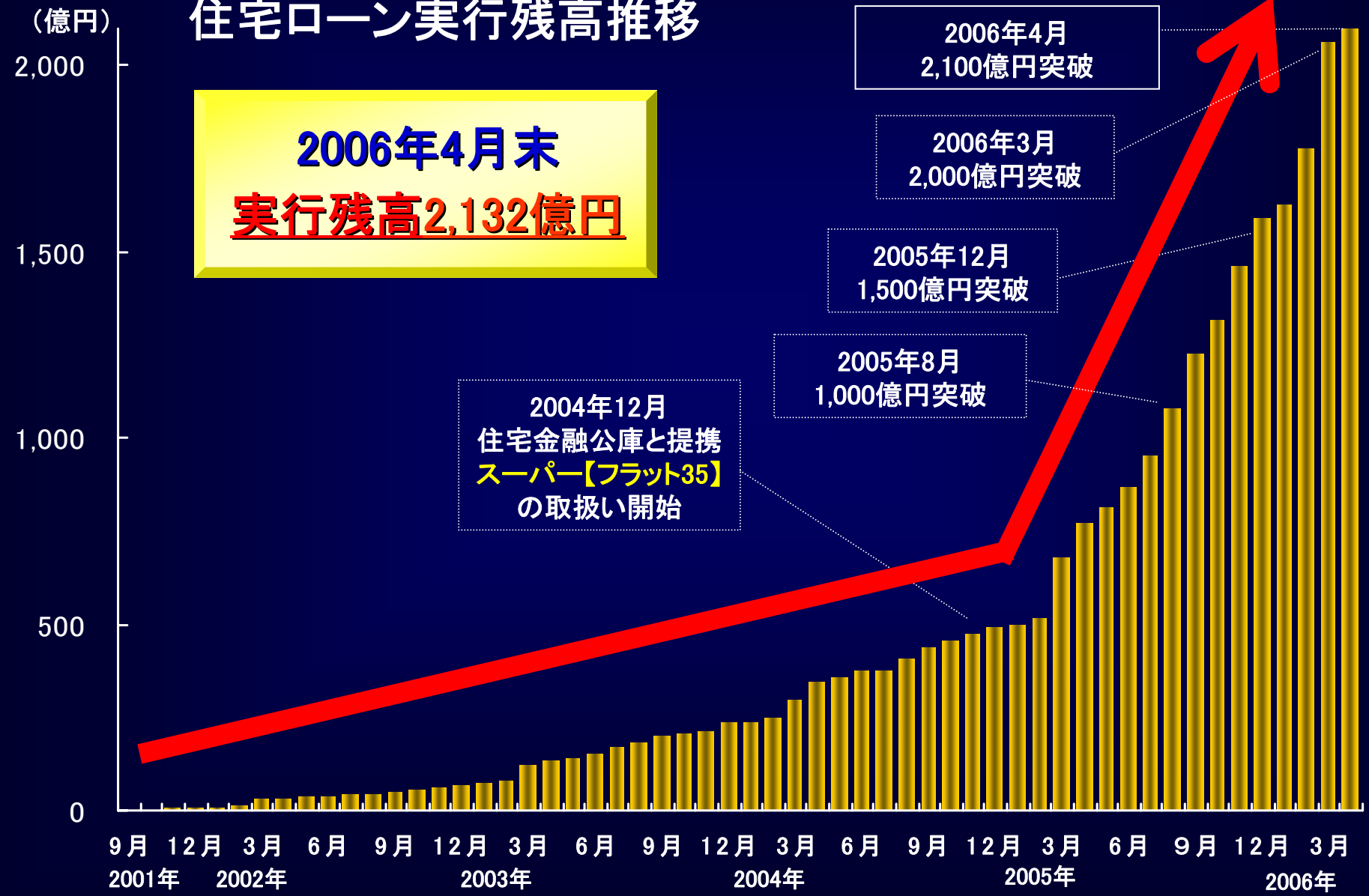
2004年12月  
住宅金融公庫と提携  
スーパー【フラット35】  
の取扱い開始

2005年8月  
1,000億円突破

2005年12月  
1,500億円突破

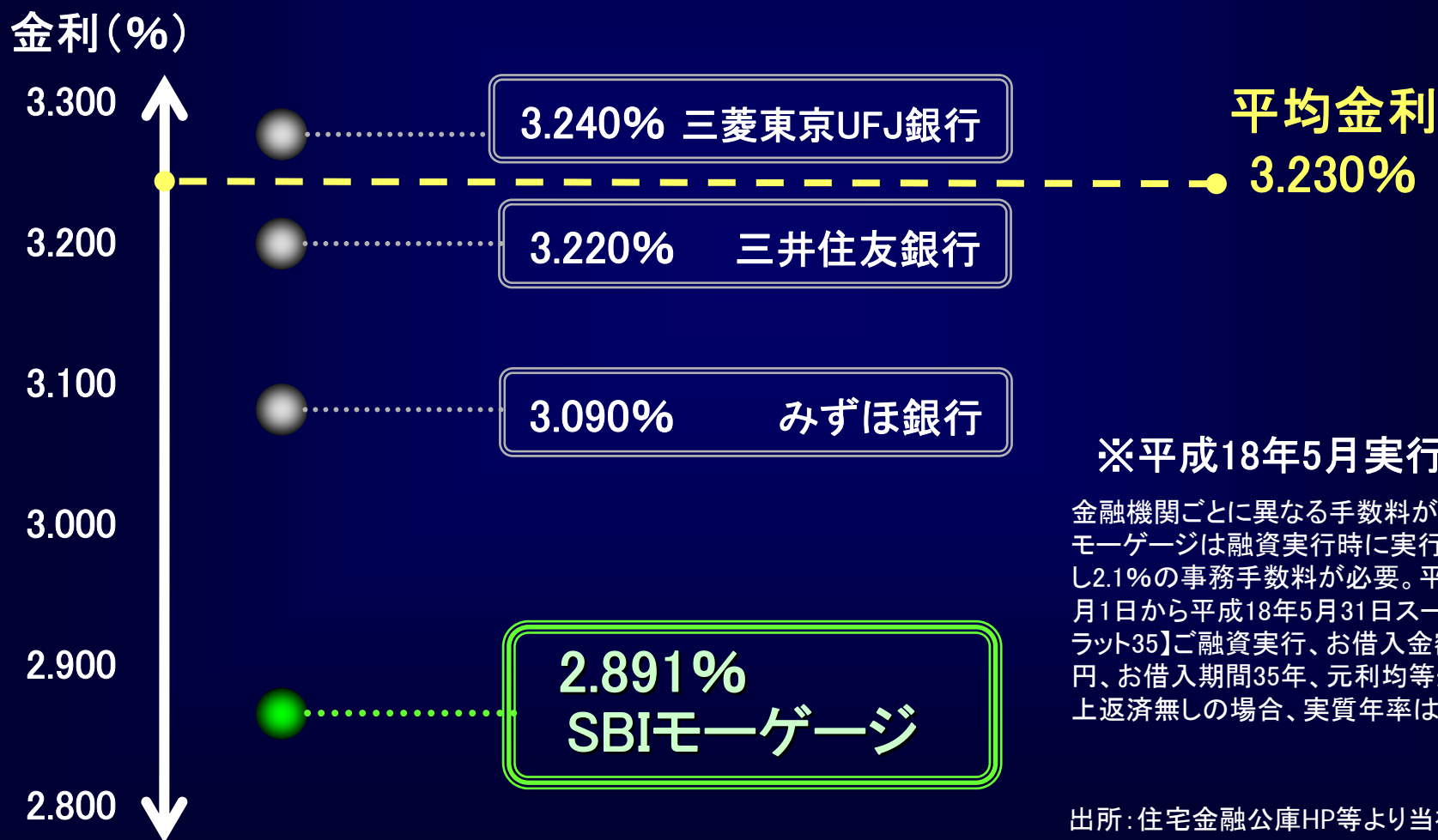
2006年3月  
2,000億円突破

2006年4月  
2,100億円突破



# 「スーパー【フラット35】」(公庫証券化ローン)の金利比較

証券化を前提とした最長**35年**固定金利。ローコストオペレーションと顧客中心主義を徹底、約300金融機関の中で**最低金利水準**を実現。



## ※平成18年5月実行金利

金融機関ごとに異なる手数料が発生。SBIモーゲージは融資実行時に実行金額に対し2.1%の事務手数料が必要。平成18年5月1日から平成18年5月31日スーパー【フラット35】ご融資実行、お借入金額3,000万円、お借入期間35年、元利均等返済、繰上返済無しの場合、実質年率は3.037%。



## ③ 「制度改革」

(ii)

### 【消費者金融分野】

- ・ 出資法の上限29%から利息制限法の上限20%に一本化される可能性が高まる

( ii ) SBIイコール・クレジット

# SBIイコール・クレジットの貸出実績推移

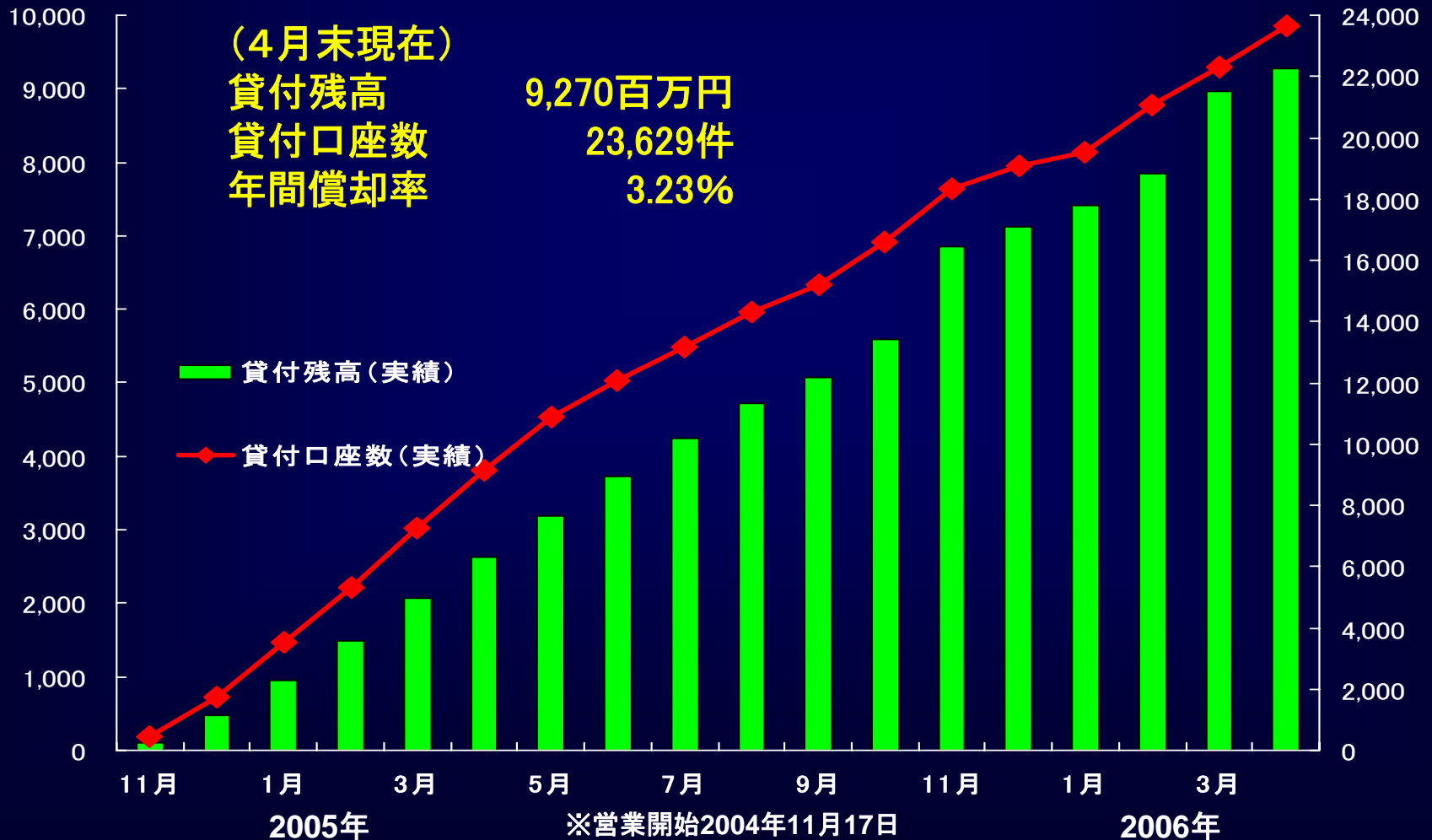
**貸付残高は営業開始後17ヶ月間で約93億円！**

本年夏頃には単月黒字化の見込み

2007年3月期通期でも黒字化の見込み

(単位:百万円)

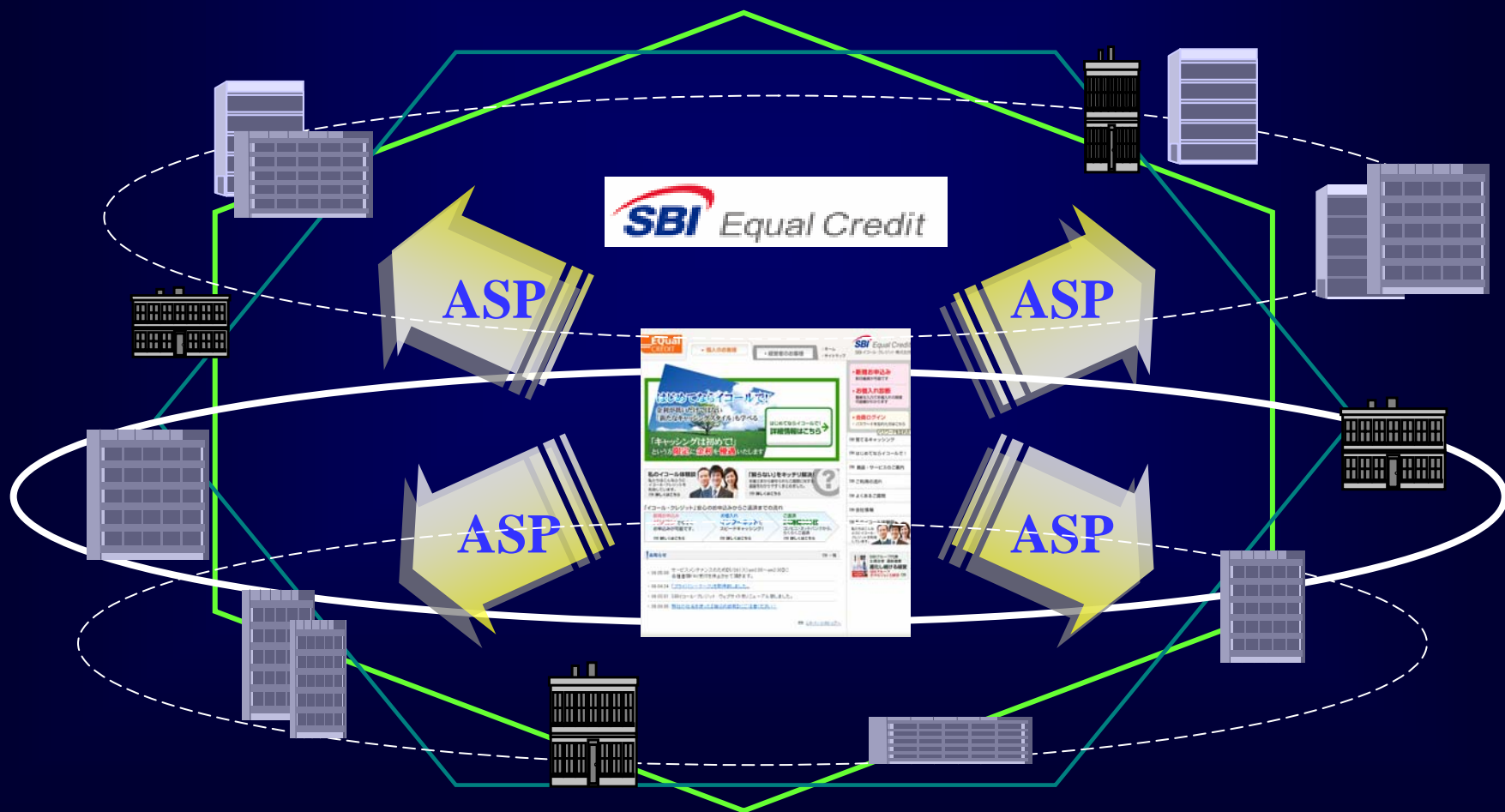
(口座数)



出資法の上限**29%**から利息制限法の上限**20%**に一本化か？

弱体化の想定される中小消費者金融へ

SBIイコール・クレジットの自動審査システムをASPにて提供



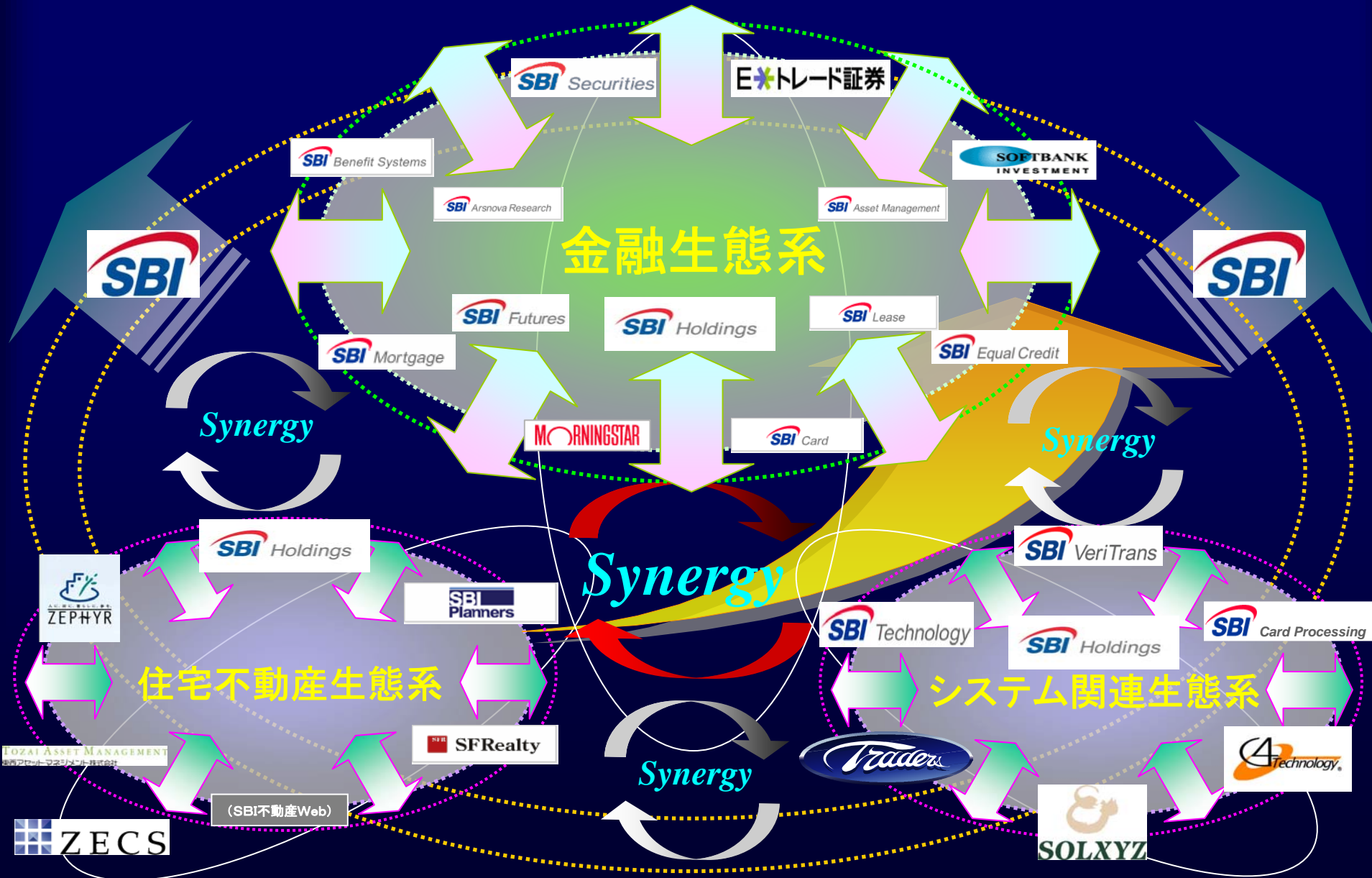
## 第2部

# 企業生態系の新たな発展

# SBIグループ企業生態系の新たなる発展

- ① 我が国最大の金融商品ディストリビューターを目指した  
金融分野での企業生態系の更なる拡充
- ② 既存生態系と多大なるシナジーが見込める  
住宅不動産分野における企業生態系の形成
- ③ グループ内企業のシステム構築・維持管理に大きく貢献する  
システム関連分野における企業生態系の形成

# 企業生態系相互のシナジーによる新たな発展のステージへ



① 我が国最大の金融商品ディストリビューターを目指した  
金融分野での企業生態系の更なる拡充

i) 住友信託銀行との多面的提携及びネット銀行設立

ii) あいおい損保との損保会社共同設立

iii) ネクサスとの資本・業務提携

iv) SBIギャランティ株式会社設立

v) SBIカード: MasterCardの仮ライセンス取得



# 住友信託銀行との多面的提携による事業展開

(2005年1月17日発表)

## 1. ネットとリアル融合

- ・イー・トレード証券が住友信託銀行の信託契約代理店・併營業務代理店となる  
また、銀行法改正後早期に銀行代理店となる
- ・イー・トレード証券が住友信託銀行と証券仲介及び市場誘導ビジネスの提携を行う
- ・住宅ローン商品の相互取次ぎ(SBIモーゲージ)

## 2. 証券と銀行の融合(プライベート・バンキング部門)

- ・住信グループからSBIグループ顧客への預金・ローン・信託・不動産等の商品・サービスと資産運用・資産管理・相続等のコンサルティングの提供
- ・SBI証券から住友信託銀行顧客への未上場株式組入商品等の提供

## 3. 商品の共同開発・共同販売等

- ・両グループが組成・運用する投資信託の相互提供(SBIアセットマネジメント)
- ・新たな投資信託の共同組成(モーニングスター)
- ・不動産仲介サービスのSBIグループ顧客への提供(SBIホールディングス)

# 住友信託銀行との合併会社設立 (2005年4月3日合意)

## 「新ネット銀行」設立に関する市場調査・マーケティング 手法研究などの調査・情報提供へ



多角的業務提携



### SBI住信ネットバンク設立準備調査会社

業務内容: インターネット銀行に関する調査・情報提供の受託

代表者: 代表取締役社長 田中 嘉一(現住友信託銀行 本店支配人)

代表取締役副社長 川島 克哉(現イー・トレード証券 取締役)

本店所在地: 東京都港区六本木1-6-1

(現SBIホールディングス本店所在地)

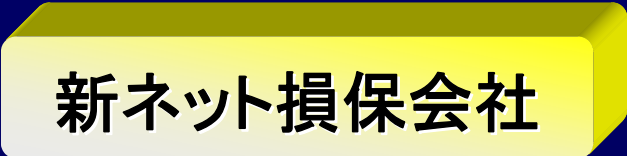
資本金: 40億円

株主: SBIホールディングス 50% 住友信託銀行 50%

# あいおい損保とのネット損保準備会社を設立予定(2006年6月1日)



連携



SBIグループの顧客基盤



JV設立

多様な  
インターネット  
ビジネスノウハウ

支援



総合口座数  
約120万口座



年間実行件数  
約6,000件

マーケティング  
チャンネル



国内最大級  
保険比較・見積もりサイト



年間トランザクション・  
ユーザー数約80万人



登録会員数約38万件  
富裕層

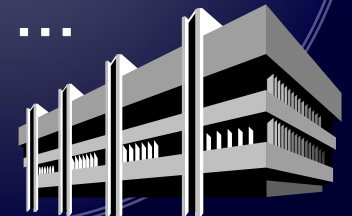


あいおい損保

【経験・ノウハウ】 【運営インフラ】

- ・損保経営
- ・商品開発

- ・事務業務
- ・コールセンター
- ・損害サービス体制



投資先社数延べ255社



# 株式会社ネクサスとの資本・業務提携

(2006年5月12日発表)

ネクサスはダイレクト・マーケティングにおける広範な経験とノウハウを有し、ウェブ中心の当社グループのディストリビューション・チャネルを補完する点で大きなシナジーが見込まれる。



～リアルの販売チャネルの一つとして活用～

# SBIギャランティ株式会社設立

## ●保証業務全般を展開する100%子会社

SBIグループにおける事業領域の拡大とそれらの事業に付随する金融サービスのより一層の拡充を目指し、さらにEコマースのトランザクション拡大にともなう品質・決済保証ニーズの高まりを受け、美術品や住宅の家賃保証など幅広い分野の商取引に係る保証業務を行う。

(例)

不動産物件の賃貸借、売買



SBIギャランティ  
株式会社

美術品販売



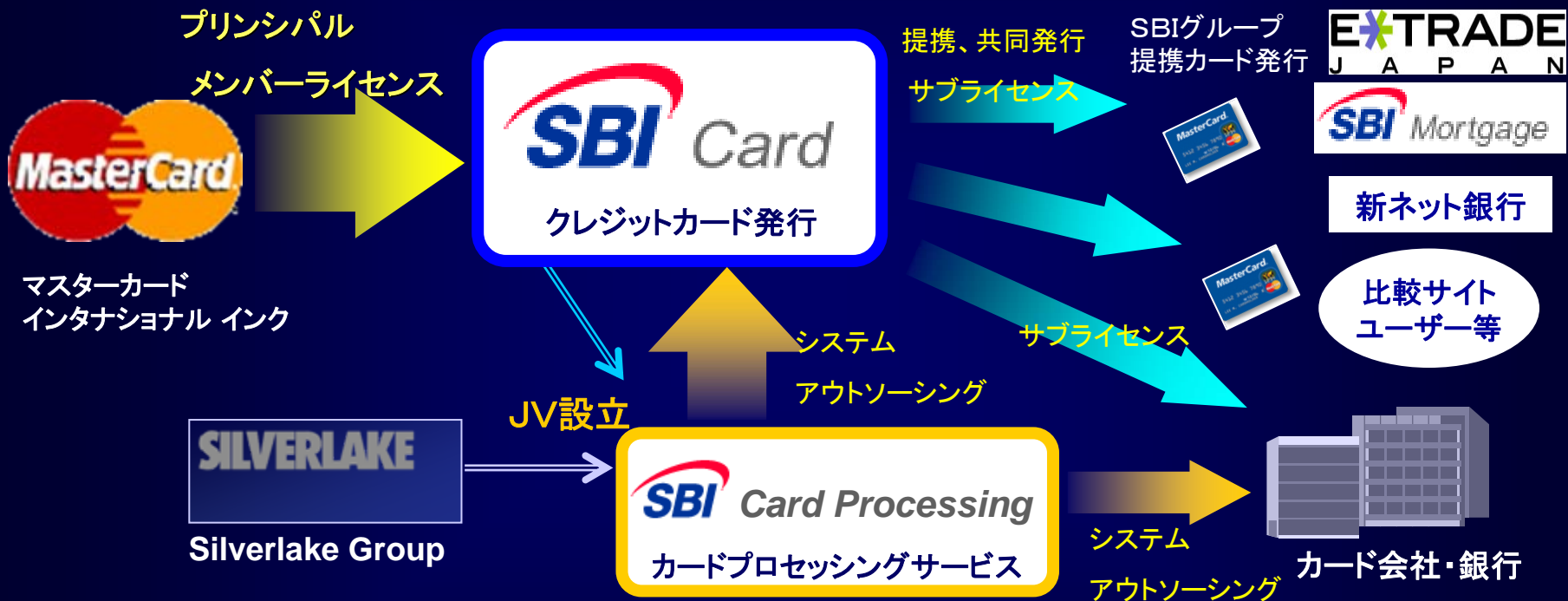
オークション...

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 設立年月日 | 2006年2月2日                |
| 資本金   | 1億5,000万円、資本準備金1億5,000万円 |
| 株主構成  | SBIホールディングス株式会社100%      |

# SBIカード：MasterCardの仮ライセンスを取得

(06年7月中旬 正規ライセンス取得予定)

～ シルバーレイク社のソリューションを利用し高機能・高付加価値カードを発行 ～



## ◆ スケジュール

|           |                           |
|-----------|---------------------------|
| 2006年3月   | マスターカードの仮ライセンス取得          |
|           | ICA No.(国際銀行番号)付与等の発行準備開始 |
| 2006年7月中旬 | 正式承認(予定)                  |
| 2006年9月～  | カード発行開始(予定)               |

② 既存生態系と多大なるシナジーが見込める  
住宅不動産分野における企業生態系の形成

# 住宅不動産分野においても強力な企業生態系の構築を目指す

愛称：四葉のクローバー  
 SBI未公開株式組入不動産ファンド匿名組合(四半期分配型)1号  
 不動産信託受益権&未公開企業株式に投資！申込受付中！～6/26

## SBIホールディングス不動産事業部



建築

## SBIプランナーズ



2005.8 SBIパートナーズ子会社化  
 2005.9 ゼファー持分法適用会社化

## 住宅不動産生態系

2006.3 SBIパートナーズと合併  
 2006.3 東西アセットマネジメント持分法適用会社化  
 .....



## エスエフ・リアルティ

不動産仲介

※2006年7月1日 SBIプランナーズと合併予定

(SBI不動産Web)

(構想中)

マンション分譲等  
**ゼファー**



TOZAI ASSET MANAGEMENT  
 東西アセットマネジメント株式会社

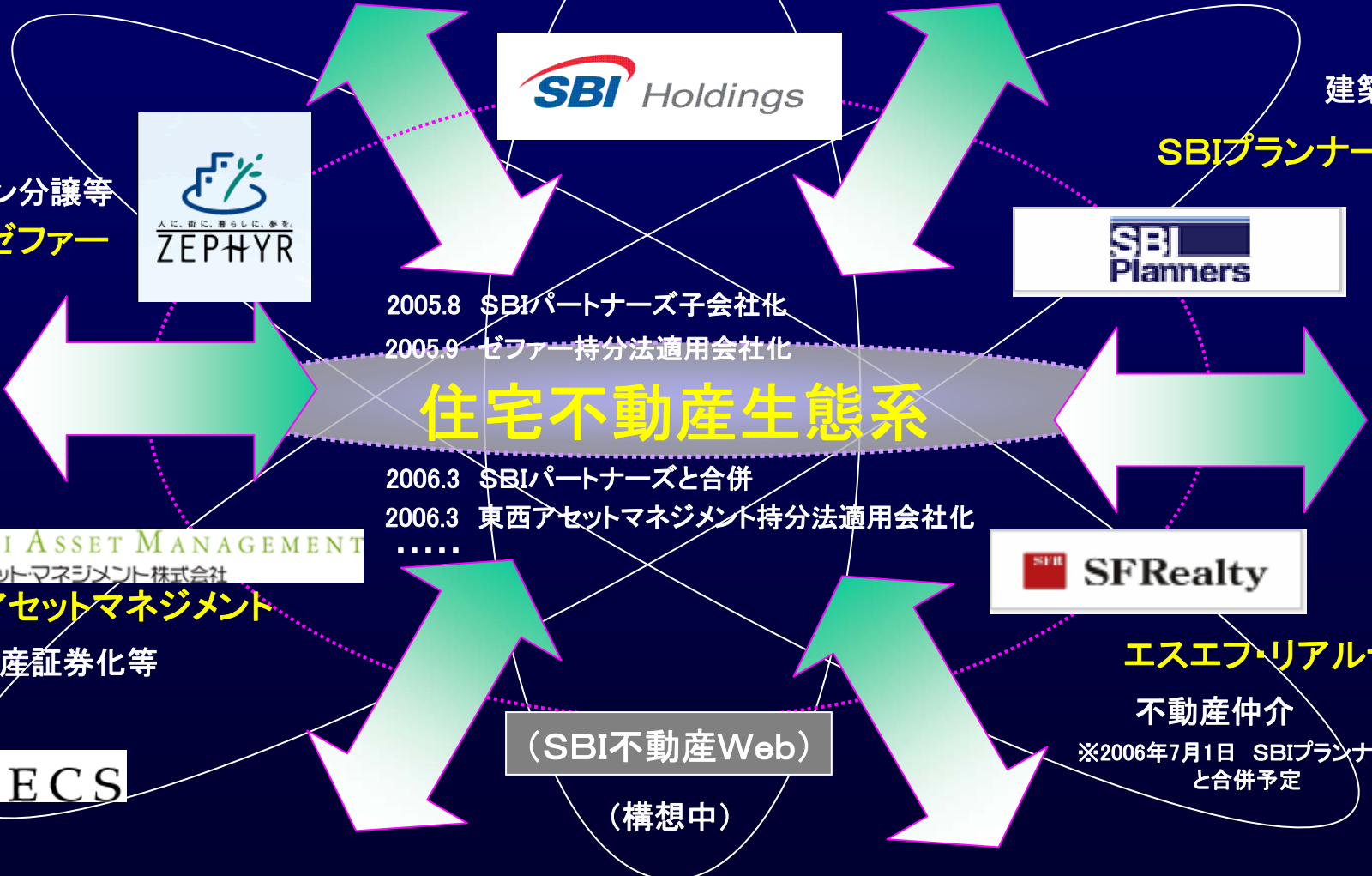
## 東西アセットマネジメント

不動産証券化等



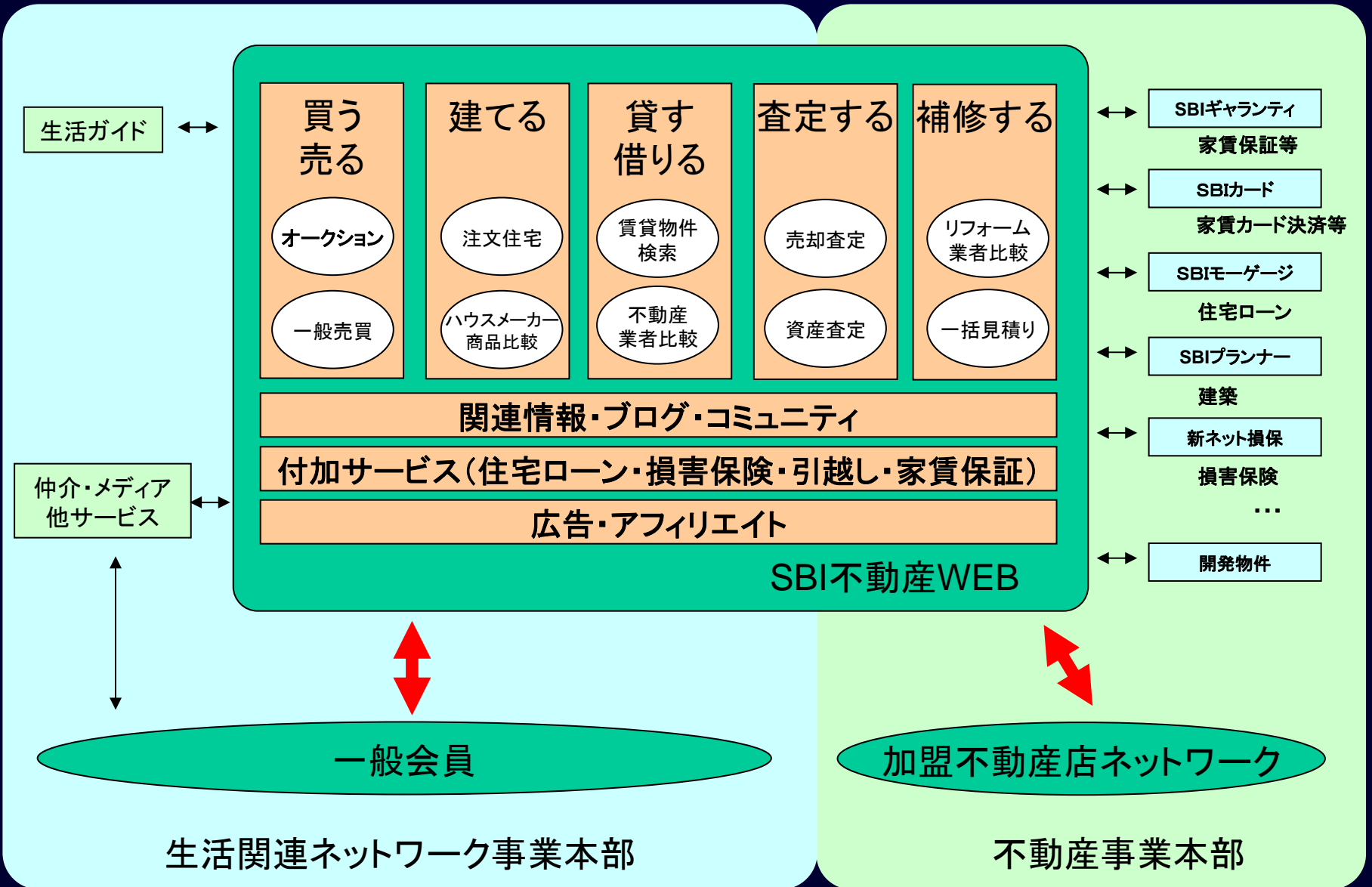
## ゼクス

不動産コンサルティング等





# ～不動産WEB 「SBI不動産ガイド」構想～



# デューデリジェンス・確認検査会社設立へ

デューデリジェンス・確認検査機能の追加による、住宅不動産生態系の拡充

新たに設立予定の企業

SBI DD  
(仮称)

SBI 確認検査  
(仮称)

Synergy

SBI Card

SBIギランティ

SBI  
Planners

SBI Holdings

SBI Mortgage

ZEPHYR  
人に、国に、豊かに、夢を

...

現在、住宅不動産生態系を構成する企業群

# 持分法適用会社ゼファーが好調

～ 不動産分譲事業が好調に推移、対前年比大幅な増収増益 ～

平成18年3月期の連結業績 (2005/4/1～2006/3/31)

(単位:百万円)

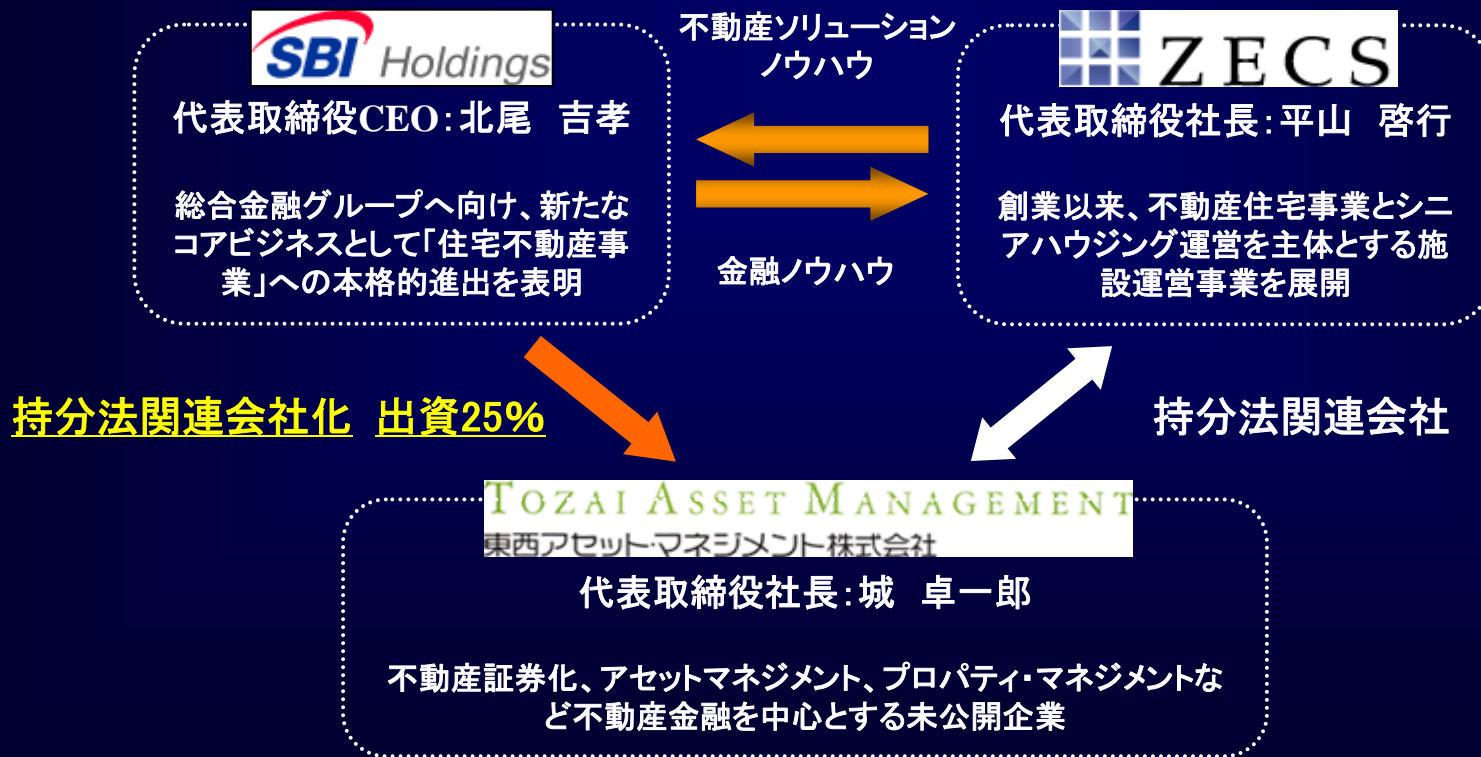
|       | 今期実績<br>(2006年3月期) | 対前年<br>増減率(%) | 前期実績<br>(2005年3月期) |
|-------|--------------------|---------------|--------------------|
| 売上高   | 95,707             | + 42.4        | 67,209             |
| 経常利益  | 8,208              | +62.2         | 5,062              |
| 当期純利益 | 4,365              | + 61.3        | 2,706              |

好調な大型  
物件販売



# 株式会社ゼクスとの同社グループ東西アセット・マネジメント株式会社への共同出資

不動産金融に強みを持つ東西アセットマネジメント株式会社への株式会社ゼクスとの共同出資を通じ、不動産ソリューションノウハウを吸収。将来的に両社の得意分野において発展的な相互協力も含めて検討。

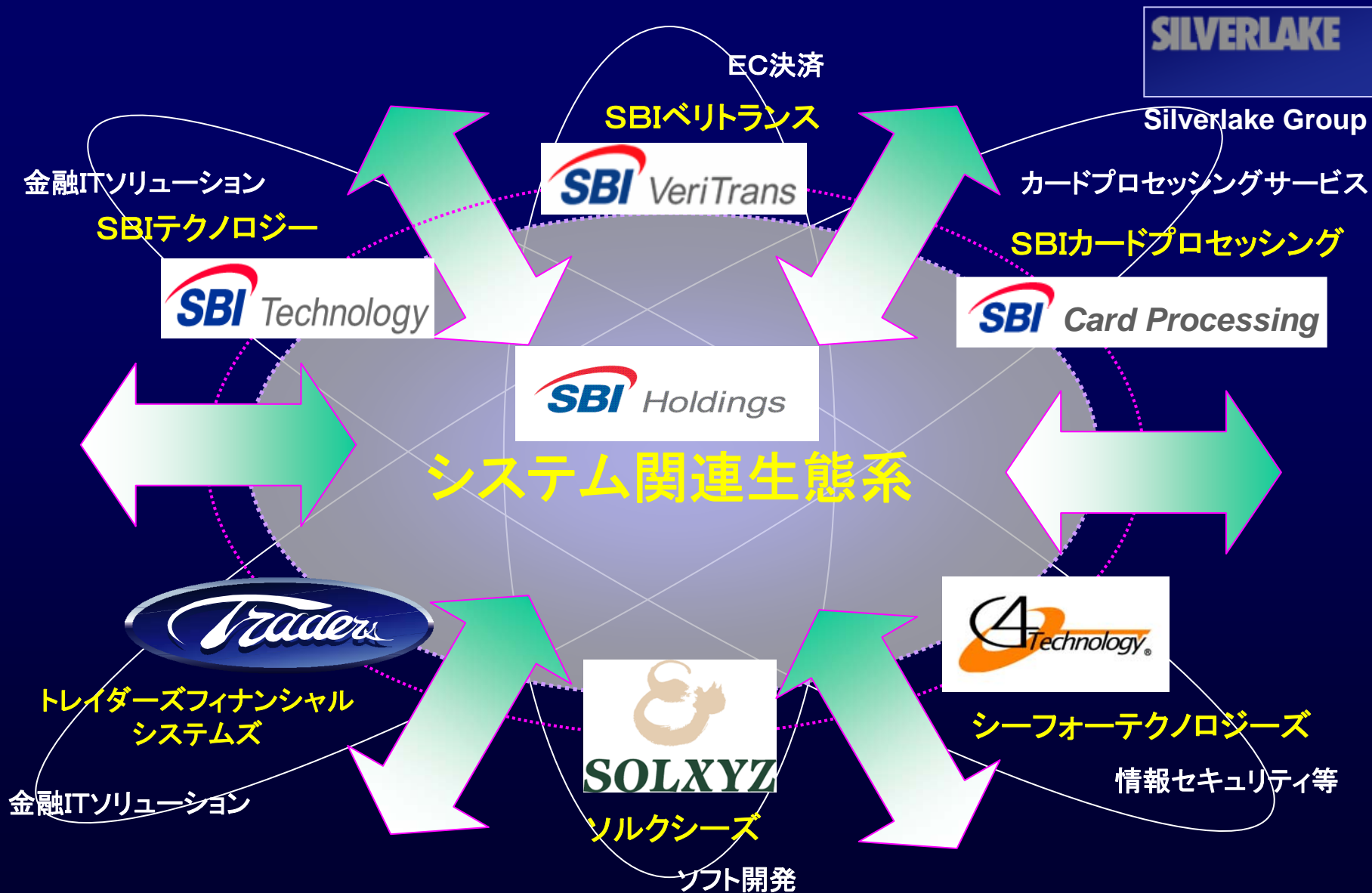


### ③ グループ内企業のシステム構築・維持管理に大きく貢献する システム関連分野における企業生態系の形成

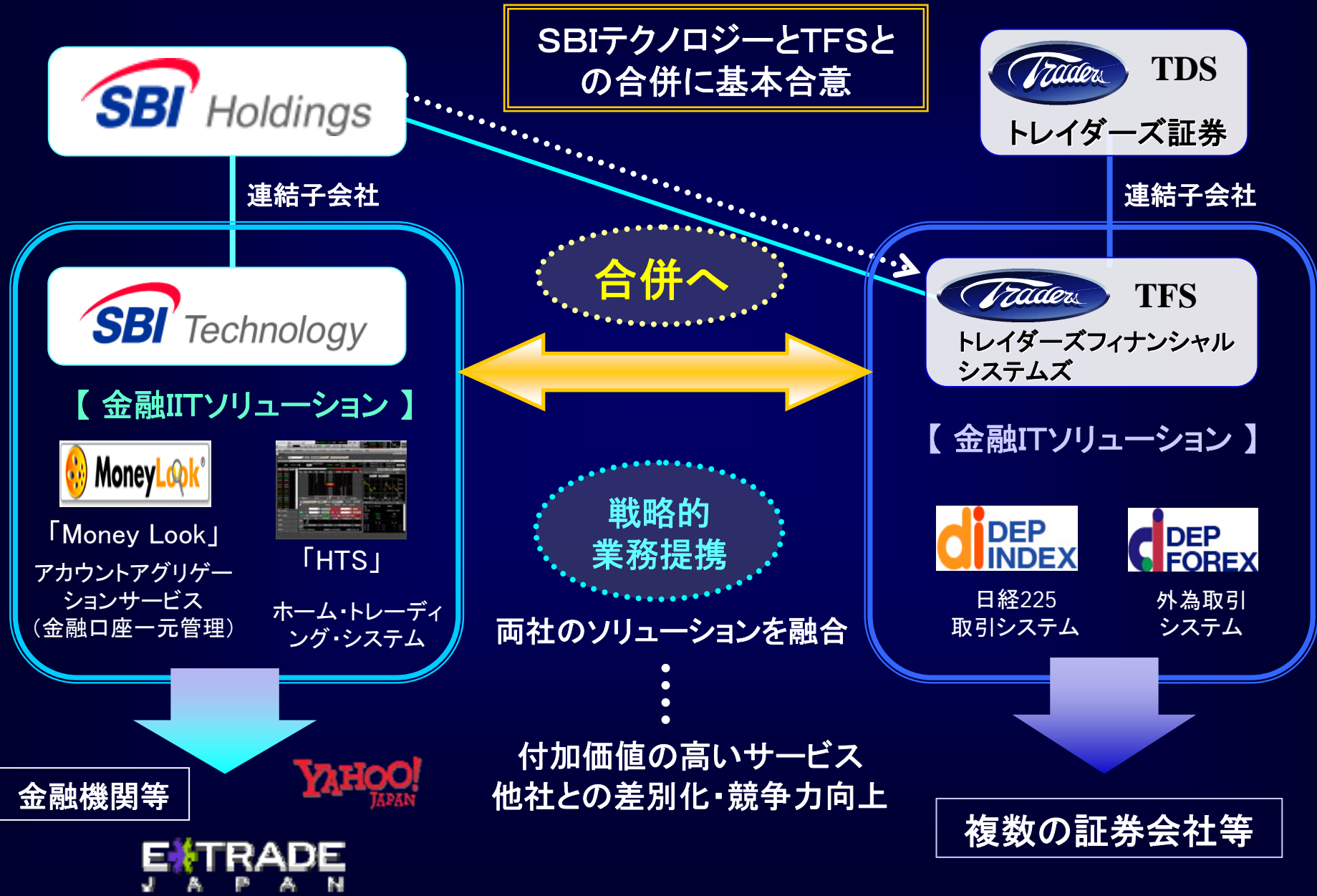
#### 【その狙い】

- ・ SBIグループ全体のシステムコストの削減
- ・ ネット銀行、ネット損保等大規模なシステム開発案件におけるキャパシティの確保
- ・ システム開発スピードの向上による新サービスの早期投入
- ・ 他社への開発ノウハウ流出可能性を排除

# システム関連分野においても企業生態系の構築を目指す



# トレーダーズ証券グループとの資本提携を強化



# シーフォーテクノロジーとの業務・資本提携

シーフォーテクノロジーの有する情報セキュリティ技術・ノウハウを活用し、SBIグループ主要30社へ同社のセキュリティコンサルティングを実施。更に高度な情報セキュリティインフラを整備し、競合他社との差別化・顧客信頼性の更なる向上を図る。





# ソフト開発会社ソルクシーズとの業務・資本提携

SBIホールディングスがソルクシーズ株式の21.4%を取得し、**持分法適用会社化**するとともに、SBIホールディングスとソルクシーズとの間で業務提携を行うことで合意。(2006年4月) 同社の持つ機動的なシステム開発力により、SBIグループ各社におけるシステム開発スピードの加速を目指す。



ソルクシーズ株式の21.4%を取得し、**持分法適用会社化**

資本提携



- 金融機関向けの受託開発を得意とする独立系システムインテグレーター

SBIグループ各社のシステム開発に際したコア・パートナーとしての活用

ソルクシーズのM&A戦略推進への協力

- 豊富な金融技術 & ネットワーク
- 金融関連リソース

# SilverlakeGroupとの合併会社設立

カードプロセッシングサービスを提供する新規事業へ参入するため、SilverlakeGroupと合併会社を設立し、日本における共同事業運営開始を合意

SBIグループ  
(SBIカード)



昨年・・・事業開始  
今夏・・・国際ブランドの  
ライセンスを取得予定

→ 本格的な事業展開  
を準備

SilverlakeGroup

- ・同業分野で優れたソリューション
- ・マレーシアとシンガポールに  
1社ずつ上場企業を有す  
さらに2社が上場を申請中

→ 世界各地に  
グループ展開を推進

SBIカードプロセッシング株式会社設立

自社ブランド  及び他のカード会社・銀行等の

カード決済システム運営も受託する強固な事業基盤の確立を目指す

# 第3部

## 5つのKey Questions

# 5つのKey Questions

- ① 株価についてはどう考えていますか？
- ② 株主還元はどう考えていますか？
- ③ 有望な新規事業にはどのようなものがありますか？
- ④ グループ企業の新規上場予定はありますか？
- ⑤ 業容が急拡大してますが、人材の育成はどのように考えてますか？

# 5つのKey Questions

- ① 株価についてはどう考えていますか？

# 過去3年間力強く成長を遂げてきたSBIグループ

TOPIXがバブル崩壊後安値を付けた  
2003年3月11日から2006年4月6日までの  
騰落率ランキング

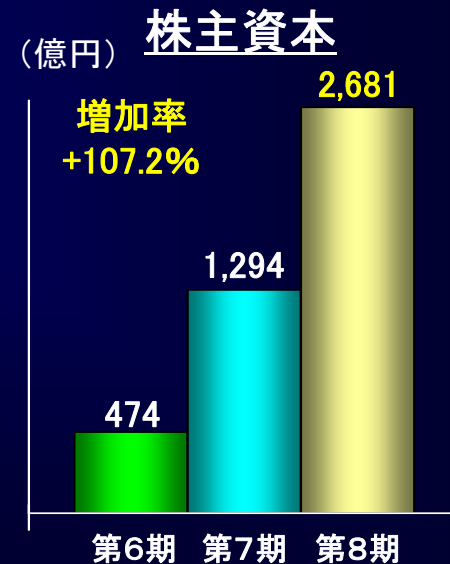
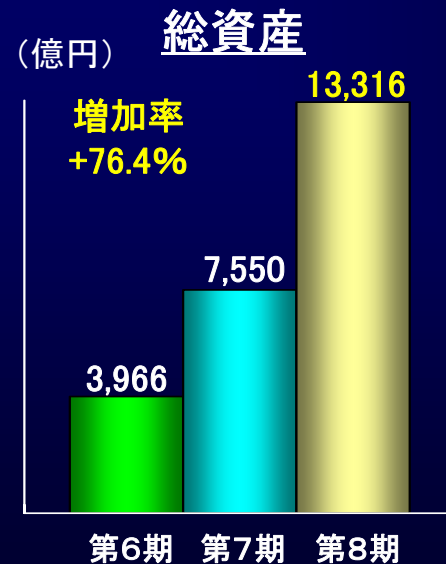
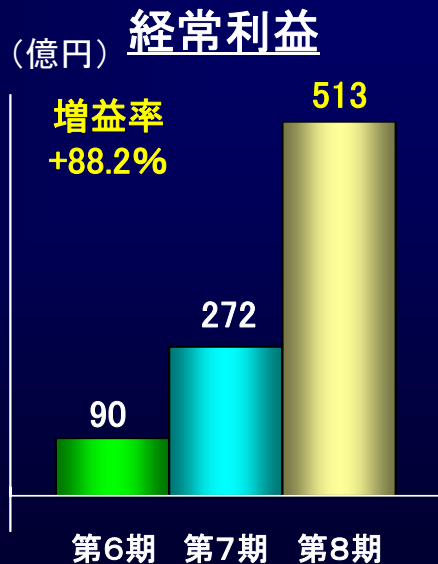
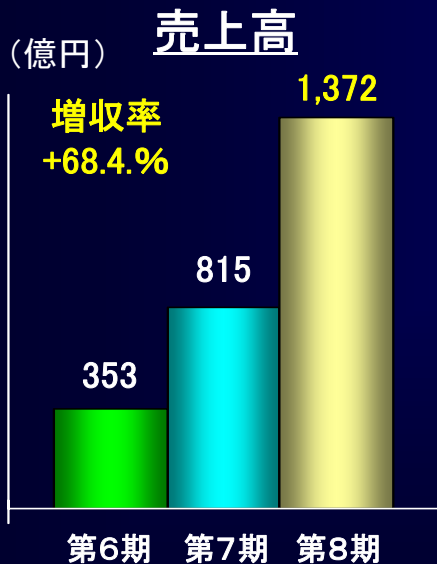
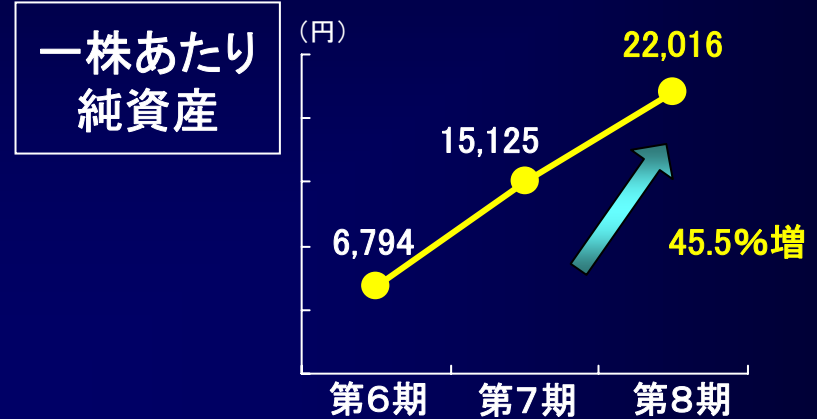
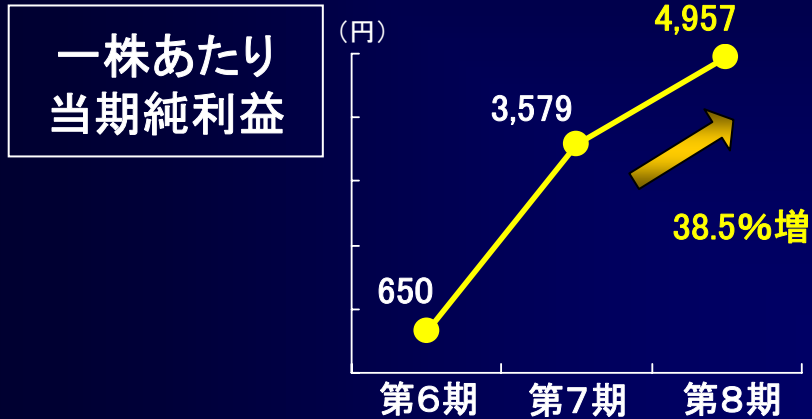
| 順位 | 銘柄名         | %       |
|----|-------------|---------|
| 1  | U R B A N   | 4106.21 |
| 2  | 住 友 チ タ     | 3257.44 |
| 3  | パ シ フ ィ ッ ク | 2328.57 |
| 4  | ト プ コ ン     | 1541.30 |
| 5  | S B I       | 1469.12 |
| 6  | 大 京         | 1446.67 |
| 7  | 住 友 重       | 1434.21 |
| 8  | 山 陽 鋼       | 1178.79 |
| 9  | 大 塚 商 会     | 1033.67 |
| 10 | ポ イ ン ト     | 1013.60 |

SBIホールディングスは  
騰落率ランキング  
上昇率 第5位

記事

# 業績・財務構造の推移

一株あたりの価値を高めながら、さらなる成長ステージに向けた飛躍を目指す

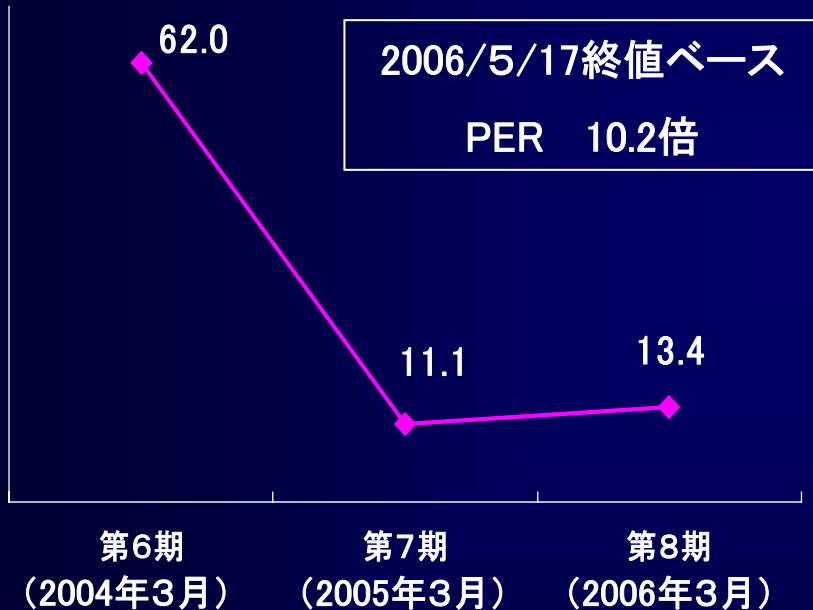


# PER・PBRの推移

## 現在は歴史的安値圏

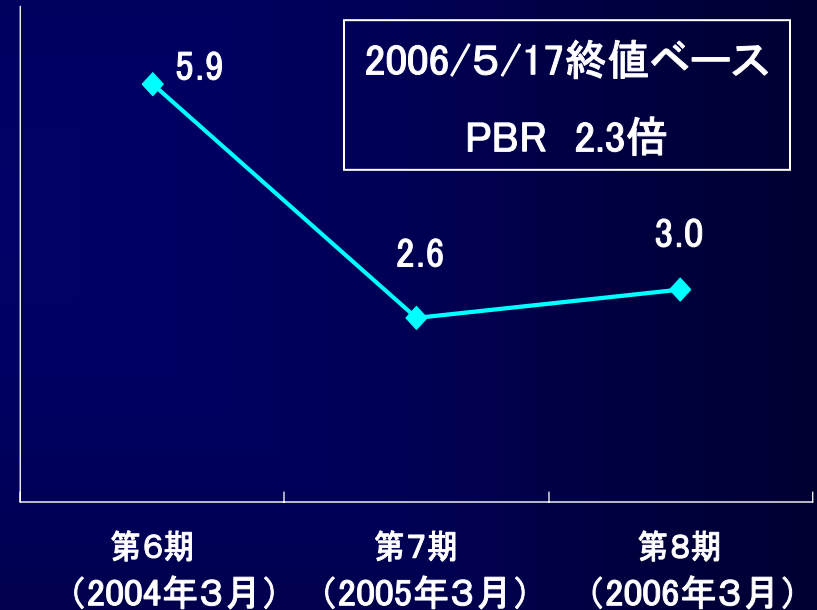
### PER(株価収益率) ※1

(倍)



### PBR(株価純資産倍率) ※2

(倍)



※1 株価収益率(第6期、第7期及び第8期) = 各期末当社東証終値 ÷ (一株あたり当期純利益)

株価収益率(2006/5/17終値ベース) = 2006/5/17当社東証終値 ÷ (一株あたり第8期当期純利益)

なお第8期末株価終値は66,600円、2006/5/17株価終値は50,900円

※2 株価純資産倍率 = 各期末当社東証終値 ÷ (一株あたり期末純資産)

株価純資産倍率(2006/5/17終値ベース) = 2006/5/17当社東証終値 ÷ (一株あたり第8期末純資産)



# マザーズ指数、ヘラクレス指数との相関関係

2005年11月～2006年4月の半年間

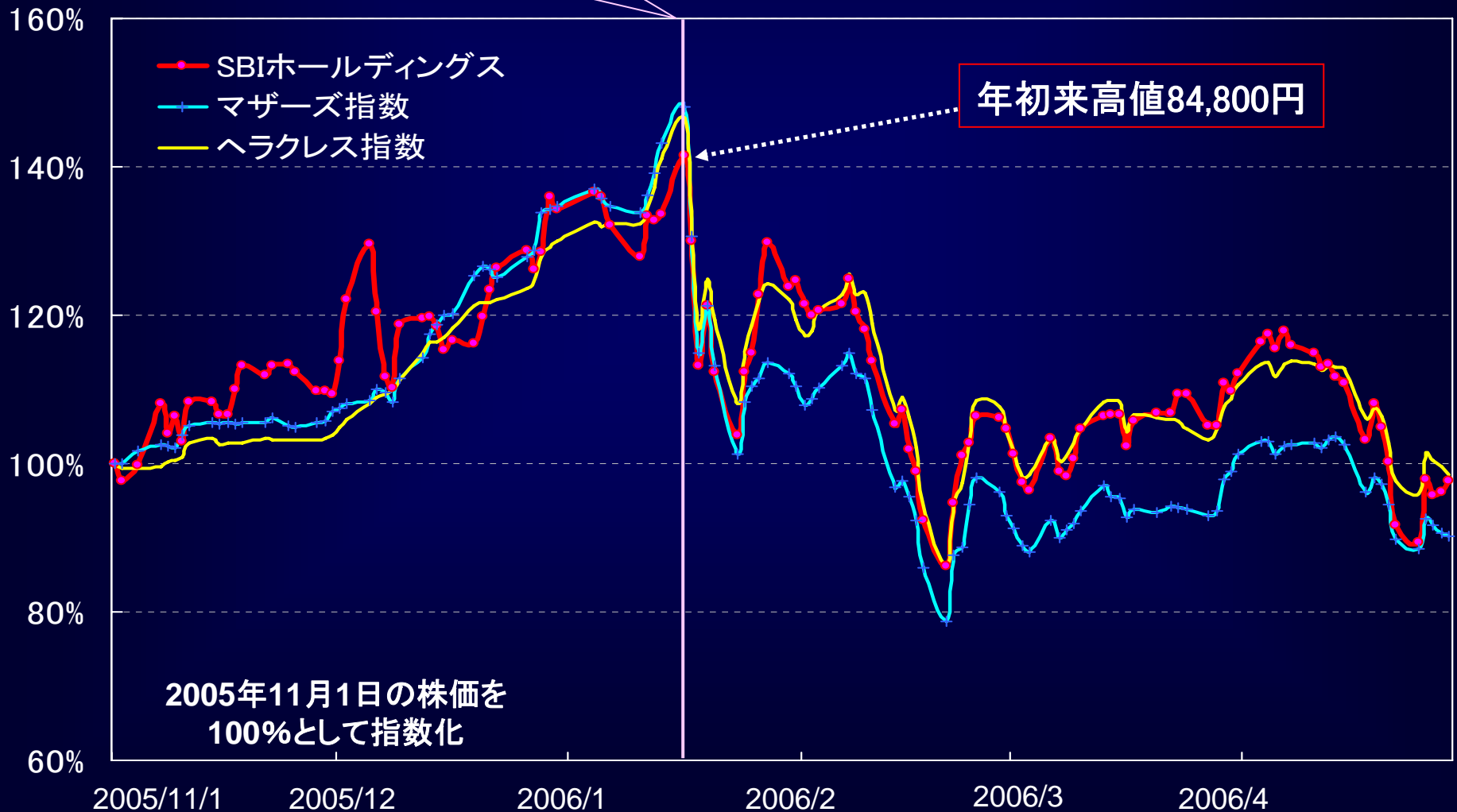
相関係数**0.90**(マザーズ) **0.91**(ヘラクレス)



ライブドアショック以降

相関係数**0.90**(マザーズ) **0.95**(ヘラクレス)

2006/1/17  
ライブドア・ショック



# 中型株指数 (TOPIX Mid400) との相関関係

2005年11月～2006年4月の半年間

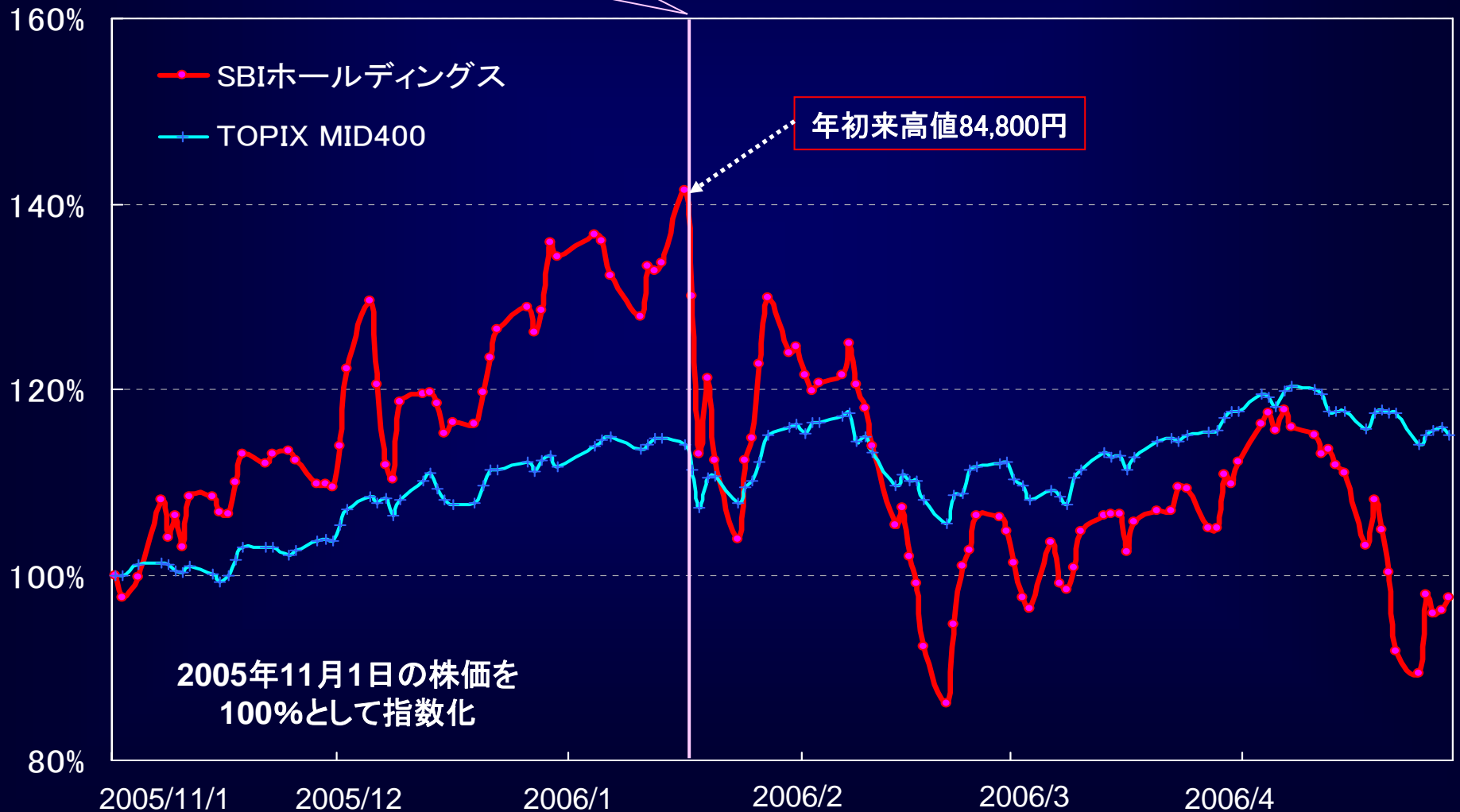
相関係数 **0.24**



ライブドアショック以降

相関係数 **0.46**

2006/1/17  
ライブドア・ショック



# 小型株指数 (TOPIX Small) との相関関係

2005年11月～2006年4月の半年間

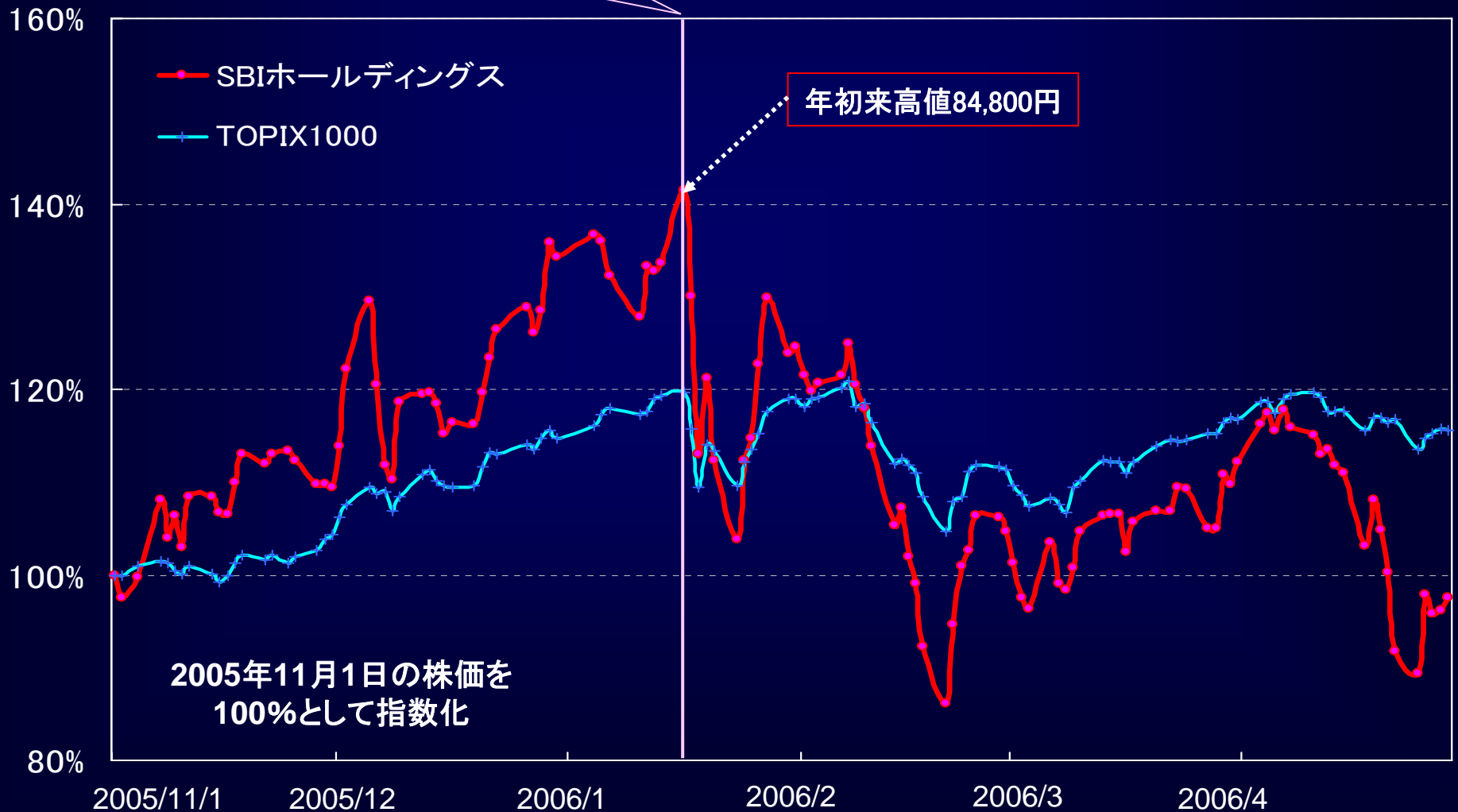
相関係数 **0.42**



ライブドアショック以降

相関係数 **0.69**

2006/1/17  
ライブドア・ショック



# ソフトバンク株価との相関関係

2005年11月～2006年4月の半年間

相関係数0.73



ボーダフォン買収発表以降

相関係数0.87

2006/1/17  
ライブドア・ショック

2006/3/17  
ボーダフォン買収発表

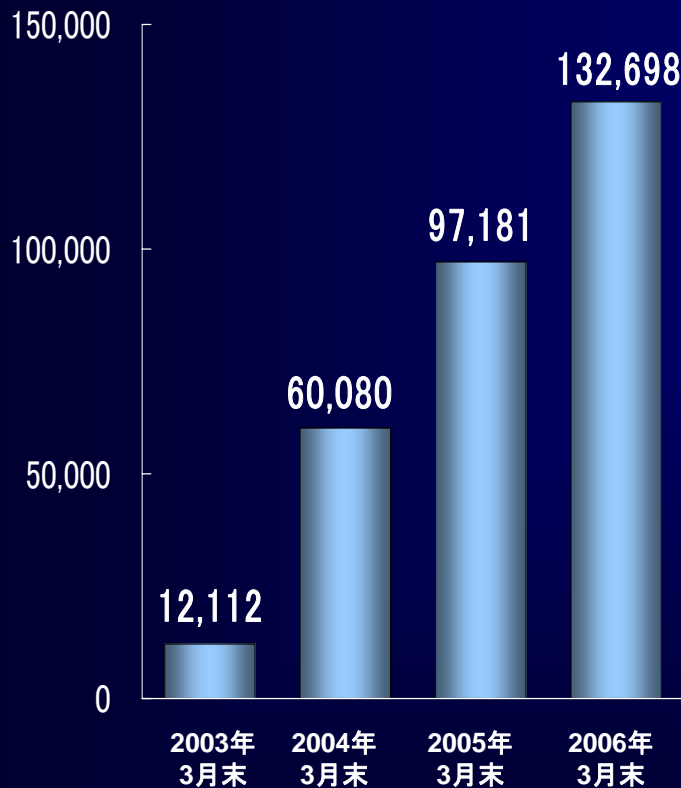


# 株主構成の推移

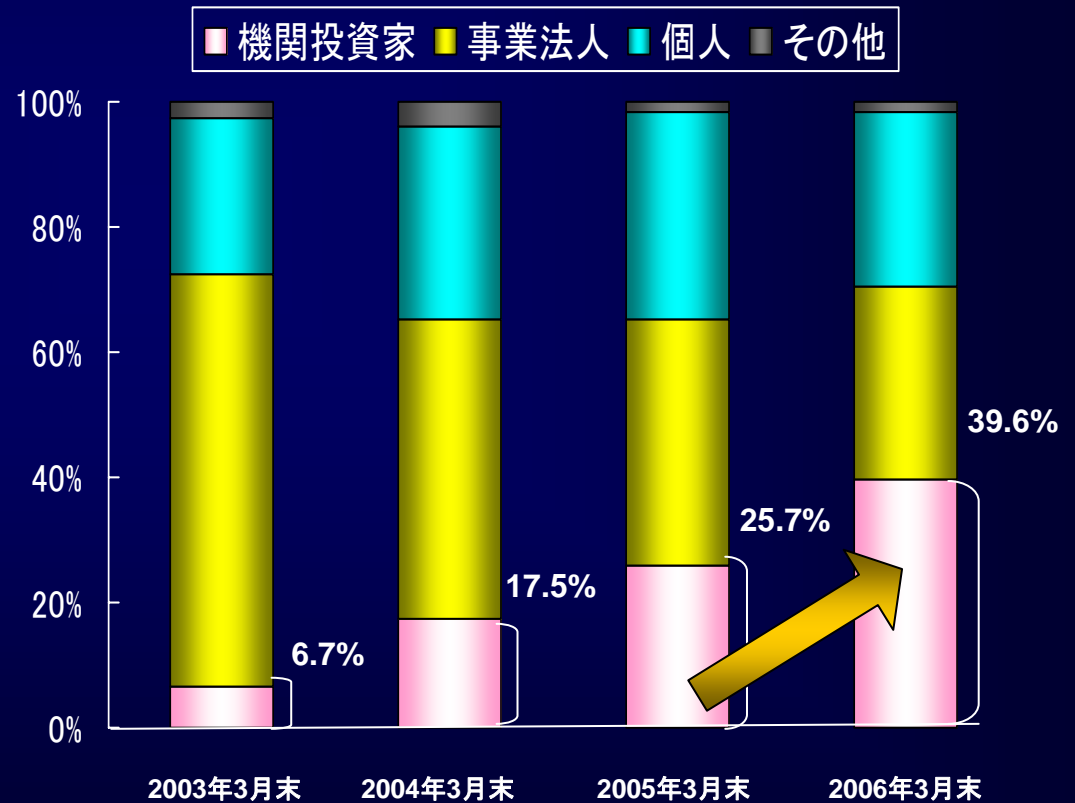
機関投資家比率は、直近1年で25.7%から39.6%へ上昇  
うち外国人の比率は、9.86%から19.46%へ大きく増加

(単位:名)

## 株主数の推移



## 株主構成比率の推移



(2006年3月末 ソフトバンク・エーエム議決権比率 26.6%)

# ネット企業各社直近決算が示すもの

～競争の結果、勝ち組と負け組が鮮明になりつつある～

明

暗

・SBIホールディングス

H18年3月通期

経常利益513億円(88.2%増益)

・ソフトバンク

H18年3月通期

経常利益274億円(黒字転換)

・サイバーエージェント

H18年3月中間期

経常利益12億円(62.3%増益)

・ヤフー

H18年3月通期

経常利益798億円(32.5%増益)

・USEN

H18年2月中間期

経常利益△19億円(赤字に)

・インデックス

H18年2月中間期

経常利益28億円(27.6%減益)

・GMOインターネット

H18年12月期第1四半期

純利益0.3億円(92.7%減益)

ライブドア事件等以後、  
株価は低迷  
監査法人は監査強化

監査強化後も好業績を示す企業の  
株価は回復へ向かうか・・・

# 5つのKey Questions

② 株主還元はどう考えていますか？

## i) SBIグループ 2006年3月期の株主還元実績



# SBIホールディングス 2006年3月期利益配当案

2006年2月22日：

配当予想の上方修正(合併記念配当の実施)を決議

前期比+250円(71%増)となる大幅増配へ

(1株につき)

|                    | 中間 | 期末     |      | 年間          |
|--------------------|----|--------|------|-------------|
|                    |    | 合併記念配当 | 普通配当 | 1株につき       |
| 2006年2月22日<br>上方修正 | —  | 100円   | 500円 | <u>600円</u> |
| 2005年3月期実績         | —  | —      | 350円 | 350円        |

# イー・トレード証券 今期の利益配当案

普通株式1株につき、1,600円の普通配当を実施する予定。(2006年2月1日効力発生 of 1対3の株式分割考慮後。) 分割考慮前では4,800円となり、**前期の2,300円(記念配当含む)から2,500円増額**の大幅増額配当となる。普通配当では前期比3倍以上。

|        | 2006年3月期<br>(今期) |         | 2005年3月期<br>(前期) |
|--------|------------------|---------|------------------|
|        | 1株につき<br>(分割考慮後) | (分割考慮前) | 1株につき            |
| 普通配当   | 1,600円           | 4,800円  | 1,500円           |
| 上場記念配当 | —                | —       | 800円             |
| 合計     | 1,600円           | 4,800円  | 2,300円           |

※2006年2月1日をもって普通株式1株を3株に分割。

# モーニングスター 今期の利益配当案

2006年1月19日発表

前期比実質78%増となる大幅増配を実施

(1株につき)

|       | 2005年12月期<br>(今期) | 2004年12月期<br>(前期)   |
|-------|-------------------|---------------------|
| 期末配当金 | 400円              | 450円<br>(分割考慮後225円) |

# SBIベリトランス 株式分割実施

2006年1月23日発表

1対3の株式分割を発表

基準日：2006年3月31日

効力発生日：2006年4月1日

ii ) SBIホールディングス 2007年3月期配当について

# SBIホールディングスの利益配分基本方針

当社は、株主の皆様に対する安定的かつ適正な利益還元を目指すとともに、内部留保による競争力・収益力の向上に向けた事業投資を積極的に行うため、**グループ企業を含めた連結業績を総合的に勘案**したうえで配当を実施することを基本方針としております。

# 既に発表済みのSBIホールディングス計上利益(連結)

2006年4月3日発表:

ITファンドによるイー・トレード証券株式売却

税引き前利益に与える影響額: 598億円

2006年4月26日発表:

SBIキャピタル運営ファンドによる建設足場大手「信和」株式の譲渡

税引き前利益に与える影響額: 68億円

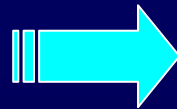


計666億円

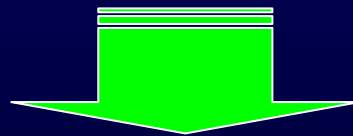
# SBIホールディングス単体の収益力の増強

(2006年3月期単体業績)

|          |       |
|----------|-------|
| 売上高      | 218億円 |
| 経常利益     | 58億円  |
| 当期純利益    | 111億円 |
| 予定配当金総額  | 73億円  |
| 単体配当性向 ※ | 50.5% |



2006年3月1日  
ファイナンス・オール合併  
SBIパートナーズ合併  
SBI証券完全子会社化



事業持株会社化によりSBIホールディングス単体の  
収益力も向上し、配当原資も増大していく

(2006年3月末配当原資 約798億円)

※(1株あたり年間配当金600円)÷(期中平均株式数に基づく1株あたり当期純利益1,187円83銭)  
により算出されるため、当期純利益÷予定配当金総額とは数値が異なります。

# 5つのKey Questions

- ③ 今来期の有望な収益源・新規事業にはどのようなものがありますか？



# 今来期以降も続く多様な収益源・有望新規事業

## 【アセットマネジメント事業分野、住宅不動産事業分野】

- ・年間20社程度を見込むファンド及び直接投資先のIPO
- ・モバイル、不動産、バリューアップファンド等新規ファンド設立
- ・比較的短期で成果の見込める中国へのファンド投資
- ・不動産事業の本格的始動(オークション開始・マカオへも投資検討)

## 【ファイナンシャル・サービス事業分野、非金融事業分野】

- ・2007年度上期ネット銀行営業開始予定
- ・2006年6月1日にネット損保設立準備会社を新設予定
- ・SBIモーゲージが経常利益30億円が視野に(前期11.8億円)
- ・SBIカードとSBIモーゲージの協業による新ローン商品の開発
- ・SBIイコールクレジットが2007年3月期通期黒字化見込み
- ・非金融マーケットプレイス事業の成長
- ・コーヒーショップ、不動産仲介業者、独立FPを  
主要チャネルとするSBIマネープラザの展開

等々...

収益源・有望新規事業例:

# 今来期も見込まれるファンド投資先のIPO

新規公開又はM&AによるExit社数(直接投資分及び全運営ファンド合算)

2006年 5月18日現在

|              | 既公開              |                  | 公開予定        |
|--------------|------------------|------------------|-------------|
|              | ~2004年12月        | 2005年1月~12月      | 2006年1月~12月 |
| 既公開および公開予定社数 | 77社<br>(内、海外38社) | 12社<br>(内、M&A1社) | 20社*        |

20社への  
投資金額  
約87億円



**売却想定額は  
4.8倍の413億円**

2006年4月6日に(株)ゴルフ・ドウが名証セントレックスに上場しております。

| 投資先企業名    | 公開時期 | 公募価格(A) | 初値(B)   | 上昇率(%)<br>(B/A) | 2006/4/18<br>終値(C) | 上昇率(%)<br>(C/A) | 公募価格対<br>簿価比(倍) | 初値対<br>簿価比(倍) |
|-----------|------|---------|---------|-----------------|--------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| (株)ゴルフ・ドウ | 4月   | 170,000 | 407,000 | 239.4           | 351,000            | 206.5           | 0.5             | 1.1           |

5月31日にSBIフューチャーズ(株)が大証ヘラクレスに上場予定。

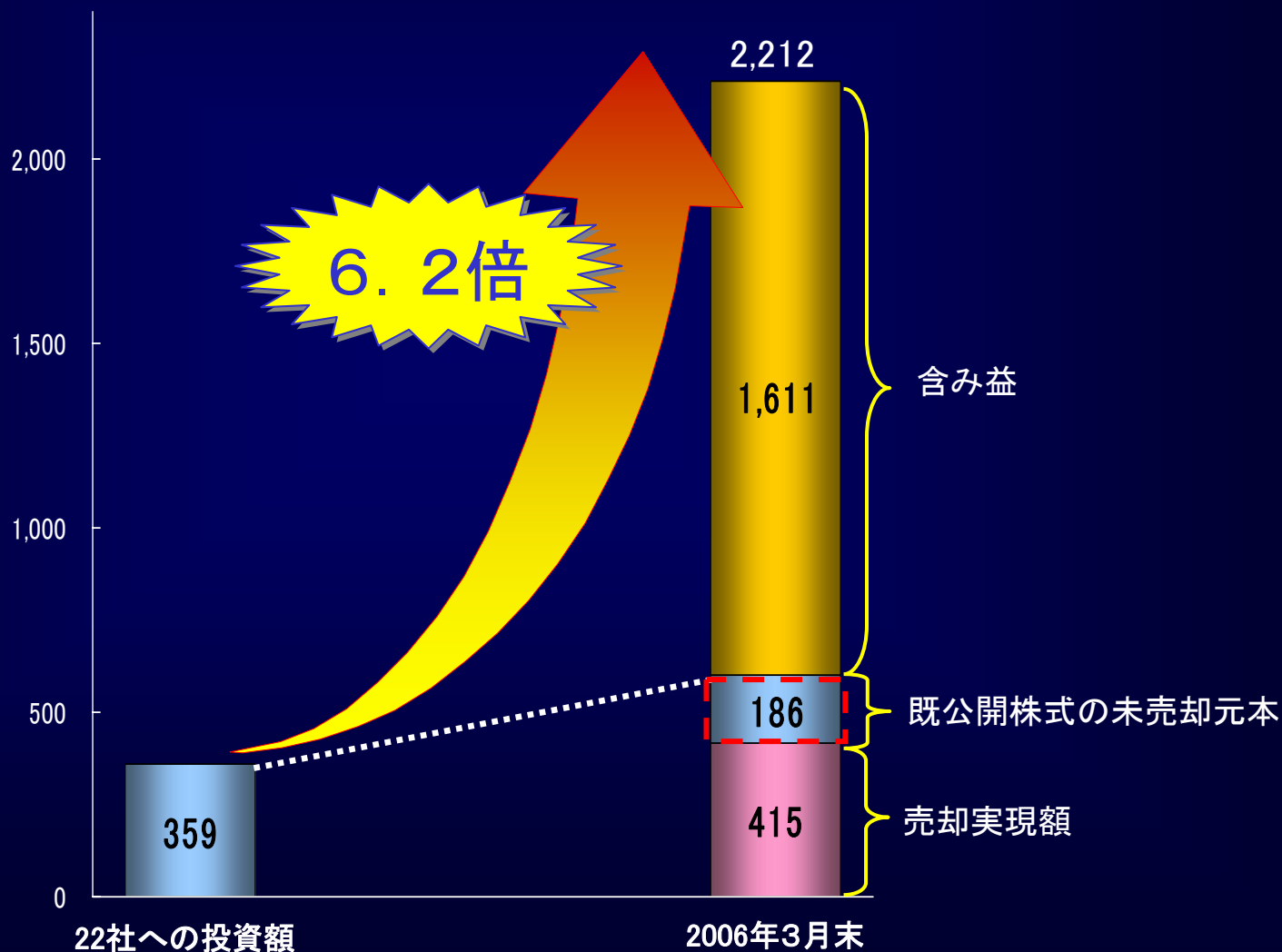
別途、上場申請済み2社。

\* IPO予定社数には、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。  
・ IPO済みおよびM&Aの社数はすでに売却済みのものを含まず。

# IPO投資先のパフォーマンス (ITファンド実績)

2004年1月～2006年3月にITファンドから  
IPOした22社は投資額の6.2倍に

(単位: 億円)



# 新ネット銀行の数値目標

## 早期黒字化による収益貢献・時価総額貢献を目指す

開業： 2007年度上期予定

口座数： 3期目50万  5期目70万  7期目80万

収益： ① 3期目黒字化

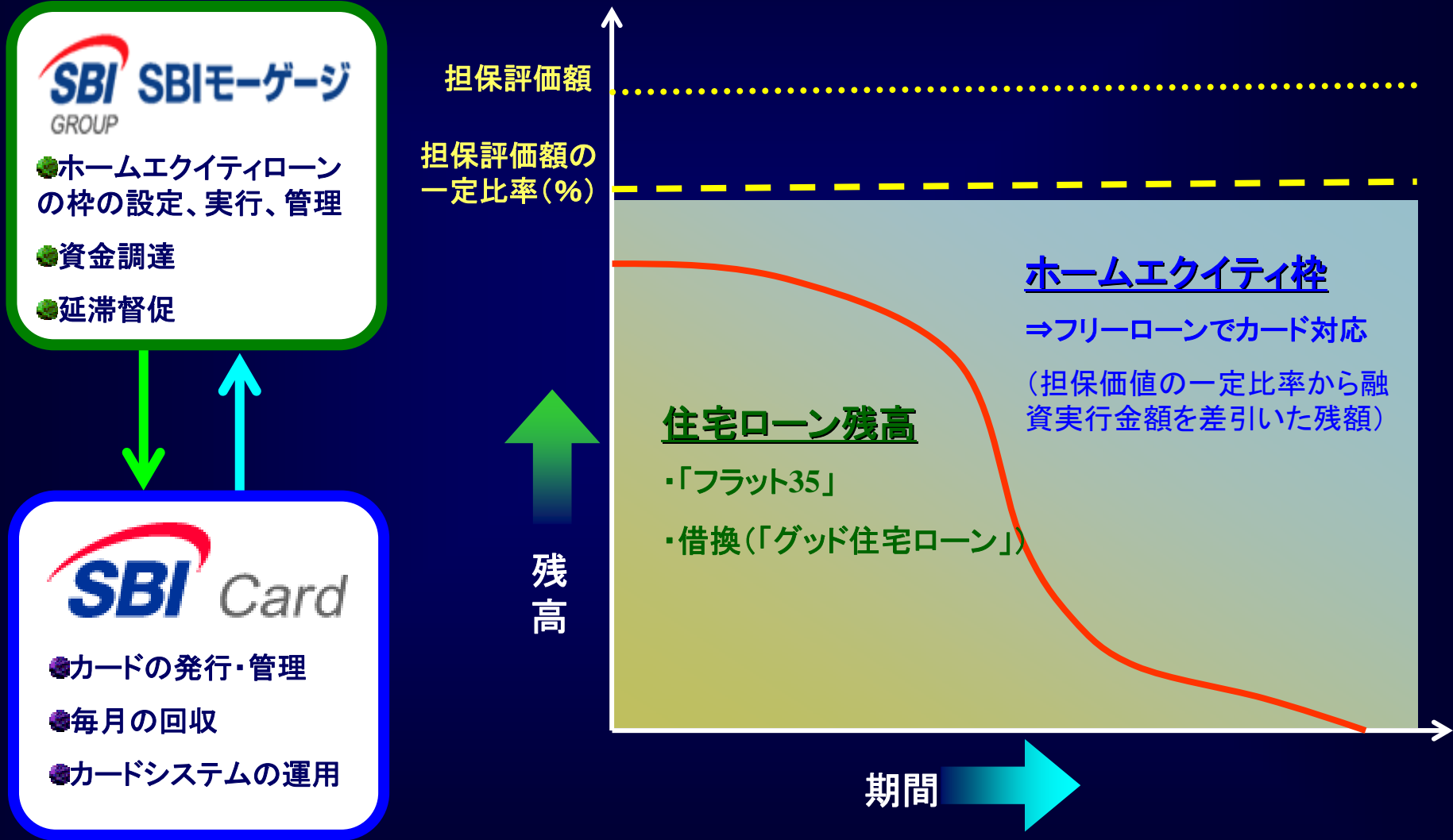
② 5期目業務純益 50億円  累損解消

③ 7期目業務純益 100億円を目指す

収益源・有望新規事業例:

# SBIカードとSBIモーゲージの協業による新ローン商品の検討

## ①新商品「ホームエクイティローン(案)」でカードによるローンの実行、返済を可能に



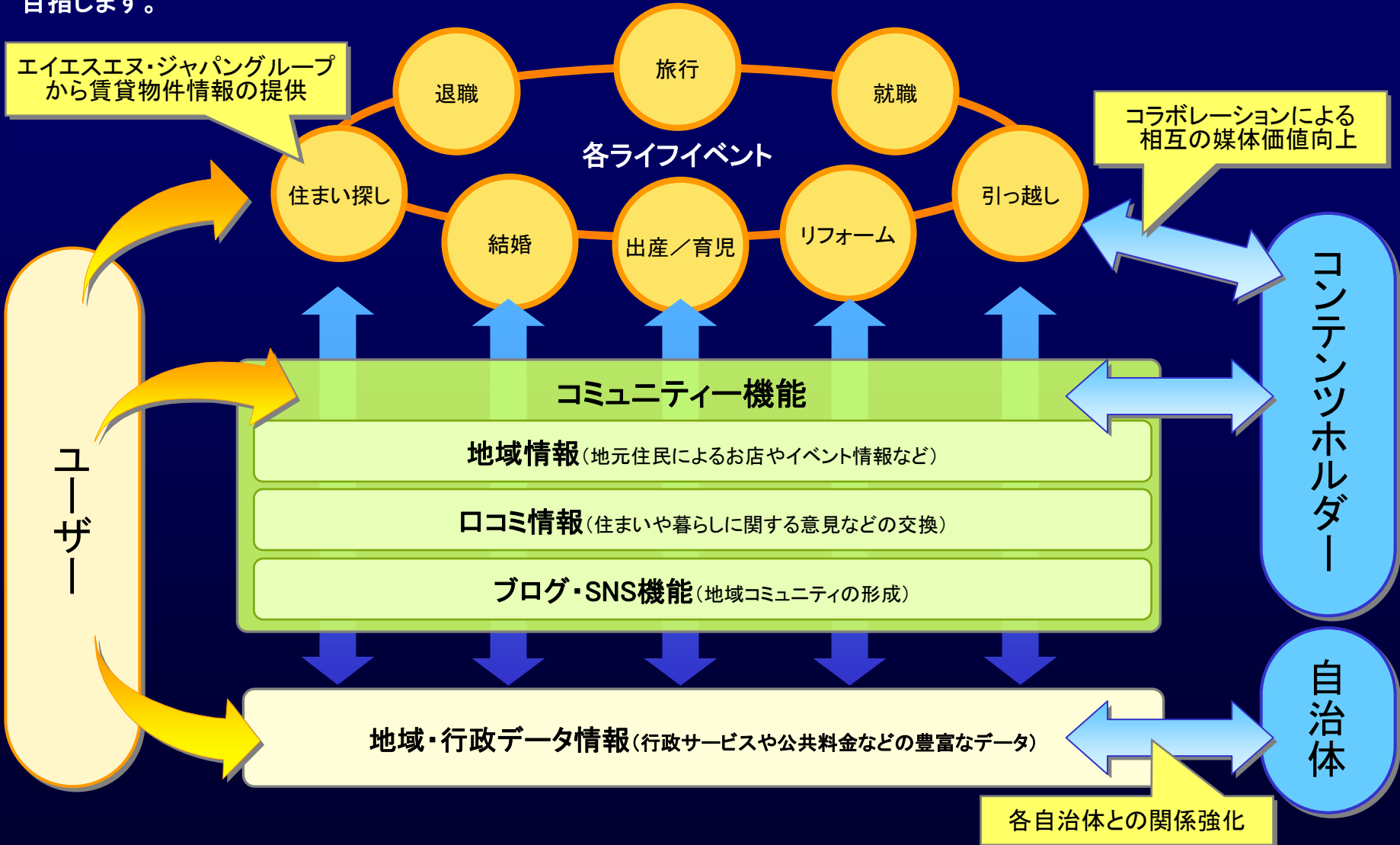
## ②「リバースモーゲージローン」の導入も検討

収益源・有望新規事業例:

# エリア「ガイド」情報サイト



行政サービス情報や地域密着情報をコアインフォメーションとして、様々なライフイベントとコミュニティを連携した新たな生活情報の発信や、引っ越し、不動産、ローンなど、ライフサイクルに必要なサービスを提供する【エリアポータルサイト】の実現を目指します。



# 5つのKey Questions

④ グループ企業の新規上場予定はありますか？

# 今後のグループ企業上場の基本観

## グループ全体にとっての中長期的な観点



### 【株式公開したほうが良いグループ企業が満たすべき要件】

- ①システムを中心とした大規模な設備投資を継続的に行うことが必要であったり、多額の運転資金を必要とし、事業の拡大に伴って資本の増加が必要な場合(例:イー・トレード証券)
- ②その会社の事業が中立性を要求される場合(例:モーニングスター、ゴメス・コンサルティング)
- ③グループ内企業間でのシナジー効果が薄く、グループの事業ポートフォリオの観点から公開して株主価値を顕在化させたほうが良い場合や、グループ戦略上その企業の戦略的重要性が低下した場合



# SBIフューチャーズの株式新規公開

**2006年5月31日 大証ヘラクレス市場に上場予定**



## 【スケジュール】

新規上場承認日 : 2006年4月21日

仮条件決定日 : 2006年5月10日

需要予測期間 : 2006年5月12日～18日

公開価格決定日 : 2006年5月19日

**公開価格は仮条件上限の170,000円で決定**

公開予定日 : 2006年5月31日

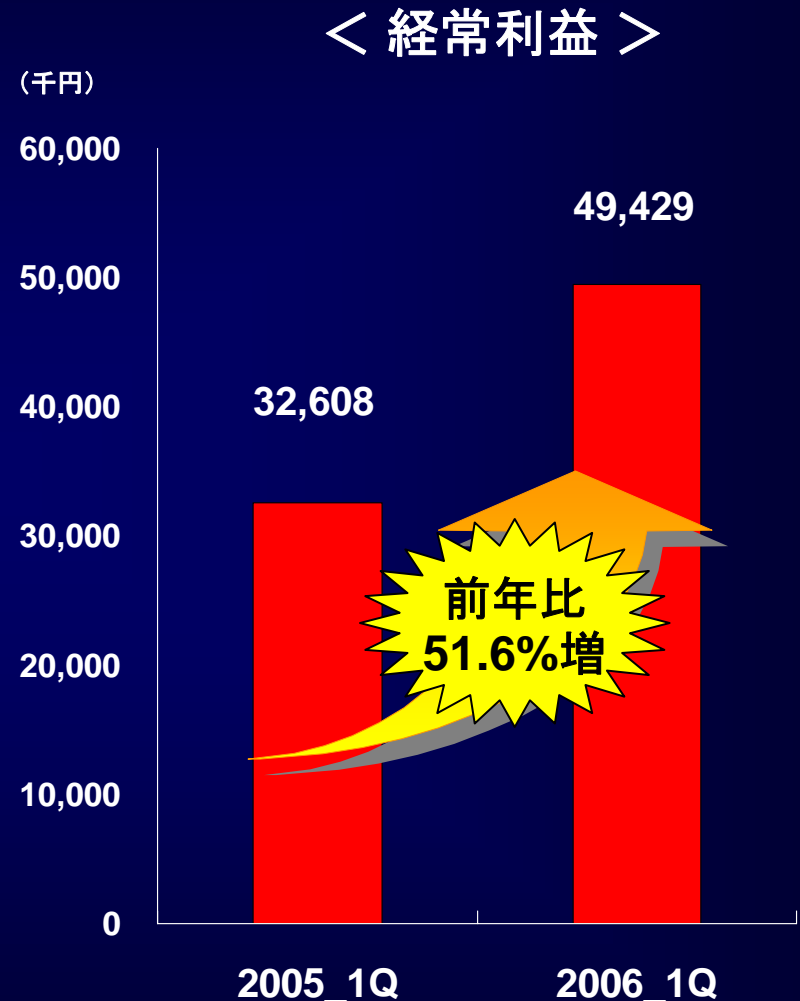
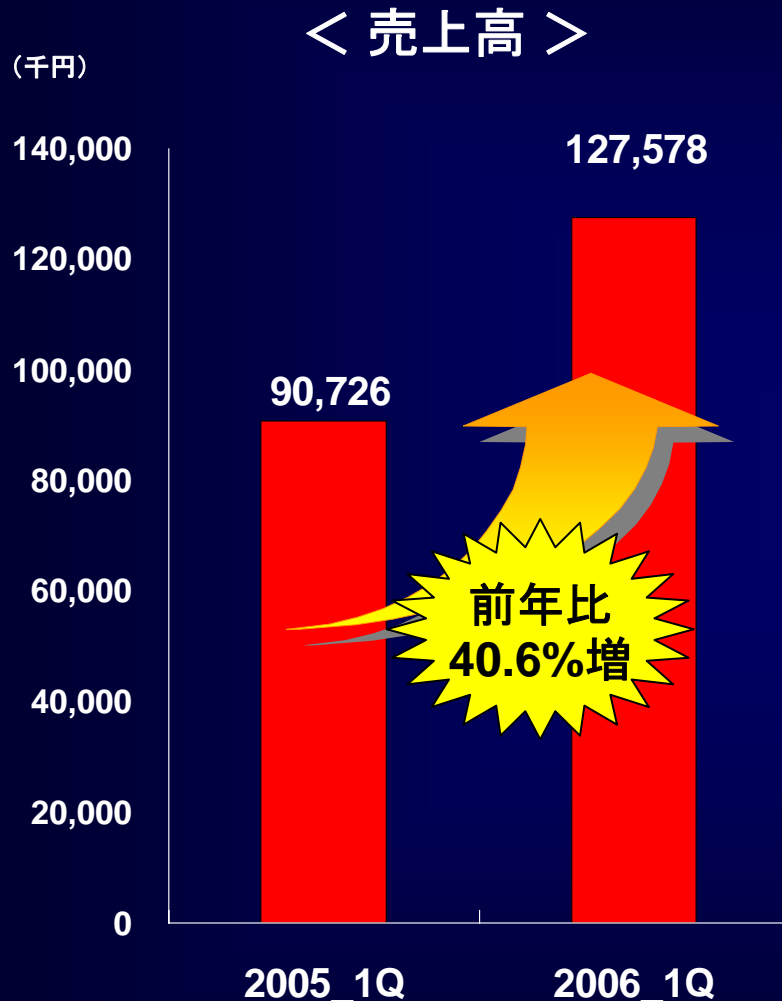


設立年月日 : 2000年10月13日

事業の内容 : インターネット及びコールセンターを通じた商品取引受託業務

業種・コード番号 : 証券・商品先物取引業 8735

# ゴメス・コンサルティング単体の業績推移



— 株式公開準備中 —

# 急増する調査対象サイト数

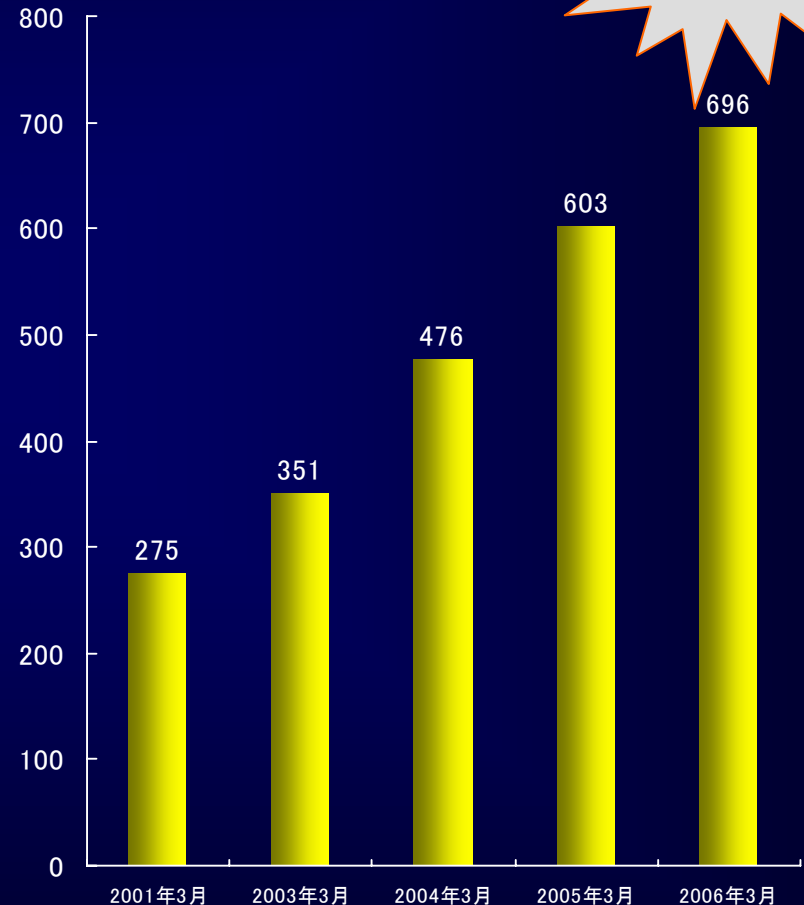
2005年3月末:46カテゴリ  
(調査対象サイト数:696サイト)

ECマースランキング  
オンラインバンキング  
オンライン専業銀行・支店  
オンライン証券 **New!**  
総合証券オンライン **New!**  
クレジットカード  
商品先物取引  
海外ツアー旅行  
国内ツアー旅行  
海外航空券  
国内航空券  
国内宿泊予約  
新築不動産情報 **New!**  
中古不動産情報 **New!**  
賃貸不動産情報 **New!**  
不動産分譲  
転職情報  
人材派遣  
アルバイト情報  
自動車保険  
医療保険  
オンラインショッピング  
オンラインオークション  
公演チケット  
オンライン書店  
光接続プロバイダー  
中古車情報サイト  
自動車メーカー  
百貨店  
通販化粧品メーカー **New!**  
化粧品メーカー

モバイルサイトランキング  
モバイルオンラインバンキング  
モバイルオンライン証券  
モバイルクレジットカード  
モバイルアルバイト情報  
モバイル中古車情報  
モバイル公演チケット

IRサイトランキング  
IRサイト総合 **New!**  
銀行IR  
証券IR  
情報・通信業IR  
卸売業IR  
電気・ガス業IR  
小売業IR  
保険業IR  
陸運業IR  
空運業IR

## 調査対象サイト数の推移



696サイト

# E\*Trade Korea Co.,Ltd. の概況



2006年3月期に累損を一掃し、  
コスダック市場への公開準備に入る



## 決算概況 (2006年3月期)

(百万円)

|      |       |
|------|-------|
| 営業収益 | 5,202 |
| 営業利益 | 1,182 |
| 経常利益 | 1,189 |
| 当期利益 | 922   |

- ・国内オンライン売買最低手数料(株式:0.024%)
- ・オンライン投資相談(画像、音声、チャット)...

資本金 : 560億韓国ウォン

出資比率 : 87%

従業員 : 101名

口座数 : 96,711口座

(2006年3月末現在)

# 5つのKey Questions

- ⑤ 業容が急拡大してますが、人材の育成はどう考えてますか？

# 人材の育成①

## 初の新卒採用の開始

### 【新卒採用の狙い】

- ・ 急速に拡大するSBIグループの未来を担う優秀な幹部候補の確保
- ・ 独自の企業文化を育み、継承する人的資源の育成

**今春新卒43名を採用**

**来春は倍増の採用を予定**

# 人材の育成②

## SBIユニバーシティの設立

多彩な講師陣 (敬称略)

北尾吉孝

田坂広志

孔建

Steve Chang  
(Trend Micro創業者)

Joe Mansueto  
(Morningstar Inc.創業者兼CEO)

ベンチャー経営者

・

・

SBI  
UNIVERSITY

人間学

経営学

国際性

財務、経理、戦略  
マーケティング

グローバルな提携

アメリカ、中国、インドの大学、  
B-Schoolと連携模索



インターネットも駆使し、  
社外の人材も含めたオープン・ユニバーシティ  
志の高いビジネスパーソンのための知的鍛錬の場



SBIチャンネル

SBI Channel

SBIグループの情報を動画でお知らせいたします。



# SBIグループの事業戦略などをホームページにて配信中！ 相場の状況に応じた特別企画なども随時放送！



1月6日配信  
今年にかける



1月20日配信  
**特別企画**  
ライブドアショック  
について



1月30日配信  
SBI経営の原点



2月9日配信  
イー・トレード証券社長 井土太良

**Inside SBI**  
グループ企業トップに聞く



2月24日配信  
**特別企画**  
株式相場について



3月9日配信  
新生SBIグループの  
門出にあたって



3月30日配信  
損保会社設立とネット  
銀行のビジョン



2月17日配信  
旧ファイナンス・オール COO  
伊藤雅仁  
SBIモーゲージ COO  
円山法昭



3月20日配信  
SBIベリタランス COO  
沖田貴史  
SBIイコール・クレジット COO  
石井一君



*<http://www.sbigroup.co.jp>*